

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証  
Withコロナ/人生100年新時代における歯科衛生士養成専門  
学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

# 成果報告書

令和6年2月

公益社団法人福岡県歯科医師会

福岡歯科衛生専門学校

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

With コロナ / 人生 100 年新時代における歯科衛生士養成専門  
学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

発行日 令和6年2月

作成 公益社団法人福岡県歯科医師会 福岡歯科衛生専門学校

## 巻頭言

本校は、福岡県歯科医師会立の歯科衛生士養成校として、昭和44年に開校しました。以来、地域社会に貢献する歯科衛生士を育成する専門教育をおこない、県民の歯科保健向上に携わってきました。令和3年より文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の新規事業「専門学校と高等学校の有機的連携プログラム開発・実証」事業を委託され、事業推進の3年度に際しご挨拶申し上げます。

現在、超少子高齢化や人口減少、地域の格差問題や社会構造が変化する中、人々の健康は一層重要なものになっています。健康が労働の基となり地域産業を支え、健康に社会生活を営む事が経済を廻す原動力となり、ひいては社会保障にも大きく関わってきます。保健に関しては多方面から様々な取り組みがなされており、また今後は要介護高齢者等への体制強化が必要とされます。近年、全身の健康と疾病予防に「口腔の健康」が大きく影響することは様々なエビデンスで広く認識されるようになってきました。併せて歯科保健が社会全体や地域産業に大きく貢献することは周知の事となり、経済財政運営と改革の基本方針にも口腔健康管理の重要性が述べられています。

しかし、口腔健康管理を担う歯科衛生士の不足は全国において深刻な問題となっており（令和4年度歯科衛生士求人倍率23.3倍：全国歯科衛生士教育協議会調べ）一刻も早い対応が求められています。本事業は地域社会の健康を担う重要な人材である歯科衛生士を養成する、と同時に専門学校と高等学校が抱える課題を有機的な連携を持つ事ではじめて解決できるプログラムを開発実証してまいります。

専門学校の抱える課題と、このプログラムに求められるものとしては、入学前よりキャリアビジョンを明確にすることで高度な医療専門学習や臨地実習に積極的に取り組める者を増やし、さらには他の学生をも牽引し、卒業後は現場において指導者に成るべく人材を育成することです。一方、高等学校におけるプログラムは歯科衛生専門教育のみならず、主体性や自己管理能力、コミュニケーション能力といった非認知能力開発を取り入れることで汎用性を持たせ、キャリア選択や他の学習意欲向上にも有効な社会人基礎形成に結びつくものを開発いたします。

また、本事業は課題とされています高校生への歯科保健教育を導入いたします。平成26年の公益財団法人日本学校保健会「思春期の学校歯科保健推進委員会報告書」によりますと、中学生・高校生のう蝕減少が見られる一方、歯肉炎を有する者の割合が多い事を問題とし、高等学校における諸課題の中で現在取り組む事が出来ない歯科保健教育の推進が提起されています。歯肉炎は歯周病進行における初期段階であり、将来の健康づくりに社会人になる前の高校生における歯科保健教育は重要と位置づけられています。

本事業は福岡県内歯科衛生士養成校8校、福岡県内の高等学校そして、福岡県と福岡県教育委員会、福岡県歯科医師会、福岡県学校歯科医会、福岡県歯科衛生士会との連携の基に推進してまいります。これが多くの高等学校にて取り入れられ全国に広まり、人々の健康増進と歯科衛生士の社会的認知度が増し、未来が輝かしいものになる事を切に願っています。

公益社団法人 福岡県歯科医師会  
福岡歯科衛生専門学校

## 目次

1. 事業概要	1
1.1 委託事業の内容	1
1.2 事業名	1
1.3 分野	1
1.4 代表機関	1
1.5 構成機関・構成員等	2
1.6 事業の内容等	5
2. 事業の実施状況	15
2.1 実施委員会の実施状況	15
2.2 コーディネーターと作業部会長との打合せの実施状況	15
2.3 専門部会の実施状況	16
2.4 作業部会の実施状況	18
3. 調査報告	22
3.1 高等学校教員の歯科保健教育に関する認識調査	22
3.2 高校生の歯肉炎実態調査	33
3.3 非認知能力ベースライン調査	50
3.4 新卒歯科衛生士の就業状況調査	73
4. 開発報告	84
5. 実証報告	157
5.1 高等学校におけるキャリア教育プログラム実証授業概要	152
5.2 福岡講倫館高等学校における実証結果	153

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、公益社団法人福岡県歯科医師会 福岡歯科衛生専門学校 が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

# 1. 事業概要

# 1. 事業概要

## 1.1 委託事業の内容

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

## 1.2 事業名

With コロナ/人生 100 年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業

## 1.3 分野

医療【歯科衛生】

## 1.4 代表機関

### ■代表機関(受託法人)等

法人名	公益社団法人福岡県歯科医師会
代表者名	江里 能成
学校名	福岡歯科衛生専門学校
所在地	福岡県福岡市中央区大名 1 丁目 12 番 43 号

### ■事業責任者（事業全体の統括責任者）

職名	公益社団法人福岡県歯科医師会立福岡歯科衛生専門学校教務委員
氏名	山本 順一
電話番号	092-751-5827
E - m a i l	gakkou@fdanet.or.jp

### ■事務担当者（文部科学省との連絡担当者）

職名	公益社団法人福岡県歯科医師会立福岡歯科衛生専門学校課長補佐
氏名	小林 恵子
電話番号	092-751-5827
E - m a i l	gakkou@fdanet.or.jp

## 1.5 構成機関・構成員等

### 1.5.1 構成機関・構成員等

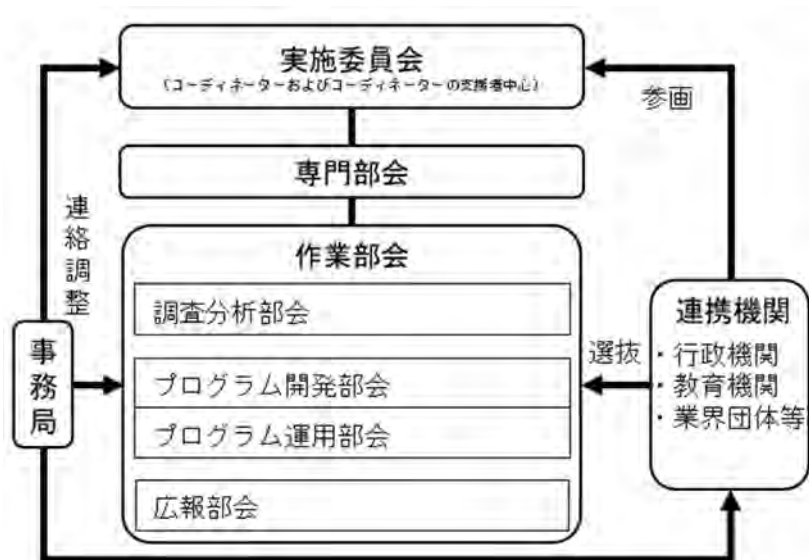
	名称	役割等
1	福岡県立福岡講倫館高等学校	事業実施校
2	学校法人博多学園 博多高等学校	事業実施校
3	福岡県教育庁教育振興部高校教育課	開発協力・助言
4	福岡県保健医療介護部健康増進課	開発協力・助言
5	公立大学法人九州歯科大学	開発協力・助言、実証
6	学校法人福岡学園 福岡医療短期大学	開発協力・助言、実証
7	学校法人博多学園 博多メディカル専門学校	開発協力・助言、実証
8	一般社団法人久留米歯科医師会立 久留米歯科衛生専門学校	開発協力・助言、実証
9	学校法人美萩野学園 美萩野保健衛生学院	開発協力・助言
10	学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校	開発協力・助言、実証
11	学校法人滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	開発協力・助言
12	公益社団法人福岡県歯科医師会立 福岡歯科衛生専門学校	事業実施校
13	一般社団法人福岡県学校歯科医会	開発協力・助言、実証
14	一般社団法人福岡県歯科衛生士会	開発協力・助言、実証
15	福岡県歯科衛生士教育連絡協議会	開発協力・助言、実証
16	西日本新聞	広報
17	RKB毎日放送	広報
18	公益社団法人福岡県歯科医師会	事業受託団体

### 1.5.2 事業の実施体制

令和5年度は、福岡講倫館高等学校にて講座の継続ならびに実証講座を実施した。博多高等学校での講座ならびに歯科保健状況実態調査を継続した。

本事業の実施体制は、「実施委員会」「専門部会」「作業部会」「事務局」により構成し、コーディネーターは実施委員会の中心的役割を担う。それぞれの役割の概略を以下に示

す。



- ・実施委員会：事業の推進主体として設置する。各連携機関より参画し、コーディネーターを含めて構成する。事業活動の方針策定、各機関の連携状況の確認、専門部会への指示を担当する。
- ・専門部会：実施委員会の下部組織として、本校が主体となる専門部会を置く。各作業部会間の連携・調整、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施する。
- ・作業部会：専門部会の下部組織として「調査分析」「プログラム開発」「プログラム運用」「広報」の4系統の作業部会を設置する。構成員は連携機関からの選抜を主とする。専門部会の指示のもと、実作業を担う。
- ・コーディネーターと作業部会長との打合せ：実施委員会の中心であるコーディネーターが、専門部会の審議事項および各部会の進捗状況を確認し、実施委員会への提案事項を検討する。
- ・事務局：事業推進上発生する各種事務作業を担当する組織として、本校が事務局を担う。また、必要に応じて実施委員会・専門部会および各作業部会の指示を受けて、請負業者に対し発注を行う。

### 1.5.3 各機関の役割・実際に得られた協力事項について

○高等学校

【プログラム開発校および継続校：福岡講倫館高等学校、博多高等学校】

調査分析（調査票作成、結果分析）、プログラム開発（既存プログラム、学習指導要領との整合）、効果を波及するための広報（中学生対象、生徒募集）

○行政機関

調査分析（課題の洗い出し、教育目標の設定）、プログラム開発（プログラムの検討）、効果を波及するための広報（中学生対象、高等学校との橋渡し）、各分野のニーズを踏まえた提言

○大学・専門学校

【プログラム開発校：福岡歯科衛生専門学校】

調査分析（調査票作成、卒業生および在校生アンケート実施校、結果分析）、プログラム開発（既存プログラムの提供、教育目標の接続）

【調査実施校：福岡医療短期大学、博多メディカル専門学校、久留米歯科衛生専門学校、九州医療スポーツ専門学校、福岡歯科衛生専門学校】

各校在校生を対象とした調査実施

【福岡県歯科衛生士教育連絡協議会各校（九州歯科大学・福岡医療短期大学を含む）】

プログラム開発（テキスト及び動画教材の開発）、プログラム運用（講座企画・運営、結果分析）、効果を波及するための広報（プログラム連携校開拓）

○企業・団体

【業界団体】

プログラム開発（テキスト及び動画教材の開発）、プログラム運用（講座企画・運営、結果分析）、効果を波及するための広報（市民対象、プログラム連携校開拓）、業界ニーズを踏まえた提言、プログラム実施協力



## 1.6 事業の内容等

### 1.6.1 事業の趣旨・目的等について

#### (1) 事業の趣旨・目的

歯科衛生士は歯科医師とともに、むし歯と歯周病に代表される歯科疾患の予防や治療の担い手である。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染リスクにも口腔細菌が関係することが発表されており、口腔と全身の健康は密接な関係にあり、健康長寿の実現には口腔の衛生管理が極めて重要である。歯科衛生士は口腔健康管理を主体的に実施する専門職で、With コロナ/人生100年新時代におけるエッセンシャルワーカーである。一方、全国の歯科衛生士養成校への求人倍率は平均約20倍であり、同じ医療職である看護師の求人倍率約2倍と比べて非常に高い。「経済財政運営と改革の基本方針2022」には人材確保の必要性が指摘されている。このように、歯科衛生士は慢性的に不足した状況であるが、全国の養成校の約60%は入学定員を満たしておらず、この状況が続いているのは、歯科衛生士の社会的認知度が低く、業務内容を正確に認知されていないためと推察される。

本事業では、歯科衛生士の業務内容やその魅力を、高等学校、行政、業界団体と連携して広く社会に普及させ、高校生への歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマにプログラムの開発と実証を行い、地域口腔保健の中核を担う人材を育成することを目的とする。

#### (2) 学習ターゲット、目指すべき人材像

##### ○高校及び専門学校で共有する目標・人材像・ビジョン

歯科保健学習を通じて歯科に対する興味・関心を持つ。同学習を端緒に「医療分野で働く」ことに対するイメージを明確に持って、進学先を検討し、その一つに歯科衛生士養成校への進学を含める。進学後は非認知能力の育成を通じて就職後も早期に離職せず、地域口腔保健において活躍する歯科衛生士を育成する。

##### ○高校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

健康に関する基礎的・基本的な知識を習得し、生涯を通じて自らの健康を管理し改善する能力を身に付けている。「医療分野で働く」ことに対するイメージを明確に持って、進学先を検討している。

##### ○専門学校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン

非認知能力が高く、長期にわたり地域口腔保健において活躍できる歯科衛生士。

## 1.6.2 当該教育プログラムが必要な背景について

### 【歯科衛生士不足の要因と現状】

歯科衛生士は全身の健康へとつながる口腔健康管理の担い手であり、健康認識の高まりから近年その需要も増している。しかしながら、現在、その不足が大きな問題となっており、令和4年度全国の歯科衛生士養成校への求人倍率は23.3倍と非常に高く、平成26年度以降最も高い（図1）<sup>1)</sup>。超高齢社会の進展に伴い、今後更に在宅介護現場での需要が急速に高まることが予想され、問題解決に向けて様々な取り組みと対応が必要である。

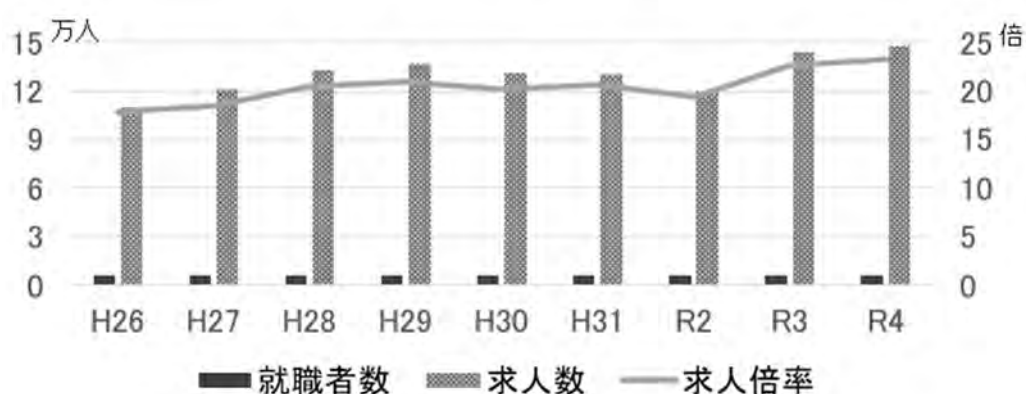


図1 就職者数、求人数、求人倍率の推移

需要が非常に高いにも関わらず、令和5年度全国の歯科衛生士養成校の68.0%は定員を満たしておらず同年度の平均入学定員充足率は84.8%に過ぎず、この状況は本事業を開始した令和3年度よりも悪化している（図2）<sup>1)</sup>。このギャップを解消するには、高校生に歯科衛生士の仕事の魅力を伝えることおよび社会における歯科衛生士の認知度向上が必要である。

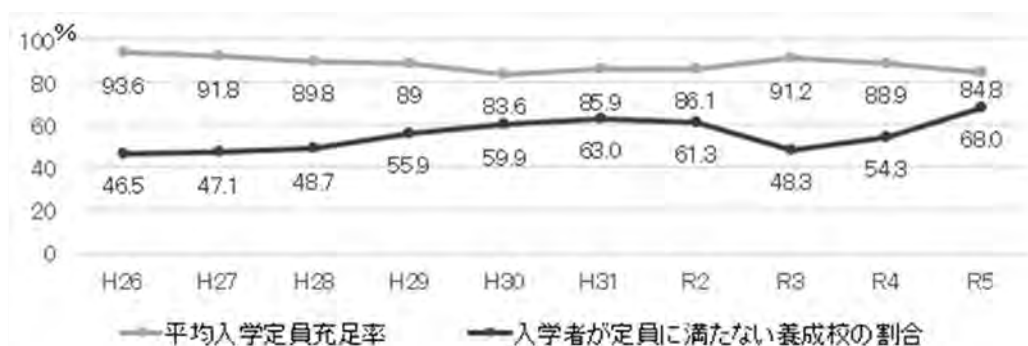


図2 歯科衛生士養成所の平均入学定員充足率と定員に満たない養成校の割合

### 【歯科衛生士の魅力】

令和 2 年歯科衛生士の勤務実態調査報告書によれば、歯科衛生士の仕事の魅力について「はい」と回答した者を全体でみると、「国家資格である」が 96.1%、「専門性の高い仕事である」が 93.6%、「人や社会に貢献できる」が 91.6%、「人の命や健康を守る仕事である」が 91.4%、「人に直接関わられる・手助けできる」が 88.2%、「転職・就職に困らない」が 76.2%である（図 3）。つまり、歯科衛生士は生涯を通じて活躍できる国家資格であり国民の健康に直接寄与できる専門職であることを魅力として認識している者が多く、この点を高校生などに広く伝えていくことが有効と考えられる。

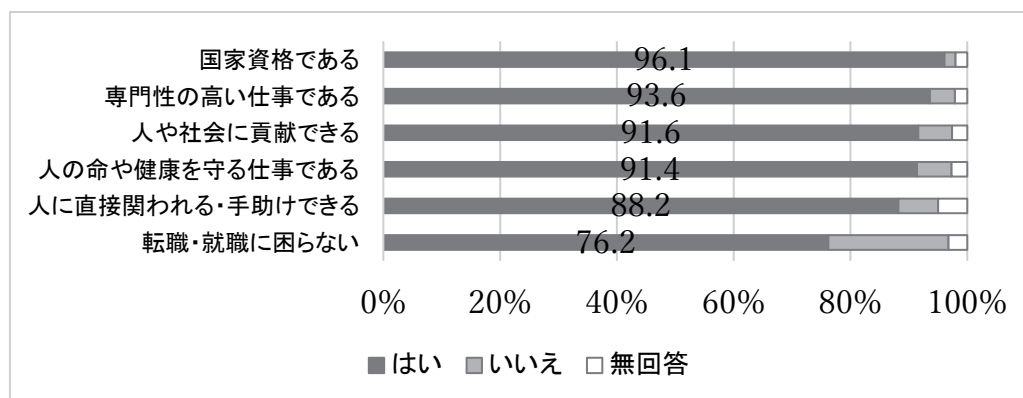


図 3 歯科衛生士の仕事の魅力

### 【歯科衛生士の地域産業中核的人材としての意義】

新卒就職者のうち養成校所在の都道府県内に就職した者の割合は令和 4 年度の全国平均で 89.0%である<sup>1)</sup>。若者の流出が深刻な問題となっている中、地方で育ち地方に就職する彼らは歯科医療分野にとどまらず超高齢社会を支え地域再生を担う人材である。専門学校の社会的な役割に、人々の身近な暮らしを支える職業人および地方社会の担い手の育成がある。歯科衛生士は地域を支えるエッセンシャルワーカーであり職業としても地域口腔保健の中核的人材としての意義を備えている。

### 【歯科衛生士に求められる社会人基礎力】

歯科衛生士が社会で活動するためには専門的な知識・技術が必須であるが、それ以前に求められる根本的なもの、すなわち自己管理能力や主体性、コミュニケーション力などが必要である。経済産業省は 2006 年に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として社会人基礎力を提唱した。社会人基礎力は 3 つの能力と 12 の能力要素の枠組みが示されており、「能力開発の針路を示す」ことがねらいの一つとされ、業種や企業規模を問わず、人材の評価・育成指標として活用されることが推奨されている。歯科衛生士養成校では従来、社会人基礎力に含まれるような力の育成に努めてきたが、評価指標が明確ではなかった。そこでこの枠組みを利用して評価を行いつつ、確実

に能力を育成するための様々な先行研究が行われている段階である<sup>2)</sup>。

### 【専門学校における非認知能力の育成】

社会人基礎力は非認知能力の一つ<sup>3)</sup>として位置づけられている。従来型の能力（学力）が「認知能力」と整理されるのに対し、新しい能力は「非認知能力」と呼ばれている（図4）<sup>3)</sup>。歯科衛生士養成校では歯科衛生士に必要な専門的な知識・技能の習得はもとより、自己管理能力や主体性、コミュニケーション力などの社会人として実践的に求められる非認知能力の育成も行っている。非認知能力は汎用性が高くキャリアチェンジにも効果的である。習得が要求される非認知能力は成長段階に応じて高次に発達し、将来的人材像として求められる能力につながる。非認知能力の中でも自己肯定感はその他の能力発揮の原動力として位置づけられ（図5）<sup>4)</sup>、高等学校終了までに習得できるものとされている。しかし、専門学校新入生の課題として自己肯定感の礎となる自己効力感の欠如があげられている。勉強で自信が持てなかった生徒が専門学校に入学するケースが多く、自己効力感を持ちにくい。したがって、社会人基礎力を含め、非認知能力の育成には、専門学校入学以降も自己肯定感を高める取組みが必要と考えられる。

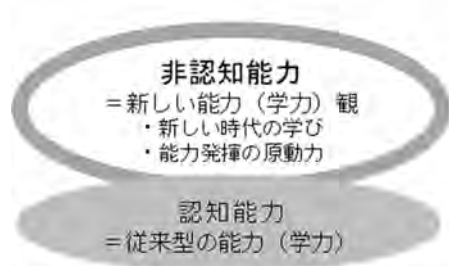


図4 新しい能力

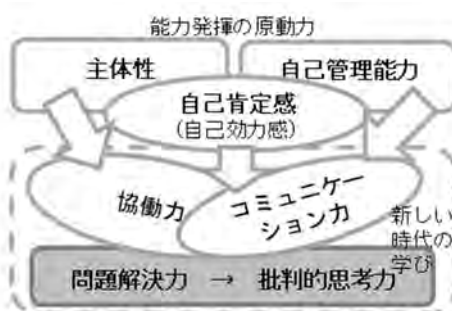


図5 コミュニケーション力の視点から考察した非認知能力の要素同士の関連性（一部省略）

### 【高等学校学習指導要領で求められている令和の新しい学び】

令和4年度より完全実施された高等学校学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し資質・能力を三つの柱で整理、社会に開かれた教育課程の実現を目指している。三つの柱とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」であり、これらを達成するためには「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善することが必要とされている。授業改善のための具体的なキーワードとして「協働的な学び」があり、地域社会と連携しつつ多様な他者と協働することの重要性を実感しながら理解できるように工夫することがあげられている。また、キャリア教育の充実のための解説として、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間などの活用、社会人講話の機会の確保などが示されている。歯科衛生士養成校の教員は地域での歯科医療従事経験があり、高専連携において高等学校での新しい学びに貢献できると思われる。

### 【高専接続による効果的なキャリア教育の可能性】

キャリア教育は、本来、自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てることをさし、進路指導だけでなく学校の教育活動全体を通して行われる。高等学校におけるキャリア教育の一環として専門学校や関連企業・団体が連携することは、生徒がより具体的な職業観やキャリアイメージを持つことにつながる。同時に自分の特性を踏まえた主体的な進路の選択や将来設計にも寄与できる。高校生が社会人に求められる汎用的能力を理解することで、今、努力すべきことを認識し、日々の授業に対する取り組みの改善も期待される。

### 【高校生の歯・口の健康づくりの必要性】

高校生になると、歯列不正や不正咬合による口元の外観や顎関節症、口臭に興味・関心を持つ生徒が多くなり、同様に歯磨き時の出血にも関心を示す<sup>5)</sup>。しかし、平成28年歯科疾患実態調査によれば、15～19歳で歯肉炎の症状の「歯肉出血がみられる者」が30.6%を占めていた。また、令和4年度に本事業の一環として実施した調査結果では、高校生の約40%が歯肉出血や歯石を有していた。歯肉炎は歯周病の前段階であり、口腔衛生の向上により歯肉炎を管理するとともに、生活習慣病をはじめ様々な全身疾患と関連する歯周病を予防することが、生涯にわたる全身の健康づくりに必要なことを理解させることが重要である。学校の歯科保健活動を通じて健康意識の向上や人間性の陶冶に優れた効果があることが指摘されており<sup>6)</sup>、歯・口の健康と自律的健康観を同時に育むための教育プログラムが必要である。

### 【本事業の実施意義】

前述のように、歯科衛生士の需要は高く、地域における口腔保健を支える重要な職業である。福岡県歯科医師会は、県内の他の歯科衛生士養成校と協力して、歯科衛生士の認知度向上を目的に、高等学校の進路指導教員に対して啓発活動を行ってきた。しかし、長年の取組みにも関わらず高校生の認知度は従前と変わらず低い状態である。本事業では、高等学校と専門学校が連携して共通の目標を設定し、それぞれのプログラムを実施することによって、歯科衛生士の職業を理解し目的意識を持った専門学校への進学と、明確なキャリア意識の形成を図ることによる地域の中核的役割を果たす専門人材の養成を行う。事業実施校である福岡講倫館高等学校と博多高等学校は従来、充実したキャリア教育を行っており、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、進学や就職などさまざまな進路実現をサポートしている。本事業により専門学校や企業・団体が連携することでこれを更に進めることができる。

本事業では各連携機関の協力のもと、高等学校と専門学校との有機的連携をはかり、地域口腔保健の中核的人材である歯科衛生士を志す生徒を増やすことを目的とし、高校

生の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマとしたプログラムの開発・実証を行うものとする。

参考文献)

- 1) 全国歯科衛生士教育協議会.令和5年調査報告
- 2) 前田尚子.臨床実習から「社会に役立つ力」を育てるには、日衛教育誌、14：74～78、2023
- 3) 日本生涯学習総合研究所.「非認知能力」の概念に関する考察、2019年9月2日一部改訂
- 4) 日本生涯学習総合研究所.「非認知能力」の概念に関する考察Ⅱ非認知能力」の要素における関連性の観点から<改訂版>、2020年11月
- 5) 文部科学省.学校歯科保健参考資料『「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり』
- 6) 日本学校保健会.実践!!思春期の歯・口の健康づくり～実践事例集～、2019年

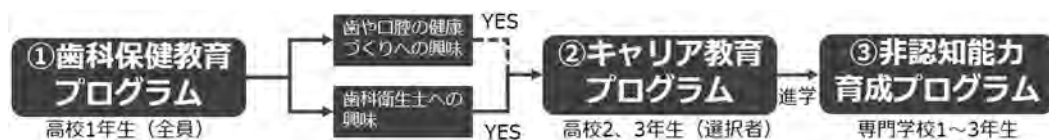
### 1.6.3 開発した教育プログラムの概要

#### (1) 名称

With コロナ/人生100年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラム

#### (2) 内容

本事業は3つのプログラムで構成され、高等学校入学時から歯科衛生士養成校卒業までの6年間に亘り展開される。各プログラムの関係は下図の通りである。



まず、高等学校において「①歯科保健教育プログラム」を1年生全員に行う。目標は、高校生に必要な全身の健康と生活習慣病との関係の理解、歯・口の健康づくりに関わる歯科衛生士の認知度の上昇である。①をきっかけとして2、3年生時に選択を希望した生徒に対して「②キャリア教育プログラム」を実施する。専門学校では各学年全員を対象に「③非認知能力育成プログラム」を通じて非認知能力が高く、長期にわたり地域口腔保健において活躍できる歯科衛生士を増やすことを目指す。3つのプログラムはいずれも既存の教育プログラムが見当たらないため、新規に開発・実証を行っている。

#### 「①高等学校における歯科保健教育プログラム」

令和4年度に実証済み。授業評価を踏まえて改良しつつ、継続している（福岡県立福岡講倫館高等学校）。

令和5年度は1年生を対象とした講座を継続している。令和4年度に受講した生徒の歯周病予防・改善効果を歯肉炎実態調査として調査中であると同時に、2年生や3年生への教育プログラムを検討・開発中である（学校法人博多学園博多高等学校）。

授業は特別活動やホームルーム、保健の時間を利用し、内容は歯周病予防を主目的とする歯科保健教育である。全身の健康へと続く、口の健康について2回に分けて教育を行う。この中で、歯科衛生士の認知度を上げるため、その役割と社会貢献も紹介している。解説シナリオに基づいて歯科衛生士養成校の専任教員がナビゲーターをつとめ、授業の主な部分は本事業にて作成した4本の教育用動画を用いている。概要は下表のとおり。

	概要	項目
1	1本目 歯や口の疾患と予防法	スポーツ時の口腔外傷、スポーツドリンク、口呼吸等
	2本目 歯科衛生士・歯科技工士の仕事	歯科衛生士4名と歯科技工士1名の働く現場とインタビュー
2	3本目 歯周病の話	歯周病の原因と病態、口の健康が全身に及ぼす影響
	4本目 歯周病予防のための歯磨き方法	ブラークコントロールの実践、デンタルフロス利用の勧め

1年次だけでなく2年次にも歯科保健教育を継続して実施できる場合は、2年次は歯周病予防のための歯磨き方法の再確認に重点を置き、例として4本目の動画視聴を中心とする20分程度の歯科保健教育内容を検討中である」

## 「②高等学校におけるキャリア教育プログラム」

高等学校におけるキャリア教育プログラムは、福岡県立福岡講倫館高等学校において令和5年度から新たに設定された学校設定教科「健康科学（科目名：健康科学 $\alpha$ ・健康科学 $\beta$ ）」として開発・実証を行っている。教科としての目標は「健康に関する基礎的・基本的な知識を習得し、生涯を通じて自らの健康を管理し改善する能力を身に付ける」ことである。

令和5年度は健康科学 $\alpha$ （高等学校2年生分）の開発・実証を行った。

選択した2年生の生徒28名が受講した。単元や項目の概要を下表に示す。医療人に共通して要求される総論やコミュニケーションスキル、歯科衛生士養成教育の基礎となる歯・口腔の構造と機能、疾患と治療、歯科衛生学総論につながる先取り授業を行った。

## 「健康科学 α」

令和5年度後期 1コマ50分

時数	単元	項目	学習内容	担当教科	授業担当者
1	保健学総論	生活習慣と健康づくりについて	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
2		医療専門職に就くためのキャリアプランニング	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
3		医療従事者の社会的役割	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
4		高校生のうち習得しておくべきこと	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
5	コミュニケーション能力	医療におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
6		医療におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
7		保健指導におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
8		保健指導におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
9	口腔と健康	人体の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
10		歯・口腔の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
11		歯・口腔の疾患について	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
12		歯周病と全身とのかかわり	人体の構造	理科	福岡医療短期大学

健康科学αを選択した2年生は3年生前期（4月開始）に実施する健康科学βも受講する。よって、健康科学βの実証は令和6年度となり、現在、開発中である。現時点での計画案を示す。

## 学校設定教科「健康科学」年間指導計画（案）

## 「健康科学β」

時数	単元	項目	学習内容	担当教科 (授業帯同 ・出欠管理)	授業担当者
1	免疫	免疫の仕組み①講義	免疫	理科	福岡医療短期大学
2		免疫の仕組み②探究的学習	免疫	理科	福岡医療短期大学
3	疾病予防	歯・口腔疾患の予防①講義	疾病予防	保健体育科	福岡医療短期大学
4		歯・口腔疾患の予防②講義	疾病予防	保健体育科	福岡医療短期大学
5	医療接遇	コミュニケーションの基礎・作法	医療接遇	福祉科	歯科衛生専門学校
6		医療現場におけるコミュニケーション①	医療接遇	福祉科	歯科衛生専門学校
7		医療現場におけるコミュニケーション②	医療接遇	福祉科	歯科衛生専門学校
8		医療現場におけるコミュニケーション③	医療接遇	福祉科	歯科衛生専門学校
9	インターンシップ	歯科・口腔医療現場の見学	インターンシップ	総合	福岡医療短期大学
10		歯科・口腔医療現場の見学	インターンシップ	総合	福岡医療短期大学
11		歯科・口腔医療現場の見学	インターンシップ	総合	福岡医療短期大学
12		歯科・口腔医療現場の見学	インターンシップ	総合	福岡医療短期大学



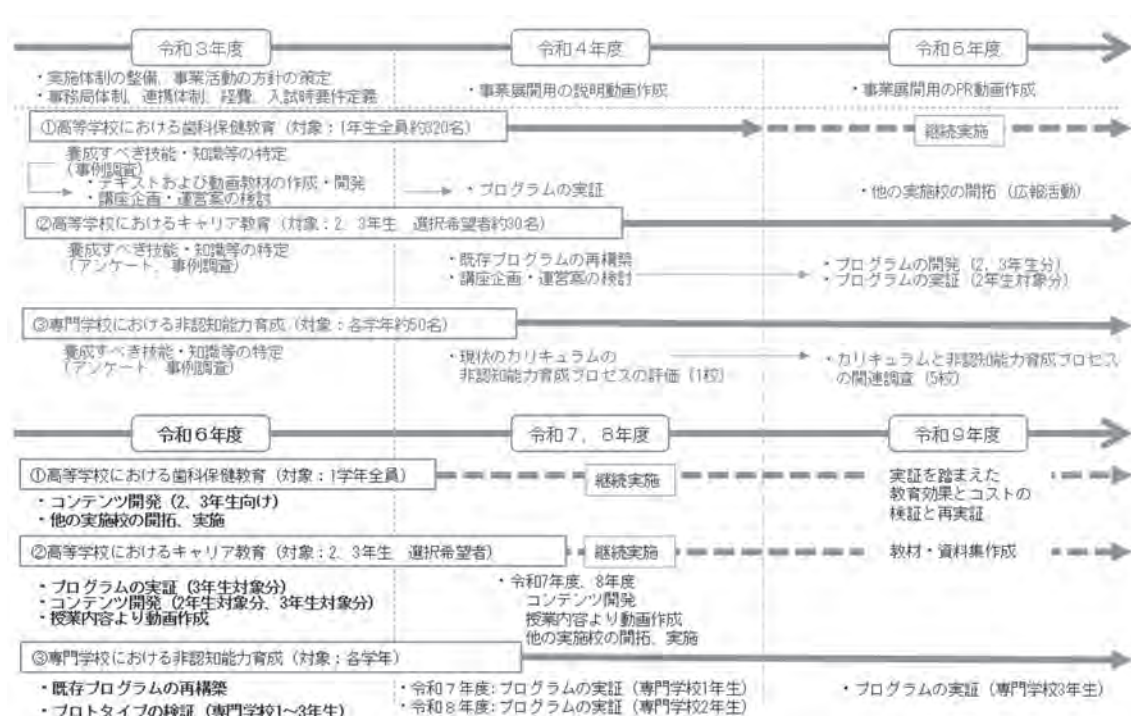
### 「③専門学校における非認知能力育成プログラム」

令和4年度はEdv Future株式会社のEdv Pathと連携したベースライン調査を実施し、介入方法を検討した。令和5年度も同社の協力のもと、対象校を拡大して調査分析を継続し、分析結果をもとにプログラム開発・運用部会でのプロトタイプ of 検討を始めた。

## 1.6.4 具体的な取り組み

### (1) 計画の全体像

終了した令和3、4年度を含めた本事業の計画は次図のとおりである。



### (2) 今年度の具体的活動

#### ○実施事項

令和5年度は以下の取組みを行った。会議、調査、実証講座の詳細は表に示す。

#### ア 会議の開催

実施委員会(年2回)、コーディネーターとの会議(年2回)、専門部会(年8回)、各作業部会(年6回)

#### イ 調査の実施

KPI 設定に関連する調査を実施した。

<令和4年度からの継続>

- ・歯肉炎有病状況（対象：博多高等学校）
- ・高等学校教員の歯科保健教育に関する認識

<令和5年度>

- ・新卒歯科衛生士の就業状況調査（対象：福岡歯科衛生専門学校の卒業生）
- ・非認知能力ベースライン調査（令和4年度よりも対象校を増加）

#### ウ 実証講座（プログラムの開発・実証）

「①高等学校における歯科保健教育プログラム」

令和4年度に実証済み。令和5年度は作成したプログラムを継続して実施し、生徒に行う授業評価アンケートおよび関係者の意見に基づいて、追加修正等を検討・実施した。（福岡県立福岡講倫館高等学校）。

令和5年度は1年生への講座は令和4年度と同様に実施し、2年生や3年生への教育プログラムを検討・開発中である（学校法人博多学園博多高等学校）。

「②高等学校におけるキャリア教育プログラム（科目名：健康科学 $\alpha$ ・健康科学 $\beta$ ）」

令和5年度は健康科学 $\alpha$ （高等学校2年生分）の開発と実証を行った。

令和6年度が実証となる健康科学 $\beta$ （高等学校3年生分）は、講座企画・運営案を検討し、シラバス案および教案を作成した。

「③専門学校における非認知能力育成プログラム」

専門部会委員を対象に非認知能力ベースライン調査結果の報告会を実施し、令和7年度実証の非認知能力育成プログラムの開発に着手した。

#### エ 水平展開の推進

本事業実施校増加を目指した広報活動を展開した。令和4年度に作成した専修学校委託事業成果動画やポスター等を用いて、昨年度同様に福岡県内の中学校や高等学校等への周知を続けた。メディアを通じた地域住民への本事業の広報活動も継続した。本事業に関心を寄せている他県の歯科衛生士養成校教員に向けた広報活動として、全国歯科衛生士教育協議会九州地区会ならびに第14回日本歯科衛生教育学会学術大会にて事業成果の一部を報告した。次年度以降の広報活動にも使用するため、専修学校委託事業成果PR動画を作成した。



## 2. 事業の実施状況

## 2. 事業の実施状況

### 2.1 実施委員会の実施状況

本事業で実施した実施委員会の状況を以下に報告する。実施委員会に於いては、事業活動の方針策定、各機関の連携状況の確認、専門部会への指示を担当した。

(1) 第1回実施委員会：令和5年8月23日

会場 福岡県歯科医師会館（WEB会議）

議題 ・令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」事業計画について  
・福岡県立福岡講倫館高等学校における教育プログラムについて  
・令和5年度以降の専修学校委託事業の執行スケジュールについて

(2) 第2回実施委員会：令和6年1月18日

会場 WEB会議

議題 ・令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」事業計画について  
・福岡県立福岡講倫館高等学校におけるキャリア教育プログラムについて  
・その他

### 2.2 コーディネーターと作業部会長との打合せの実施状況

事業活動の方針策定、各機関の連携状況および依頼事項の確認を行った。

(1) 第1回コーディネーターと作業部会長会議：令和5年7月19日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

議題 ・令和5年度実施委員会・専門部会・コーディネーターと作業部会長・作業部会（調査分析部会・プログラム開発部会・プログラム運用部会・広報部会）の構成委員一部変更について  
・福岡県立福岡講倫館高等学校におけるキャリア教育プログラムについて  
・令和5年度以降の専修学校委託事業の執行スケジュールについて  
・令和5年度諸会議の開催日について  
・令和5年度第1回作業部会（調査分析部会・プログラム開発部会・プログラム運用部会・広報部会）合同会議の開催について

(2) 第2回コーディネーターと作業部会長会議：令和5年12月12日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・令和5年度事業実績報告書について
  - ・令和5年度必要経費（令和5年11月執行分）について
  - ・令和6年度事業計画について
  - ・令和6年度経費計画の編成について
  - ・第2回実施委員会の開催について
  - ・その他
    - 1) 福岡県歯科衛生士教育連絡協議会加盟校への協力依頼について
    - 2) 令和5年度必要経費（決算見込額）について

## 2.3 専門部会の実施状況

専門部会では、事業内容(調査・カリキュラム・教材)を検討し、各作業部会への指示、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施した。また、各作業部会間の連携・調整、進捗状況の確認、作業内容の評価等を実施した。

(1) 第1回専門部会：令和5年7月15日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・令和5年度実施委員会・専門部会・コーディネーターと作業部会長作業部会（調査分析部会・プログラム開発部会・プログラム運用部会・広報部会）の構成委員一部変更について
  - ・福岡県立福岡講倫館高等学校におけるキャリア教育プログラムについて
  - ・令和5年度以降の専修学校委託事業の執行スケジュールについて
  - ・令和5年度諸会議の開催日について
  - ・令和5年度第1回コーディネーターと作業部会長の開催について
  - ・令和5年度第1回作業部会（調査分析部会・プログラム開発部会・プログラム運用部会・広報部会）合同会議の開催について
  - ・封筒作成に伴うデザインについて

(2) 第2回専門部会：令和5年7月27日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・福岡県立福岡講倫館高等学校で実施するキャリア教育プログラム「健康科学」に対する生徒への意識調査について
  - ・令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に関する調査の相談について

(3) 第3回専門部会：令和5年9月7日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・福岡県立福岡講倫館高等学校での1年生への第2回歯科保健教育プログラムの対応について
  - ・福岡県立福岡講倫館高等学校で実施するキャリア教育プログラム（健康科学α）の視察対応について
  - ・Edv Future（株）からの「専門学校向けウェビナーへのご登壇」の依頼について
  - ・令和6年度以降の福岡県立福岡講倫館高等学校で実施したキャリア教育プログラム（健康科学α）の対応について
  - ・その他
- 1) 非認知能力調査結果報告会について

(4) 第4回専門部会：令和5年10月19日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・文部科学省及び分野横断連絡調整会議有識者からの福岡県立福岡講倫館高等学校での「健康科学α」への視察について
  - ・第14回日本歯科衛生教育学会学術総会・学術大会へ提出する「口頭発表・ポスター発表等」抄録について
  - ・Edv future（株）からの「非認知能力調査結果報告会」の開催日程について

(5) 第5回専門部会：令和5年11月16日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・令和6年度福岡地区PTA研修会への対応について

(6) 第6回専門部会：令和5年12月7日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・令和5年度事業実績報告書について
  - ・令和6年度事業計画について
  - ・令和6年度経費計画の編成について
  - ・第2回コーディネーターと作業部会長との開催について
  - ・第2回実施委員会の開催について

(7) 第7回専門部会：令和6年1月25日

会場 福岡歯科衛生専門学校「教務委員室」

- 議題
- ・令和6年度事業計画について
  - ・福岡講倫館高等学校で実施している「健康科学」を受講した生徒に対する認定証の交付について

(8) 第8回専門部会：令和6年2月15日

## 2.4 作業部会の実施状況

### ○調査分析部会

調査分析部会では、事前調査(調査項目、調査票作成、結果の集計及び分析)を行った。

(1) 第1回調査分析部会：令和5年7月27日

会場 福岡県歯科医師会館「4階 編集室」

議題 ・高等学校におけるキャリア教育プログラムの評価方法について  
・博多高等学校での歯肉炎実態調査の実施について  
・非認知能力ベースライン調査結果の各校への報告について

(2) 第2回調査分析部会：令和5年8月24日

会場 福岡県歯科医師会館「4階 編集室」

議題 ・K P I の追加について

(3) 第3回調査分析部会：令和5年9月7日

会場 福岡県歯科医師会館「4階 編集室」

議題 ・非認知能力ベースライン調査結果(速報)について  
・非認知能力育成プログラム開発に向けた調査結果報告会について  
・令和6年度調査分析部会実施計画案

(4) 第4回調査分析部会：令和5年10月19日

会場 福岡県歯科医師会館「4階 第2会議室」

議題 ・健康科学 $\alpha$ 実施前アンケート調査結果について  
・非認知能力ベースライン調査結果の広報について  
・令和6年度調査分析部会実施計画案について

(5) 第5回調査分析部会：令和5年12月7日

会場 福岡県歯科医師会館「4階 編集室」

議題 ・健康科学 $\alpha$ 実施前後の調査結果について  
・高等学校教員の歯科保健教育に関する認識調査について  
・その他

(6) 第6回調査分析部会：令和6年1月18日



会場 WEB会議

- 議題
- ・令和6年度調査分析部会実施計画について
  - ・調査分析部会に関連する成果報告書原稿案について
  - ・非認知能力ベースライン調査結果および報告会について

○プログラム開発部会およびプログラム運用部会

今年度のプログラム開発部会およびプログラム運用部会は、全ての会議を合同で行った。健康教育 $\alpha$  $\beta$ の計画立案、歯科保健教育プログラムの実証を行った。

(1) 第1回プログラム開発及びプログラム運用部会合同会議：令和5年7月27日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・福岡講倫館高等学校における第2回歯科保健教育プログラムについて
  - ・福岡講倫館高等学校における2年次キャリア教育プログラム（健康科学 $\alpha$ ）の開発について
  - ・福岡講倫館高等学校における3年次キャリア教育プログラム（健康科学 $\beta$ ）の開発について
  - ・博多高等学校での第1回歯科保健教育プログラムの運用について

(2) 第2回プログラム開発部会及びプログラム運用部会合同会議：令和5年8月24日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\alpha$ 講義について
  - ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\beta$ の指導案について
  - ・健康科学 $\alpha$ 受講者に対するアンケート調査について

(3) 第3回プログラム開発及びプログラム運用部会合同会議：令和5年9月7日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\alpha$ 講義について
  - ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\alpha$ の実施要領について
  - ・健康科学 $\alpha$ 受講者に対するアンケート調査について

(4) 第4回プログラム開発部会及びプログラム運用部会合同会議：令和5年10月19日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・高等学校の学習指導要領について
  - ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\alpha$ 講義について
  - ・福岡講倫館高等学校における健康科学 $\beta$ の指導案について

(5) 第5回プログラム開発及びプログラム運用部会合同会議：令和5年12月7日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・福岡講倫館高校における健康科学 $\beta$ の指導案について
  - ・健康科学 $\alpha$ の次年度以降の運用について
  - ・その他
- 1) 次回開催日程について

(6) 第6回プログラム開発及びプログラム運用部会合同会議：令和6年1月25日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第4会議室」

- 議題
- ・健康科学 $\beta$ の講義日程および指導案について
  - ・令和6年度の実施体制について
  - ・その他

#### ○広報部会

広報部会では、ホームページ、広報用ポスター案、PR動画について検討した。

(1) 第1回広報部会：令和5年7月27日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第3会議室」

- 議題
- ・令和5年度スケジュール（案）について
  - ・チラシの作成について
  - ・ポスターの発送および作成について
  - ・歯科衛生士のお仕事の作成について
  - ・専修学校委託事業成果PR動画の作成について
  - ・ホームページについて

(2) 第2回広報部会：令和5年8月24日

場所 福岡県歯科医師会館 4階 第3会議室

- 議題
- ・チラシの作成について
  - ・ポスターの作成について
  - ・歯科衛生士のお仕事の作成について
  - ・専修学校委託事業成果PR動画の作成について
  - ・ホームページについて

(3) 第3回広報部会：令和5年9月7日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第3会議室」

- 議題
- ・ポスターの作成について

- ・歯科衛生士のお仕事の作成について
- ・専修学校委託事業成果P R動画の作成について
- ・ホームページについて

(4) 第4回広報部会：令和5年10月19日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第3会議室」

- 議題
- ・ポスターの作成について
  - ・歯科衛生士のお仕事の作成について
  - ・専修学校委託事業成果P R動画の作成について

(5) 第5回広報部会：令和5年12月7日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第3会議室」

- 議題
- ・ポスターの作成について
  - ・歯科衛生士のお仕事の作成について
  - ・専修学校委託事業成果P R動画の作成について
  - ・水平展開用リーフレットについて
  - ・その他

(6) 第6回広報部会：令和6年1月25日

場所 福岡県歯科医師会館「4階 第3会議室」

- 議題
- ・ポスターの作成について
  - ・歯科衛生士のお仕事の作成について
  - ・専修学校委託事業成果P R動画の作成について
  - ・水平展開用リーフレットについて
  - ・その他

### 3. 調查報告

### 3. 調査報告

#### 3.1 高等学校教員の歯科保健教育に関する認識調査

##### 3.1.1 調査概要

(1) 調査目的

本事業では、福岡県立福岡講倫館高等学校ならびに学校法人博多学園博多高等学校において高校生の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマにプログラムを継続していることを踏まえ、両校の教員の歯科保健教育に関する認識を調査し、経年的に比較を行う。

(2) 調査対象

令和4年度、令和5年度の福岡県立福岡講倫館高等学校および学校法人博多学園博多高等学校の教員各年度約160名

(3) 調査方法

調査はGoogleフォームを用いて実施し、無記名での回答を依頼した。

(4) 調査項目

調査項目は次の10項目である。

1. 回答者情報

- (1) 年齢層
- (2) 教員歴（常勤・非常勤歴を含む）
- (3) 歯科保健教育に取り組んでいる学校への勤務経験

2. 歯科保健教育への関心

- (1) 高校での歯科保健教育の重要性
- (2) 本事業についての認知度

3. 歯科衛生士という職業に関する知識・関心

- (1) 歯科衛生士の認知度
- (2) 歯科衛生士のイメージ（令和5年度はその理由も）

#### 4. 歯の外傷・予防に関する認知度

- (1) 歯の外傷発生の認知度（スポーツ時）
- (2) マウスピースによる外傷予防の認知度（スポーツ時）
- (3) 歯と口の健康と、全身の健康との関係性の認知度

#### (5) 回収件数

令和4年度：162名中150件(回収率95%)

令和5年度：166名中116件(回収率70%)

#### (6) 調査結果まとめ

回答者の年齢層は50歳以上が33.6%で昨年度と比べてやや多かった。教員歴は10年未満が40.5%で最も多いのは昨年度と同様であったが、10年以上～20年未満が減り、20年以上がやや増加していた。歯科保健教育に取り組んでいる学校への勤務経験がある者が24.1%で昨年度の12.7%からほぼ倍増していた。

高校での歯科保健教育は「大変重要である」51.7%、「まあまあ重要である」44.0%を合わせて、約95%が重要と考えており、昨年度とほぼ同じ割合であった。具体的な知識として、スポーツで歯の外傷が起こることを知っている者は93.1%、マウスピースによってスポーツ時の外傷が防げることを知っている者は96.6%、歯と口の健康が全身の健康に関わっていることを知っている者は98.3%であり、昨年度の時点で9割の者は正しい知識を持ち、高等学校での歯科保健教育の重要性を認識している状況であったのが、より認識が深まっていた。

本事業の認知度は「取り組んでいるが良くわからない」が昨年度から約20%減少して32.8%になり、「知っているが説明は難しい」が56.9%へと増加した。歯科衛生士の認知度は「他人に説明できるくらい知っている」が17.2%でやや増加した他は、昨年度とほぼ同じ結果であった。

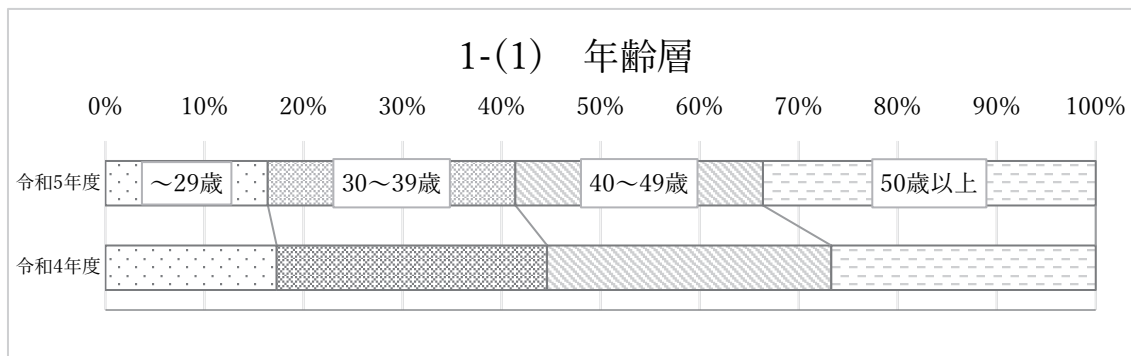
歯科衛生士のイメージは「魅力的だ」が21.3%で昨年度とほぼ同じ、「まあ魅力的だ」が57.8%へ増加し、「どちらともいえない」が21.6%へと減少した。「どちらともいえない」者のイメージを改善させるために、令和5年度は回答理由を問う質問を追加して調査を実施したところ、任意記入にも関わらず様々な意見が寄せられ、次の内容に代表されると思われた。「国家資格を持って、健康を守り、生涯働ける魅力的な職業と思いますが、個人歯科医院に就職の場合、昇給や就労条件等が確保されているのかが少し気になります。」現時点では、国家資格の医療専門職としての魅力が「魅力的だ」「まあ魅力的だ」との回答につながっており、今後は大卒に劣らない給与や就労条件を周知していくことも必要と考えられた。

KPIに設定している項目は今年度すでに改善がみられており、次年度以降も更なる改善が期待され、継続して評価を行うこととする。

### 3.1.2 調査結果

#### 1. 回答者情報

##### 1-(1) 年齢層

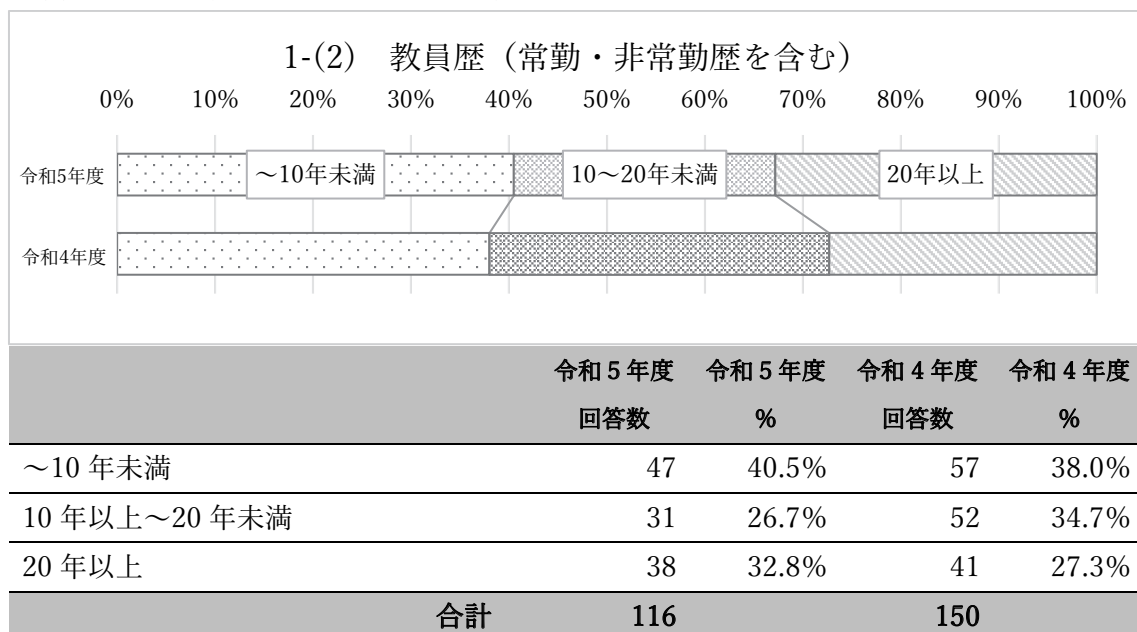


	令和5年度 回答数	令和5年度 %	令和4年度 回答数	令和4年度 %
～29歳	19	16.4%	26	17.3%
30～39歳	29	25.0%	41	27.3%
40～49歳	29	25.0%	43	28.7%
50歳以上	39	33.6%	40	26.7%
<b>合計</b>	<b>116</b>		<b>150</b>	

令和5年度：年齢層は50歳以上が33.6%、30歳代、40歳代が25.0%であった。

令和4年度：年齢層は30歳代、40歳代、50歳以上がほぼ同じで27.3%、28.7%、26.7%であった。

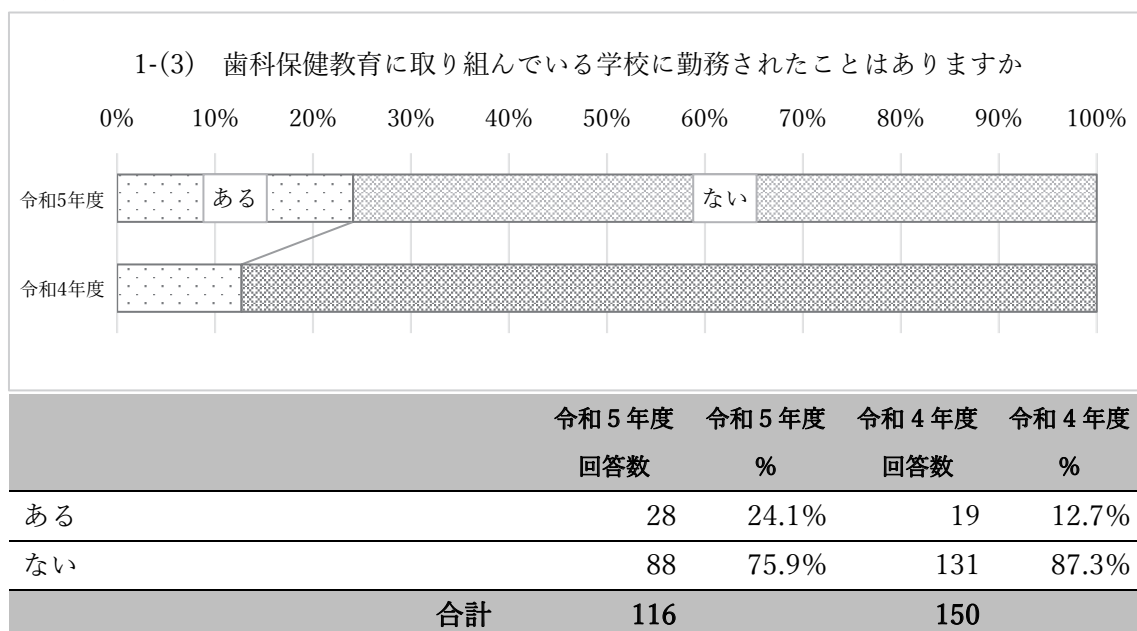
### 1-(2) 教員歴（常勤・非常勤歴を含む）



令和5年度：教員歴は10年未満が40.5%、20年以上が32.8%であった。

令和4年度：教員歴は10年未満が38.0%、10年以上20年未満が34.7%でほぼ同じであった。

### 1-(3) 歯科保健教育に取り組んでいる学校への勤務経験



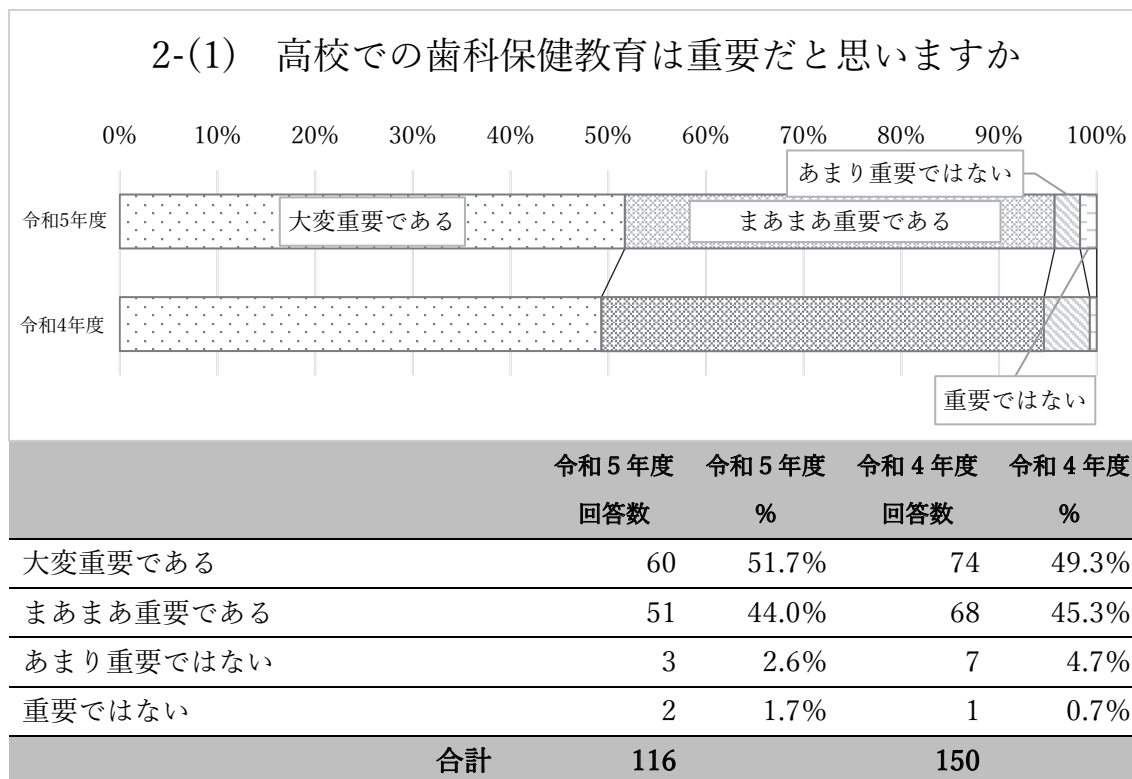
令和5年度：歯科保健教育に取り組んでいる学校に勤務したことがない者が75.9%であった。

令和4年度：歯科保健教育に取り組んでいる学校に勤務したことがない者が87.3%であった。



## 2. 歯科保健教育への関心

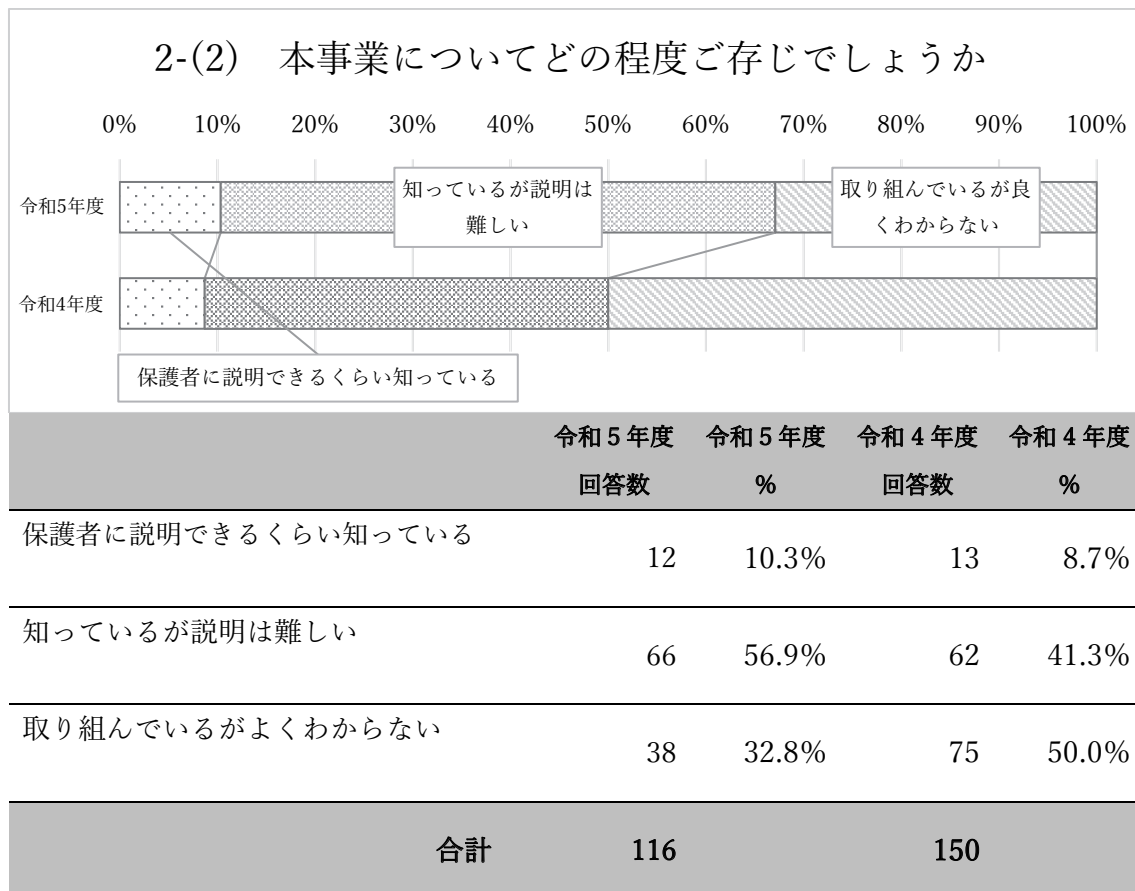
### 2-(1) 高校での歯科保健教育の重要性



令和5年度：高校での歯科保健教育は「大変重要である」と思う者が51.7%、「まあまあ重要である」と思う者が44.0%であった。

令和4年度：高校での歯科保健教育は「大変重要である」と思う者が49.3%、「まあまあ重要である」と思う者が45.3%であった。

## 2-(2) 本事業についての認知度

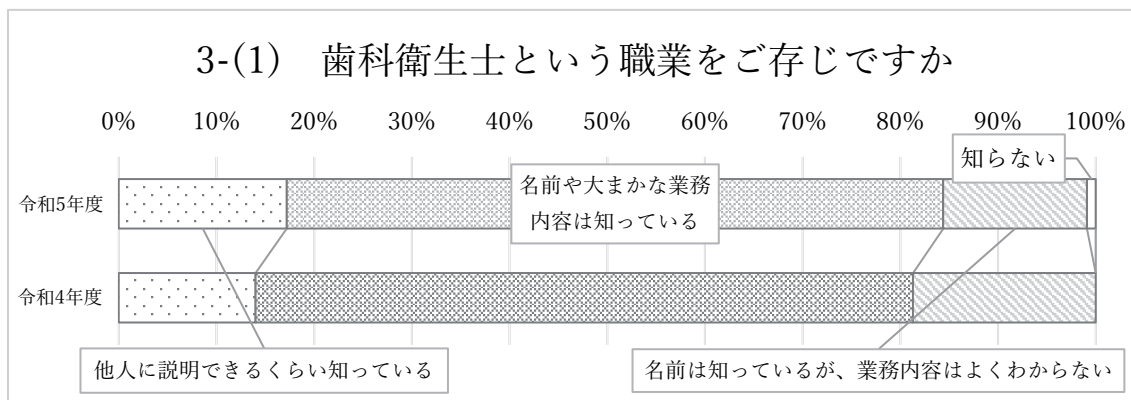


令和5年度：本事業の認知度は「知っているが説明は難しい」56.9%、「取り組んでいるが良くわからない」32.8%、であった。

令和4年度：本事業の認知度は「取り組んでいるが良くわからない」50.0%、「知っているが説明は難しい」41.3%であった。

### 3. 歯科衛生士という職業に関する知識・関心

#### 3-(1) 歯科衛生士の認知度

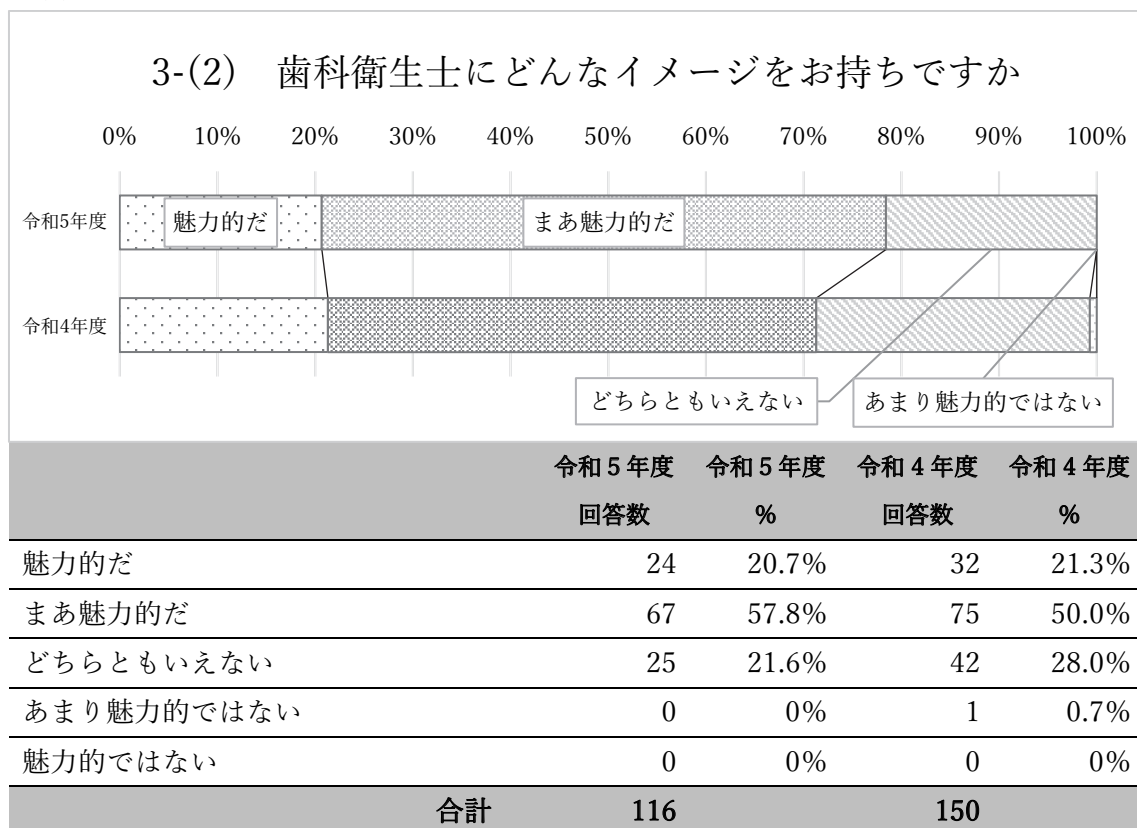


	令和5年度 回答数	令和5年度 %	令和4年度 回答数	令和4年度 %
他人に説明できるくらい知っている	20	17.2%	21	14.0%
名前や大まかな業務内容は知っている	78	67.2%	101	67.3%
名前は知っているが、業務内容はよくわからない	17	14.7%	28	18.7%
知らない	1	0.9%	0	0%
<b>合計</b>	<b>116</b>		<b>150</b>	

令和5年度：歯科衛生士の認知度は「名前や大まかな業務内容は知っている」が67.2%で最も多く、知らない者はほとんどいなかった。

令和4年度：歯科衛生士の認知度は「名前や大まかな業務内容は知っている」が67.3%で最も多く、知らない者はいなかった。

### 3-(2) 歯科衛生士のイメージ



令和5年度：歯科衛生士のイメージは「魅力的だ」20.7%、「まあ魅力的だ」57.8%、「どちらともいえない」21.6%であった。

令和4年度：歯科衛生士のイメージは「魅力的だ」21.3%、「まあ魅力的だ」50.0%、「どちらともいえない」28.0%であった。

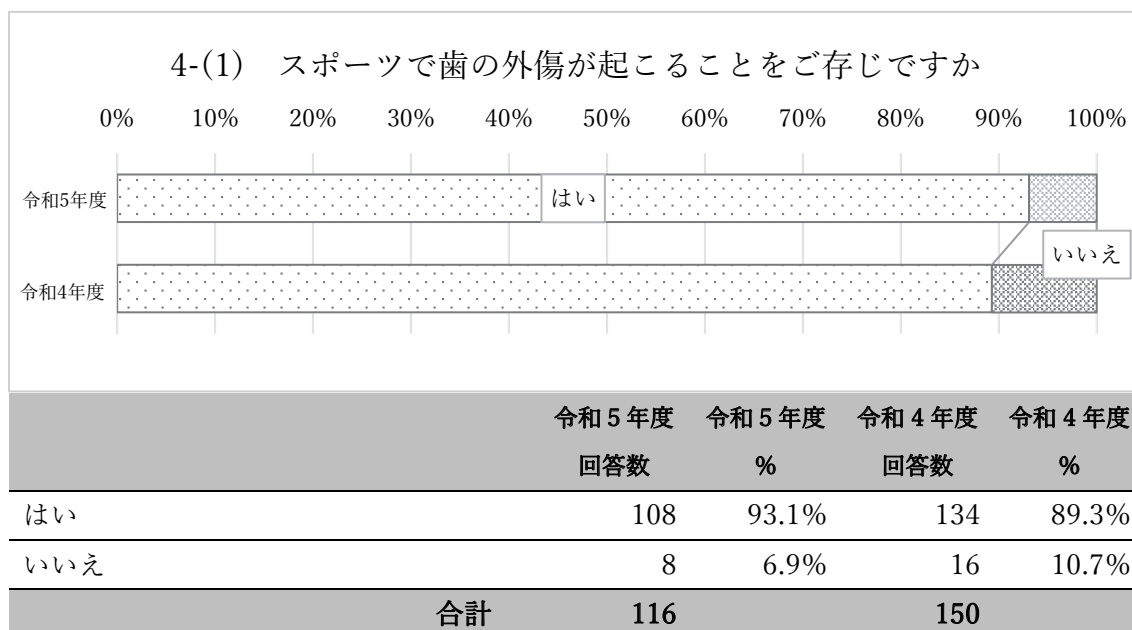
### 3-(3) 歯科衛生士に前述のイメージをお持ちの理由は何ですか（自由記載）。

- ・ 歯医者に勤務する歯医者版の看護師
- ・ 大都市の歯科医院では年齢制限があるもののかなり高い給与での求人が多い。結婚出産後の職場復帰が他職種に比べて容易である。
- ・ 国家資格のため魅力
- ・ 身内に衛生士がいるため
- ・ 歯科衛生士の専門学校で授業をしたことがあったから
- ・ 社会に貢献できる仕事であり、大変不足しているため需要も多いので。
- ・ 体全体の病気の早期発見に繋がるため、とても重要な仕事だと感じている。
- ・ 様々なアドバイスを受けることができるから
- ・ 専門職として魅力的で、今後重要となってくると思うから
- ・ 国家資格であり、技術面や指導に関するエキスパートのイメージです。
- ・ 自分がなりたい仕事ではないので、何とも言えない。

- ・人の健康に関わる大事な職業だから
- ・口腔内の管理が苦手のため
- ・歯や口腔内のことに対する知識があると健康を保つことが出来るから。
- ・国家資格を持って、健康を守り、生涯働ける魅力的な職業と思いますが、個人歯科医院に就職の場合、昇給や就労条件等が確保されているのかが少し気になります。
- ・歯の磨き方や健康指導など直接患者に指導することができるため。
- ・安定している職業であるが、今後歯科衛生士の需要がどこまで続くかは不透明
- ・専門技術を活かせる仕事だから
- ・特に詳しくないため
- ・国家資格であり、働き方が比較的融通がきくと感じている。
- ・国家資格で就職に有利であり、やりがいのある仕事だと思います。
- ・資格によって身分が保証されること、定時で勤務できること。
- ・長く就業することができるイメージ（女性は結婚・出産後も）
- ・私が行っている歯医者さんの歯科衛生士さんが忙しそう（人手不足かな？）
- ・歯科医同様の役割があるから
- ・歯科医院が多く点在しており、希望地での就職が叶いやすい。また、育児をしながらの勤務が可能なイメージ。
- ・予防歯科においては歯科医よりも歯科衛生士に診てもらっているように思う。
- ・卒業生や保護者に歯科衛生士の方がいて、話を聞き、魅力的な仕事だと感じているから
- ・知り合いに歯科衛生士さんがいらっしゃいますが、賃金が安いということで、転職されました。職業としてはしっかりしていますが、待遇はそれほどよくないのではないかなというイメージです。
- ・歯を綺麗にしてくれる
- ・魅力的かどうかを判断する対象にしたことがない
- ・専門性に富んでいる。
- ・夜勤がなくて働きやすそう
- ・繊細な作業を行うので技術を磨くことでやりがいを感じることができそうだから
- ・詳しい職務に関する知識がないから。
- ・大変な仕事だとは認識しています。
- ・来校された大学や専門学校職員の方からの説明
- ・医療に携われるところが魅力的
- ・友人に歯科医がおり、町の歯科の過当競争の状況にあることを知っている（特に福岡は）
- ・高齢化社会の中で口腔ケアは大事だと思うから。

#### 4. 歯の外傷・予防に関する認知度

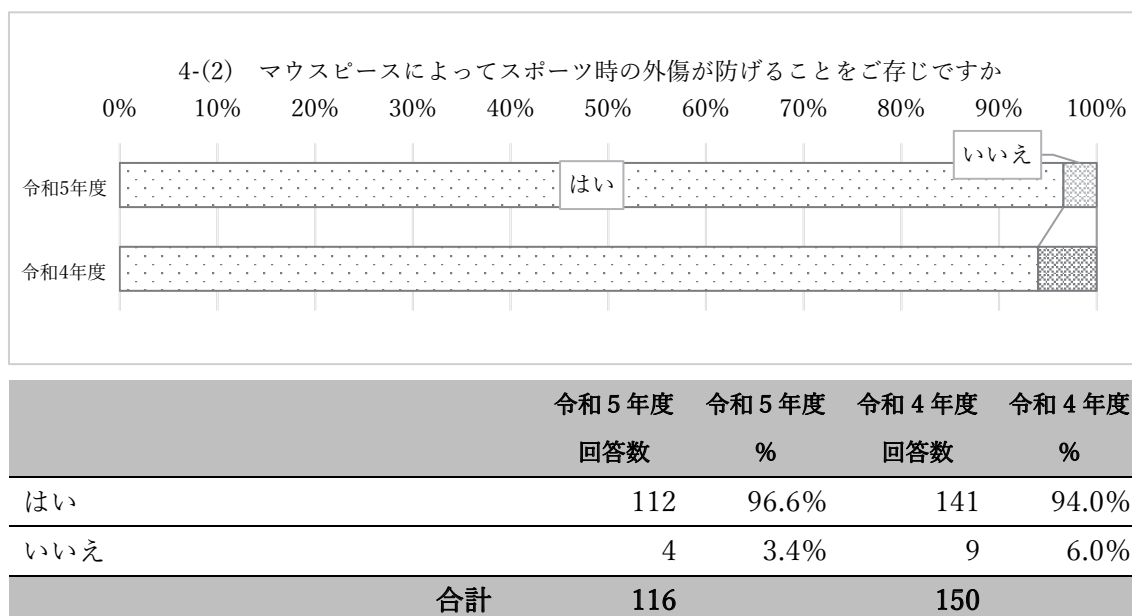
##### 4-(1) 歯の外傷発生の認知度（スポーツ時）



令和5年度：スポーツで歯の外傷が起こることを知っている者は93.1%であった。

令和4年度：スポーツで歯の外傷が起こることを知っている者は89.3%であった。

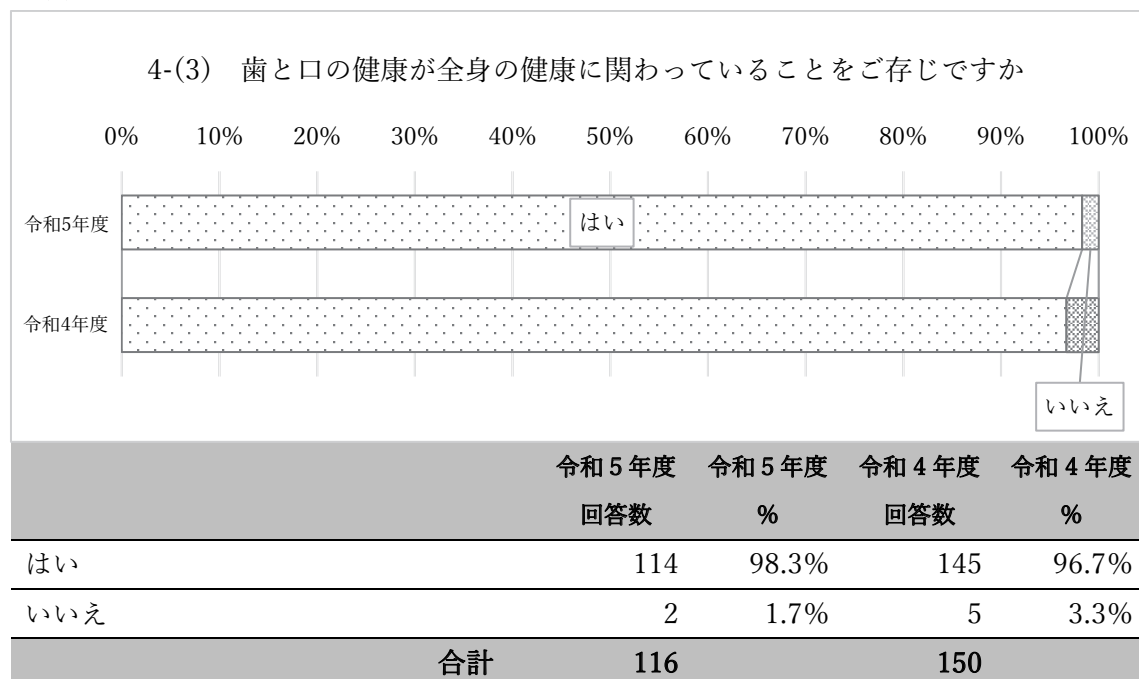
##### 4-(2) マウスピースによる外傷予防の認知度（スポーツ時）



令和5年度：マウスピースによってスポーツ時の外傷が防げることを知っている者は96.6%であった。

令和4年度：マウスピースによってスポーツ時の外傷が防げることを知っている者は94.0%であった。

#### 4-(3) 歯と口の健康と、全身の健康との関係性の認知度



令和5年度：歯と口の健康が全身の健康に関わっていることを知っている者は98.3%であった。

令和4年度：歯と口の健康が全身の健康に関わっていることを知っている者は96.7%であった。

## 3.2 高校生の歯肉炎実態調査

### 3.2.1 令和4年と令和5年の調査結果比較

#### 令和5年度歯周病予防事業報告書1 ～令和4年と令和5年の調査結果比較～

##### <目的>

某高校の1～3年生全学生を対象とし、令和4年度（R4）と令和5年度（R5）に口腔保健教育を実施した。R4、R5で実施した歯周病検査及び質問紙調査の結果を比較することにより、その口腔保健教育の効果を確認することを目的とした。

##### <調査方法（表1）>

某高校のR4の全校生徒1,202名、R5の全校生徒1,290名を対象とした。全校生徒に令和4年11月10日に質問紙調査、11月17日に歯周病検査を実施した。その後、同年12月13日、令和5年1月16日に全校生徒一斉に遠隔授業を用いた口腔保健教育（歯科衛生士の保健指導、動画視聴、個別検査結果シート配布を含む）を2回に分け実施した。同年8月27日に1年生の各クラスにおいて歯科衛生士学生による口腔衛生指導を実施し、令和5年1月23日、11月2日にR4と同様に、質問紙調査及び歯周病検査を実施した。

表1 歯周予防事業の流れ

2022/11/10	質問紙調査1回目
2022/11/17	歯周病検査1回目
2022/12/13	遠隔授業を用いた口腔保健教育1
2023/1/16	遠隔授業を用いた口腔保健教育2
2023/1/23	質問紙調査2回目
2023/8/27	歯科衛生士による口腔衛生指導（クラス別）
2023/10/18	質問紙調査3回目
2023/11/2	歯周病検査2回目

R4に本事業の口腔保健教育を受けたR5の2、3年生は「介入有群」とし、R4の1年生、R4の2、3年生は、口腔保健教育を受けていない「介入無群」とした。尚、R5の1年生は、歯科衛生士学生によるクラス別の口腔衛生指導のみを受けており、「一部介入群」とした。

R4、R5の学年別の歯周病所見、自覚症状、口腔保健に関する知識・認識、口腔保健行動の比較のため $\chi^2$ 検定を用いた。統計分析はIBM SPSS Statistics (Version 21.0; IBM Corporation, Armonk, NY, USA)を用いて行い、5%未満を有意水準とした。

##### <歯周病検査と検査結果説明>

歯周病検査は、10名の歯科医師により実施された。歯科医師は、WHOプローブとLEDライト付きデンタルミラー（BSA 桜井株式会社製）を用い、永久歯6本（右上第一大臼歯、



左上中切歯、左上第一大臼歯、右下第一大臼歯、右下中切歯、左下第一大臼歯)の歯周状態(歯肉の出血、歯石お沈着、ポケットの深さ)を6点法により検査した。各対象歯の検査結果は、歯肉出血(コード1)、歯石(コード2)、ポケットの深さ4-5mm(コード3)、6mm以上(コード4)で判定された。検査後に歯科衛生士が、それらの所見がある場合に、所見部位と状態について説明し、歯科医院に受診するように勧めた。

<R4 に実施した遠隔の口腔保健教育の内容（表 2）>

2022 年 12 月 13 日のホームルームの時間に、オンライン会議システム（zoom）により、歯科衛生士の講話と口腔保健動画 1、2 章が全教室に配信された。対象者は、各教室でその配信された授業を教室にある液晶プロジェクターにより大型スクリーンに投影された映像とスピーカーからの音声を視聴した。また、2023 年 1 月 16 日のホームルームの時間に、各学生に対し、個人用の歯周病検査結果シートと歯ブラシが各教室で配布され、同システムを用いて、歯科衛生士の検査結果の説明及び講話と口腔保健動画 3、4 章が全教室に配信された。対象者は、各教室でその配信された授業を視聴し、自分の検査結果シート（図 1）を確認した。

表 2 遠隔口腔保健授業の構成と内容

実施日 時間	形式	内容（時間）
2022/12/13 10:50-12:10	動画	1 章：スポーツ歯科について（15 分 25 秒） 歯、顎の構造 歯牙外傷、歯牙脱臼 マウスガード スポーツドリンクのリスク 口呼吸 口臭 歯列不正 噛むことの重要性
	解説	歯科衛生士による動画の解説（15 分）
	動画	2 章：歯科医療にかかわる職種（19 分 00 秒） 歯科衛生士の仕事内容 歯科衛生士 4 名の現場とインタビュー 歯科技工士 1 名の現場とインタビュー
	解説	歯科衛生士による動画の解説（5 分）
2022/1/16 10:50-12:10	動画	3 章：歯周病の原因と病態について（15 分 50 秒） 口腔細菌とプラークについて 口腔内細菌の顕微鏡映像 プラークの CG プラークのむし歯、歯周病への影響 歯周病とは 歯周病の症状 歯周病の進行（CG） 歯周病と全身への影響
	解説	歯科衛生士による検査結果の説明と動画の解説（10 分）
	動画	4 章：プラークコントロールの実践方法（14 分 54 秒） 歯垢染め出し 歯ブラシの方法 デンタルフロスの使用法 歯磨剤（フッ化物配合歯磨剤含む） 歯科医院での定期健診 歯科医院での歯石除去
	解説	歯科衛生士によるプラークコントロールの解説（10 分）

歯科番号  
XXX

## あなたの歯ぐき(歯肉)の検査結果

受診結果です。次年度も受診をお願いします。

右上奥歯の歯ぐきの状態		上前歯の歯ぐきの状態		左上奥歯の歯ぐきの状態	
出血 (軽度の腫れ)	なし	出血 (軽度の腫れ)	なし	出血 (軽度の腫れ)	あり
歯石	なし	歯石	なし	歯石	あり
歯肉の腫れ	なし	歯肉の腫れ	なし	歯肉の腫れ	なし
右下奥歯の歯ぐきの状態		下前歯の歯ぐきの状態		左下奥歯の歯ぐきの状態	
出血 (軽度の腫れ)	あり	出血 (軽度の腫れ)	なし	出血 (軽度の腫れ)	あり
歯石	なし	歯石	あり	歯石	なし
歯肉の腫れ	中程度	歯肉の腫れ	なし	歯肉の腫れ	なし



全体の状態  
(1か所でも有れば、「あり」)

出血 (軽度の腫れ)	あり
歯石	あり
腫れ (中程度・重度)	中程度

### 歯肉炎(しにくえん)、歯石(しせき)って何ですか？

歯肉炎は、歯ぐきの部分に炎症が生じている状態です。歯肉炎を発症すると、歯肉が赤く腫れ、ちょっとした外的な刺激で出血します。歯肉炎が進行すると、歯を支えるさらに奥深くの組織にも炎症が広がり(歯周炎、ししゅうえん)、最悪の場合、歯を失うことがあります(右図)。

歯周病の主な原因は、歯垢(プラーク)、歯石です。不十分な歯磨きや砂糖の過剰摂取などが原因で、歯と歯ぐきの溝に歯垢がたまって炎症が起きる病気です。歯垢1mgの中に、10億個以上の細菌がいるといわれており、その細菌が原因で歯肉の炎症を引き起こされます。歯石(右写真)は、プラークが硬くなったもので、歯磨きでは除去できず、歯科医院で除去することが必要になります。



歯石



### 歯周病の全身への影響は？

歯垢は歯周ポケットの中に潜り込み、どんどんと歯周組織を破壊していき、炎症によって出てくる毒性物質が歯肉の血管から全身に入り、様々な病気を引き起こしたり悪化させる原因となります。

炎症性物質は、認知症、脳卒中、血管の動脈硬化、糖尿病、早産・低体重児出産等にも関与しています(右図)。



### 歯周病を予防するには？

歯周病の原因となる歯垢を取り除くためには、毎日の正しい歯磨きが大切です。

- ・毎食後、5分以上の歯磨きが推奨されます。
- ・歯垢をしっかり落とすために、デンタルフロス(糸ようじ)なども使うとよいです。
- ・砂糖が多く入った飲み物(スポーツドリンク等)は、むし歯や歯肉炎の原因になるので、注意が必要です。

### 歯科医院での定期的な受診のメリット(むし歯、歯周病を予防するのに最も重要です)

定期的に歯科を受診し、歯のクリーニングを行うことで、以下のメリットがあります。

- ・口の中がとてきれいなになり、口臭を予防できます  
(歯石は歯ブラシで除去できず、歯科医院で除去する必要があります)。
- ・むし歯、歯周病が予防できます(歯が痛くならず済みます)。
- ・早期にむし歯、歯周病を発見し、痛みがひどくなる前に処置できます。
- ・歯みがきが上手になり、毎日口の中がきれいになり、口臭を予防します。  
(歯科衛生士さんに上手な歯みがき法をおしえてもらえます)。



図1 歯周病検査結果シート

<R5 に実施したクラス別の歯科衛生士学生による口腔衛生指導（表 3）>

クラス別の歯科衛生士学生による口腔衛生指導は、1 年生に対し、令和 5 年 8 月 27 日に各クラスにおいて対面形式で実施された。1 クラスに対し、約 8 名の歯科衛生士学生が参加し、口腔衛生講話、集団口腔衛生指導等を約 50 分実施した。

表 3 クラス別の歯科衛生士学生による口腔衛生指導の内容

実施日	形式	内容（時間）
2023/8/28	対面	担当者紹介、実習内容の説明（5 分）
	対面	口腔衛生講話（15 分） 歯の構造、歯の役割 噛むことの重要性 歯肉炎について 歯周疾患
	対面	集団口腔衛生指導（25 分） 導入 歯磨き指導 歯垢染め出し
	対面	質疑応答、終わりの挨拶（5 分）

<結果>

検査及び質問紙調査に参加した学生は、R4 は 1069 名（男性 569 名、女性 500 名）、R5 は 1151 名（男性 573 名、女性 578 名）で、参加率はそれぞれ、88.9%、89.2%であった（表 4）。

表 4 調査対象者の属性

	R4			R5		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1 年生	231	211	442	230	221	451
2 年生	150	148	298	210	212	422
3 年生	188	141	329	133	145	278
合計	569	500	1069	573	578	1151

R4 と R5 の学年別の歯周病有所見者率の比較を表 5 に示す。R5 のコード 1、2、3、4 の所見率は、1 年生でそれぞれ、39.7%、51.2%、15.5%、1.6%、2 年生でそれぞれ 44.1%、51.7%、21.1%、1.4%、3 年生でそれぞれ 36.0%、50.4%、25.9%、0.7%であった。それらの所見率を R4 と比較した場合、コード 1（出血）では、3 年生で R4 の 47.7%より有意に低かった（ $p=0.004$ ）。コード 2（歯石）では、1 年生で R4 の 38.9%より高かった（ $p=0.004$ ）。コード 3（中程度の歯周ポケット）では、1 年生で R4 の 9.0%より高く（ $p=0.003$ ）、2 年生で R4 の 13.4%より高く（ $p=0.008$ ）、3 年生で R4 の 12.8%より高かった（ $p<0.001$ ）。

表5 R4 と R5 の学年別の歯周病有所見者率の比較

	1年生			2年生			3年生		
	R4	R5 一部	p 値*	R4	R5	p 値*	R4	R5	p 値*
	介入無 n (%)	介入 n (%)		介入無 n (%)	介入有 n (%)		介入無 n (%)	介入有 n (%)	
CPI コード									
コード 0									
コード 1 (出血)	180 (40.7)	179 (39.7)	0.753	136 (45.6)	186 (44.1)	0.678	157 (47.7)	100 (36.0)	0.004
コード 2 (歯石)	172 (38.9)	231 (51.2)	<0.001	136 (45.6)	218 (51.7)	0.111	143 (43.5)	140 (50.4)	0.090
コード 3 (中程度の歯周ポケット)	40 (9.0)	70 (15.5)	0.003	40 (13.4)	89 (21.1)	0.008	42 (12.8)	72 (25.9)	<0.001
コード 4 (深い歯周ポケット)	2 (0.5)	7 (1.6)	0.100	6 (2.0)	6 (1.4)	0.541	9 (2.7)	2 (0.7)	0.064

\*:  $\chi^2$  検定

R4 と R5 の学年別の自覚症状を表 6 に示す。歯周病の自覚症状に関する歯磨き時出血、歯肉腫脹の割合は、1 年生で、それぞれ、16.2%、7.6%、2 年生で、それぞれ、16.1%、7.3%、3 年生で、それぞれ、15.1%、9.4%であり、2、3 年生で R4 よりも低い傾向であった。また、2 年生において、R5 の歯磨き時出血の割合は、R4 の 22.1%よりも有意に低かった ( $p=0.040$ )。その他の自覚症状として、2 年生の冷水痛、1~3 年生の口呼吸、2 年生の口臭が R4 よりも有意に低かった ( $p<0.05$ )。

表6 R4 と R5 の学年別の口腔保健知識・認識の比較

	1年生			2年生			3年生		
	R4	R5 一部	p 値*	R4	R5	p 値*	R4	R5	p 値*
	介入無 n (%)	介入 n (%)		介入無 n (%)	介入有 n (%)		介入無 n (%)	介入有 n (%)	
自覚症状									
冷たい水で歯がしる	77 (17.5)	93 (20.6)	0.230	68 (22.9)	63 (14.9)	0.006	75 (22.8)	57 (20.5)	0.495
歯を磨くと血が出る	76 (17.3)	73 (16.2)	0.664	66 (22.1)	68 (16.1)	0.040	64 (19.5)	42 (15.1)	0.160
歯ぐきが腫れている	25 (5.7)	34 (7.6)	0.258	30 (10.1)	31 (7.3)	0.197	38 (11.6)	26 (9.4)	0.373
口で呼吸をしている	148 (33.5)	118 (26.2)	0.018	92 (30.9)	102 (24.2)	0.046	102 (31.1)	53 (19.1)	0.001
口臭が気になる	90 (20.4)	84 (18.6)	0.502	82 (27.7)	82 (19.4)	0.009	93 (28.3)	57 (20.5)	0.027

\*:  $\chi^2$  検定

R4 と R5 の学年別の口腔保健知識・認識を表 7 に示す。歯周病の認知率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、63.4%、70.4%、64.7%であり、R4 のそれぞれ、51.9%、55.0%、53.5% よりも有意に高かった ( $p<0.01$ )。また、口腔の全身への影響の認知率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、58.5%、74.2%、79.1%であり、R5 の 2、3 年生は、R4 の 2 年生 65.1%、3 年生の 64.1%よりも有意に高かった ( $p<0.01$ )。その他では、R5 の自己保持歯数の認知率では、1、3 年生で R4 よりも有意に高く ( $p<0.05$ )、歯科衛生士の職業の認識率では、1 年生で R4 よりも有意に高かった ( $p=0.020$ )。

表 7 R4 と R5 の学年別の行動の比較

	1 年生			2 年生			3 年生		
	R4		R5 一部 介入	R4		R5 介入有	R4		R5 介入有
	介入無 n (%)	n (%)		介入無 n (%)	n (%)		介入無 n (%)	n (%)	
口腔保健知識・認識			p 値*			p 値*			p 値*
歯の治療は怖い	140 (31.7)	148 (32.9)	0.698	98 (32.9)	130 (30.9)	0.569	112 (34.3)	83 (29.9)	0.249
口の健康に興味がある	152 (34.4)	160 (35.5)	0.733	119 (40.1)	167 (39.6)	0.894	148 (45.0)	134 (48.2)	0.429
歯周病について知っている	229 (51.9)	286 (63.4)	0.001	164 (55.0)	295 (70.4)	<0.001	176 (53.5)	180 (64.7)	0.005
自分の歯の数を知 っている	28 (6.3)	47 (10.4)	0.028	27 (9.1)	58 (13.7)	0.055	36 (10.9)	52 (18.7)	0.007
口の病気が全身に 影響すると思う	278 (63.0)	264 (58.5)	0.169	194 (65.1)	313 (74.2)	0.009	211 (64.1)	220 (79.1)	<0.001
歯科衛生士という 職業を知っている	340 (76.9)	375 (83.1)	0.020	259 (86.9)	378 (89.6)	0.271	293 (89.3)	251 (90.3)	0.698
歯科衛生士イメー ジ良い	201 (45.6)	231 (51.2)	0.092	146 (49.0)	234 (55.5)	0.087	171 (52.1)	155 (56.0)	0.347

\*:  $\chi^2$  検定

R4 と R5 の学年別の自覚症状、口腔保健知識・認識・行動を表 8 に示す。1 日 3 回以上の歯磨き実施率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、12.4%、11.1%、10.4%であり、全ての学年において R4 との有意な差は認められなかった。1 回 5 分以上の歯磨き実施率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、54.5%、54.7%、54.7%であり、R5 の 2 年生は、R4 の 45.0% よりも有意に高かった ( $p=0.010$ )。デンタルフロスの使用率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、27.1%、27.7%、29.9%であり、全ての学年において R4 との有意な差は認められなかった。歯磨剤の使用率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、70.9%、85.3%、75.9%であり、R5 の 1 年生は、R4 の 85.0%よりも有意に低く ( $p<0.001$ )、R5 の 3 年生は、R4 の 85.3%よりも有意に高かった ( $p<0.001$ )。また、フッ化物配合歯磨剤の使用率は、R5 の 1、2、3 年生でそれぞれ、51.0%、64.4%、59.4%であり、R5 の 2、3 年生は、R4 の 2 年生の 45.0%、3 年生 51.1%よりも有意に高かった ( $p<0.05$ )。歯磨き指導受講率は、R5 の 1、2、3 年生で

それぞれ、84.0%、84.4%、83.8%であり、R5の1年生は、R4の1年生の65.2%よりも有意に高かった ( $p < 0.001$ )。定期歯科健診の受診率は、R5の1、2、3年生でそれぞれ、53.8%、53.2%、54.0%であり、R5の3年生は、R4の44.6%よりも有意に高かった ( $p < 0.05$ )。その他では、甘い物の頻食率は、3年生でR5の20.5%は、R4の28.3%よりも有意に低かった ( $p = 0.027$ )。スポーツドリンクの頻回飲用率は、全ての学年でR5とR4に有意な差が認められなかった。

表8 R4とR5の学年別の自覚症状、口腔保健行動の比較

口腔保健行動	1年生			2年生			3年生		
	R4	R5 一部		R4	R5		R4	R5	
	介入無 n (%)	介入 n (%)	p 値*	介入無 n (%)	介入有 n (%)	p 値*	介入無 n (%)	介入有 n (%)	p 値*
1日3回以上歯を磨く	52 (11.8)	56 (12.4)	0.765	31 (10.4)	47 (11.1)	0.755	41 (12.5)	29 (10.4)	0.435
1回5分以上歯を磨く	227 (51.4)	246 (54.5)	0.340	134 (45.0)	231 (54.7)	0.010	168 (51.1)	152 (54.7)	0.374
デンタルフロスを使用する	121 (27.4)	122 (27.1)	0.913	83 (27.9)	117 (27.7)	0.970	99 (30.3)	83 (29.9)	0.911
歯磨きペーストを使っている	374 (85.0)	319 (70.9)	<0.001	215 (72.1)	359 (85.3)	<0.001	246 (74.8)	211 (75.9)	0.748
フッ素入りの歯磨きペーストを使っている	240 (54.5)	230 (51.0)	0.289	134 (45.0)	271 (64.4)	<0.001	168 (51.1)	165 (59.4)	0.041
歯磨き指導を受けたことがある	288 (65.2)	379 (84.0)	<0.001	239 (80.2)	356 (84.4)	0.147	262 (79.9)	233 (83.8)	0.212
定期的歯科医院受診している	223 (50.6)	242 (53.8)	0.337	146 (49.0)	224 (53.2)	0.265	146 (44.6)	150 (54.0)	0.022
甘いものをよく食べる	305 (69.0)	299 (66.4)	0.414	189 (63.6)	268 (63.5)	0.972	223 (68.0)	169 (60.8)	0.065
スポーツドリンクをよく飲む	74 (16.8)	84 (18.6)	0.470	37 (12.4)	57 (13.5)	0.669	30 (9.1)	27 (9.7)	0.803

\*:  $\chi^2$  検定

## <考察>

本調査は、R4、R5の高校生を対象に実施した、歯周病検査、質問紙調査の結果を比較し、R4、R5に実施された口腔保健教育の効果を検証した。R4の1年生は口腔保健教育を受けていないが、R5の1年生はクラスごとの歯科衛生士学生による口腔衛生指導のみ受けており、R4とR5の1年生の比較により、その教育効果が確認できる。R5の2、3年生は、遠隔による口腔保健授業等を含めた全ての教育を受けているので、R4の2、3年生との比較により、それらの教育効果が確認できると考えられる。

歯周病検査の結果、出血の所見率は、R5の3年生ほうがR4よりも有意に低かった。この低い理由として、3年生では、R5の定期歯科健診受診率がR4よりも高いことが影響している可能性がある。一方、1年生の歯石の所見率、全ての学年の中程度の歯周ポケットの所見率は、R5のほうがR4よりも有意に高かった。歯肉腫脹などの自覚症状の割合ではR4と比較して差は認められておらず、これらの所見がR5で高くなるとは考えづらい。R5の歯周病検査実施者は10名で実施し、そのうち8名がR4と同じ実施者であった。このことから、診査者の慣れによる検出率の向上がR5の歯石や中程度のポケットの所見率の高さに反映している可能性が高いと考えられた。

歯磨き時出血の自覚症状の割合が、2年生ではR5のほうがR4よりも有意に低く、3年生でも低い傾向であった。歯肉腫脹の自覚症状の割合も、2、3年生ではR5のほうがR4よりも有意ではないが低い傾向であった。2年生では、1回5分以上の歯磨き実施率、歯磨剤使用率、フッ化物配合歯磨剤の使用率が、3年生では、フッ化物配合歯磨剤の使用率、定期的歯科医院の受診率がR5のほうがR4と比較して有意に高く、R5のこれらの口腔保健行動の実施率の高さが、対象者の歯周状態に影響し、自覚症状の低割合に影響している可能性がある。

歯科に関する知識・認識では、2、3年生の歯周病、保持歯数、口腔疾患の全身への影響に関する認知率はR5のほうがR4より高い傾向であり、2年生の保持歯数の認知率以外はR4に比べ有意に高かった。これらの認知率の高さは、R4に実施した教育の影響と考えられる。1年生では、R5のほうがR4より歯周病、自己保持歯数、歯科衛生士の職業の認知率が有意に高く、歯科衛生士学生による対面の口腔衛生指導の効果であると考えられる。

口腔保健行動では、前述のように、2年生では1回5分以上の歯磨き実施率、歯磨剤使用率、フッ化物配合歯磨剤の使用率が、3年生では、フッ化物配合歯磨剤の使用率、定期的歯科医院の受診率がR5のほうがR4と比較して有意に高かった。これらの口腔保健行動の有用性については、遠隔講義による動画、歯科衛生士の歯科衛生士保健指導で伝え、また、個別の歯周病検査結果シートにより、1回5分以上の歯磨き実施、定期的歯科医院の受診を奨励しており、これらの教育が影響している可能性がある。一方、歯周病に効果的であるデンタルフロスの使用率は、R4とR5でほとんど差がなかった。本調査では、2回目の遠隔口腔保健授業の直前に歯ブラシを配布したが、デンタルフロス等の歯間部清掃具の提供などは実施せず、実技の遠隔による指導であったために効果の改善は難しかったかもしれない。



<結論>

以上より、R4の実施した遠隔講義による口腔保健教育と個人用の歯周病検査結果シート配布により、歯肉出血、歯磨き時の出血や歯肉腫脹等の自覚症状の低下、歯周病や口腔疾患の全身への影響に関する知識の向上、歯磨き時間、歯磨剤使用率、定期的歯科健診受診率等の口腔保健行動の改善に寄与する可能性がある。また、R5に実施した歯科衛生士学生による対面の口腔衛生指導により、歯周病、保持歯数、歯科衛生士の職業の認知率、歯磨き指導の受講率の改善に寄与する可能性がある。

### 3.2.2 令和4年 1、2年生の1年間追跡調査

#### 令和5年度歯周病予防事業報告書2 ～令和4年1、2年生の1年間追跡調査～

##### <目的>

某高校の全学生を対象に令和4年度（R4）に実施した口腔保健教育の効果を確認することを目的とし、R4で1、2年生であった学生の歯周病に関する自覚症状、知識、及び保健行動の状況を令和5年度（R5）まで1年間追跡した。

##### <調査方法>

某高校の全校生徒に令和4年11月10日に質問紙調査、11月17日に歯周病検査を実施した。その後、同年12月13日、令和5年1月16日に全校生徒一斉に遠隔授業を用いた口腔保健教育（歯科衛生士の保健指導、動画視聴、個別検査結果シート配布を含む）を2回に分け実施した。令和5年1月23日、11月2日にR4と同様に質問紙調査を実施した。

R4の1、2年生全847名を対象とし、1～3回目の全ての質問紙調査に参加した学生を分析対象者とした。

1回目、2回目、3回目の回答群を、それぞれ、「介入前群」、「3か月後群」、「1年後群」とし、分析対象者全体の自覚症状、口腔保健に関する知識・認識、口腔保健行動を介入前群と3か月後群、介入前群と1年後群でそれぞれ比較した。また、分析対象者を歯周病検査結果により、歯周病所見無しの群「所見無群」と所見有りの群「所見有群」の2群に分け、全体群と同じ項目について同様に、介入前群と3か月後群、介入前群と1年後群でそれぞれ比較した。比較の検定には $\chi^2$ 検定を用いた。統計分析はIBM SPSS Statistics (Version 21.0; IBM Corporation, Armonk, NY, USA) を用いて行い、5%未満を有意水準とした。

<歯周病検査と検査結果説明、及び、R4に実施した遠隔の口腔保健教育の内容>  
報告書1を参照

##### <結果>

R4で1、2年生であった847名の学生で1、2、3回目での脱落者数は、それぞれ、107名、16名、96名であり（表1）、全ての質問紙調査に参加した学生は1年生390名（男性201名、女性189名）、2年生238名（男性125名、女性113名）、合計628名（参加率74.1%）が分析対象者となった（表2）。

表1 調査対象者数、離脱者数、

	参加人数	離脱者数
調査対象者	847	
1回目質問紙調査	740	107
2回目質問紙調査	724	16
3回目質問紙調査	628	96

表2 分析対象者数

	男性数	女性数	合計数
1年生	201	189	390
2年生	125	113	238
合計	326	302	628

所見有無別の介入前、3か月後、1年後の自覚症状の比較を表2に示す。歯磨き時出血の割合は、全体で介入前は19.0%で、1年後は15.4%と減少傾向であったが、有意ではなかった ( $p<0.095$ )。所見無群では、介入前の17.0%に比べ3か月後には9.4%と有意に減少したものの ( $p=0.018$ )、1年後は12.9%と有意ではなくなった。歯肉腫脹では、全体で介入前は7.3%であり、3か月後は10.3%と有意に増加したものの ( $p=0.031$ )、1年後は8.6%と有意ではなくなった。同様に所見有群では、介入前は7.7%であり、3か月後は14.4%と有意に増加したものの ( $p=0.003$ )、1年後は9.7%と有意ではなくなった。口呼吸では、全体で介入前は32.0%であったが、3か月後26.8%、1年後22.8%と介入前と比較して有意に減少した (それぞれ、 $p=0.041$ 、 $p<0.001$ )。所見無・有両群において、同様に介入前に比べて1年後は有意に減少した (それぞれ、 $p=0.031$ 、 $p<0.003$ )。

冷水痛、口臭は全体、所見無・有両群において、介入前と比較して、3か月後、1年後に有意な差は認められなかった。

表2 所見有無別の介入前、3か月後、1年後の自覚症状の比較

自覚症状	全体					所見無群					所見有群				
	介入前	3か月後	1年後	p値*	p値**	介入前	3か月後	1年後	p値*	p値**	介入前	3か月後	1年後	p値*	p値**
冷たい水で歯がしみる	124 (19.8)	134 (21.4)	105 (16.7)	0.494	0.157	44 (19.7)	43 (19.2)	38 (17.0)	0.887	0.450	80 (19.9)	91 (22.6)	67 (16.6)	0.343	0.229
歯を磨くと血が出る	119 (19.0)	107 (17.0)	97 (15.4)	0.364	0.095	38 (17.0)	21 (9.4)	29 (12.9)	0.018	0.233	81 (20.1)	86 (21.3)	68 (16.8)	0.690	0.225
歯ぐきが腫れている	46 (7.3)	68 (10.8)	54 (8.6)	0.031	0.409	15 (6.7)	10 (4.5)	15 (6.7)	0.303	1.000	31 (7.7)	58 (14.4)	39 (9.7)	0.003	0.322
口で呼吸をしている	201 (32.0)	168 (26.8)	143 (22.8)	0.041	<0.000	67 (29.9)	62 (27.7)	47 (21.0)	0.602	0.030	134 (33.2)	106 (26.2)	96 (23.8)	0.031	0.003
口臭が気になる	148 (23.7)	135 (21.5)	131 (20.9)	0.355	0.230	44 (19.6)	40 (17.9)	43 (19.2)	0.628	0.905	104 (25.9)	95 (23.5)	88 (21.8)	0.426	0.167

\*: 介入前と3か月後の比較、 $\chi^2$ 検定

\*\*\*: 介入前と1年後の比較、 $\chi^2$ 検定

所見有無別の介入前、3 か月後、1 年後の歯科に関する知識・認識の比較を表 3 に示す。口の健康に興味有りの割合は、全体で 37.5%であり、1 年後は 44.4%と有意に増加した(p=0.012)。所見無群では有意な増加はなかったが、所見有群では、介入前で 37.2%から 1 年後 44.3%に有意に増加した(p=0.041)。歯周病、自己保持歯数、口腔疾患の全身への影響、歯科医衛生士の職業の全体の認知・認識率は、介入前でそれぞれ、53.9%、7.6%、65.6%、81.1%であり、3 か月後でそれぞれ、79.5%、21.5%、76.9%、91.6%、介入 1 年後ではそれぞれ、68.8%、15.4%、76.8%、90.3%であり、介入前と比べて有意に増加していた(p<0.05)。また、それらの認知・認識率は、所見無・有両群において、介入前に比べて、3 か月後、1 年後に有意に増加していた(p<0.05)。歯周病、自己保持歯数の 1 年後の認知率は、3 か月後に比べてもほとんど変化していなかった。歯の治療の恐怖、歯科衛生士の良好なイメージの認知率は、全体、所見無・有両群において、介入前と比較して、3 か月後、1 年後に有意な増加は認められなかった。

表 3 所見有無別の介入前、3 か月後、1 年後の歯科に関する知識・認識の比較

口腔に関する知識・認識	全体			所見無群			所見有群			
	介入前	3 か月後	1 年後	介入前	3 か月後	1 年後	介入前	3 か月後	1 年後	
歯の治療は怖い	205 (32.6)	195 (31.2)	192 (30.6)	62 (27.7)	65 (29.3)	69 (30.9)	143 (35.4)	130 (32.2)	123 (30.4)	0.571 0.441 0.708 0.449 0.334 0.134
口の健康に興味がある	235 (37.5)	255 (40.7)	279 (44.4)	85 (37.9)	88 (39.5)	100 (44.6)	150 (37.2)	167 (41.3)	179 (44.3)	0.247 0.012 0.742 0.150 0.231 0.041
歯周病について知っている	338 (53.9)	499 (79.5)	430 (68.8)	119 (53.1)	178 (79.5)	152 (68.5)	219 (54.3)	321 (79.5)	278 (69.0)	<0.000 <0.000 <0.000 0.001 <0.000 <0.000
自分の歯の数を知っている	48 (7.6)	135 (21.5)	97 (15.4)	22 (9.8)	54 (24.1)	37 (16.5)	26 (6.4)	81 (20.0)	60 (14.9)	<0.000 <0.000 <0.000 0.036 <0.000 <0.000
口の病気が全身に影響すると思う	411 (65.6)	483 (76.9)	482 (76.8)	143 (64.1)	173 (77.2)	176 (78.6)	268 (66.3)	310 (76.7)	306 (75.7)	<0.000 <0.000 <0.000 0.001 0.001 0.003
歯科衛生士という職業を知っている	509 (81.1)	575 (91.6)	567 (90.3)	180 (80.4)	210 (93.8)	210 (93.8)	329 (81.4)	365 (90.3)	357 (88.4)	<0.000 <0.000 <0.000 <0.000 <0.000 0.006
歯科衛生士イメージ良い	615 (98.1)	609 (97.3)	615 (98.1)	220 (98.2)	219 (98.2)	219 (97.8)	395 (98.0)	390 (96.8)	396 (98.3)	0.345 1.000 0.995 0.736 0.269 0.794

\*: 介入前と 3 か月後の比較、 $\chi^2$  検定

\*\* : 介入前と 1 年後の比較、 $\chi^2$  検定

所見無別の介入前、3か月後、1年後の口腔保健行動の比較を表4に示す。1回5分以上の歯磨き実施率は、全体では、介入前47.6%、3か月後61.9%、1年後54.8%であり、介入前と比べて3か月後、1年後は有意に増加していた ( $p<0.05$ )。所見無・有両群では、介入前と比べて3か月後では有意な増加であったが ( $p<0.001$ )、1年後は介入前と比べて有意な差は認められなかった。フッ化物配合歯磨剤の使用率、歯磨き指導受診率は、全体では、介入前でそれぞれ50.8%、72.3%、3か月後それぞれ62.2%、80.4%、1年後それぞれ62.2%、85.0%であり、介入前と比べて3か月後、1年後は有意に増加していた ( $p<0.001$ )。所見有群では、それらの割合は同様に介入前に比べて、3か月後、1年後で有意に増加していた ( $p<0.001$ )。定期健診受診率は、全体では、介入前49.8%、3か月後52.9%、1年後53.7%であり、介入前と比べて3か月後、1年後は有意な差ではなかった。スポーツドリンクの頻回飲用率は、全体では、介入前15.6%、3か月後9.7%、1年後11.6%であり、介入前と比べて3か月後、1年後は有意に減少していた (それぞれ、 $p=0.002$ 、 $p=0.039$ )。所見有群では、それらの割合は同様に介入前に比べて、3か月後、1年後で有意に増加していたが (それぞれ、 $p=0.009$ 、 $p=0.017$ )、所見無群では、介入前と、3か月後、1年後の飲用率に有意な差は認められなかった。

表4 所見無別の介入前、3か月後、1年後の口腔保健行動の比較

口腔保健行動	全体					所見無群					所見有群				
	介入前	3か月後	1年後	p 値*	p 値**	介入前	3か月後	1年後	p 値*	p 値**	介入前	3か月後	1年後	p 値*	p 値**
1日3回以上歯を磨く	64 (10.2)	76 (12.1)	69 (11.0)	0.282	0.647	28 (12.5)	33 (14.7)	28 (12.5)	0.491	1.000	36 (8.9)	43 (10.6)	41 (10.1)	0.407	0.549
1回5分以上歯を磨く	299 (47.6)	389 (61.9)	344 (54.8)	<0.000	0.011	113 (50.4)	147 (65.6)	132 (58.9)	0.001	0.071	186 (46.0)	242 (59.9)	212 (52.5)	<0.000	0.067
デンタルフロス使用する	173 (27.6)	202 (32.2)	179 (28.5)	0.077	0.719	77 (34.4)	85 (37.9)	81 (36.2)	0.431	0.692	96 (23.8)	117 (29.0)	98 (24.3)	0.098	0.885
歯磨きペーストを使っている	495 (79.1)	506 (80.6)	512 (81.7)	0.508	0.249	178 (79.8)	178 (79.5)	180 (80.7)	0.925	0.812	317 (78.7)	328 (81.2)	332 (82.2)	0.370	0.208
フッ素入りの歯磨きペーストを使っている	318 (50.8)	390 (62.2)	390 (62.2)	<0.000	<0.000	122 (54.7)	133 (59.4)	141 (62.9)	0.319	0.077	196 (48.6)	257 (63.8)	249 (61.8)	<0.000	<0.000
歯磨き指導を受けたことがある	454 (72.3)	505 (80.4)	534 (85.0)	0.001	<0.000	174 (77.7)	182 (81.3)	196 (87.5)	0.349	0.006	280 (69.3)	323 (80.0)	338 (83.7)	0.001	<0.000
定期的歯科医院受診している	312 (49.8)	330 (52.9)	337 (53.7)	0.269	0.158	128 (57.4)	133 (59.9)	127 (57.0)	0.591	0.924	184 (45.5)	197 (49.0)	210 (52.0)	0.325	0.067
甘いものをよく食べる	419 (66.8)	395 (62.9)	397 (63.2)	0.145	0.180	159 (71.3)	150 (67.0)	151 (67.4)	0.321	0.372	260 (64.4)	245 (60.6)	246 (60.9)	0.276	0.309
スポーツドリンクをよく飲む	98 (15.6)	61 (9.7)	73 (11.6)	0.002	0.039	27 (12.1)	16 (7.1)	26 (11.6)	0.075	0.870	71 (17.6)	45 (11.1)	47 (11.6)	0.009	0.017

\*: 介入前と3か月後の比較、 $\chi^2$ 検定

\*\* : 介入前と1年後の比較、 $\chi^2$ 検定

## <考察>

本調査は、口腔保健教育を受けた学生を教育実施前、3か月後、1年後の歯周病に関する自覚症状、知識・認識、及び口腔保健行動の変化を比較し、口腔保健教育の効果を検証した。

自覚症状において、歯磨き時出血では、全体では有意ではないが減少傾向であった。口腔保健教育により、1回5分以上の歯磨き実施、歯磨き指導受講等の保健行動の改善が影響している可能性がある。歯肉腫脹の認識率は所見有群で3か月後に有意に増加したが、1年後では減少した。結果通知シートにより自分が歯肉炎と認識したことにより一時的に高まったか、保健行動の改善により歯肉炎が改善している可能性が考えられた。口呼吸の認識割合が介入前と比べて有意に減少していた。遠隔口腔保健授業では口呼吸による口腔健康について説明しており、口呼吸が改善した可能性がある。加えて、R5の4月1日から学校でのマスク着用が原則不要となり、マスク着用の減少率が口呼吸の認識率の減少に影響している可能性もある。

歯周病、自己保持歯数、口腔疾患の全身への影響、歯科衛生士の職業の認知・認識率は、介入前よりも3か月後、1年後に増加しており、口腔保健教育の効果が認められた。しかしながら、歯周病、自己保持歯数の認知率は、3か月後から1年後には減少傾向であることから、これらの認知率を維持するためにはさらなる継続的な教育が必要である。一方、口腔疾患の全身への影響の認知率は、3か月後から1年後での減少は認められなかった。口腔疾患の全身への影響については、遠隔口腔保健授業、個人用の歯周病検査結果シートにおいて説明しており、認識率の継続的な改善に寄与していると考えられる。口の健康に興味有りの割合は、所見有群のみ介入前よりも1年後に増加していた。遠隔口腔保健授業に加え、検査後の歯科衛生士の結果説明や個人用の歯周病検査結果シートにより自分が歯周病の所見があることを認識し、口の健康に興味を持った生徒が増加した可能性がある。歯の治療が恐怖であるとの認識率に改善が認められなかった。歯科治療の恐怖は、歯科医院受診の妨げの要因であり、この認識を改善するための教育プログラムの導入が必要である。

口腔保健行動では、1回5分以上の歯磨き実施率が3か月後に有意に増加した。遠隔口腔保健授業、個人用の歯周病検査結果シートにより1回5分以上の歯磨きの有用性について説明しており、その教育効果により改善したと考えられる。R4の調査結果により、1回5分以上の歯磨きを実施する学生は、歯石の沈着が少ないことが証明されており、この改善が学生の歯石沈着を抑制し、歯肉炎の改善に影響を及ぼす可能性がある。しかしながら、3か月後から1年後では減少しており、改善を維持するためにはさらなる継続的な教育が必要であることが示された。歯磨き指導受講率は介入前よりも3か月後、1年後に増加しており、歯科衛生士による直接、遠隔講義による歯磨き指導の経験が認識率改善に寄与していると考えられる。デンタルフロスの使用や歯科医院の定期的受診の統計的有意な改善は認められなかった。2回目の遠隔口腔保健授業の直前に歯ブラシを配布したが、歯間部清掃具の提供などは実施せず、実技の遠隔による指導であったために効果の改善は難しかったかもしれない。また、歯科医院受診については、歯科健診時に保健指導を行っても歯科受診率が

改善しなかったとの報告もある。従って、通常の歯科保健指導では、歯科受診行動の変容は難しいと考えられ、前述の歯科治療の恐怖等、歯科受診行動に関連する因子を検討し、教育内容の改善を図る必要がある。

#### <結論>

R4 に実施した遠隔講義による口腔保健教育と個人用の歯周病検査結果シート配布により、歯磨き時出血の自覚症状の割合が減少傾向であった。歯周病、自己保持歯数、口腔疾患の全身への影響、歯科医衛生士の職業の認知・認識率が上昇し、1回5分以上の歯磨きの実施、フッ化物配合歯磨剤の使用、歯磨き指導受講、スポーツドリンク頻回使用が改善した。以上より、本事業の口腔保健教育の効果が確認された。改善を維持するには、継続的な教育が必要であることが示され、また、歯科治療恐怖の認識、歯間部清掃器具の使用、定期的な歯科受診を改善するための効果的な教育プログラムの開発が必要であると考えられた。



### 3.3 非認知能力ベースライン調査①

非認知能力の測定及び育成実績のある Edv Future 株式会社と協力し、調査を実施した。本章は Edv Future 株式会社を作成し、専門部会にて確認したものである。

#### 第1節 ベースライン調査概要

##### 1-1 本調査の目的

令和3年度より、高等学校ならびに歯科衛生士養成校における非認知能力育成プログラムを開発するにあたってのベースライン調査を「Edv Path」を用いて実施している。弊社「Edv Path」は、大きく2つの機能から構成される。1つ目は、SEL/EQをはじめとした全20項目を測定が可能な機能「非認知能力アセスメント」(以下、Edv Path アセスメント)である。Edv Path アセスメントは、各学校が独自で実施している教育プログラムの効果測定や生徒の個性や困り感・SOSの把握、生きる力の可視化ツールとして全国各地で活用されている。2つ目は、非認知能力の育成を目的とした授業教材「SEL探究カリキュラム」(以下、Edv Path 授業コンテンツ)である。

本事業では、事業実施校及び調査協力校の協力のもとで「Edv Path アセスメント」を用いた非認知能力の測定を行う(以下、ベースライン調査)。ベースライン調査を通じて、学生の抱える問題などを可視化することを目指す。なお、本調査にて可視化を実施する項目として事業実施校とともに設定したものを下記に示したい。

①社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)

例:自己理解、モチベーション、コミュニケーション能力、  
メタ認知、やり抜く力

②令和3年度調査で高める必要があると考えた項目

a. 歯科衛生士に求められる人物像

例:一つの仕事を丁寧に続ける力、協調性、自主性

b. 専門学校在校生が高めたい力

例:自己肯定感

加えて、可視化された学生の課題に対して、新規プログラムの開発につなげることを主たる目的としている。従い、令和5年度の本事業では、事業実施校に加えて協力校において、歯科衛生課程を履修する専門学校生の非認知能力についてベースライン調査を行うことを通じて、令和6年度以降のプログラム開発に対して示唆されることについて検討したい。

## 1-2 本調査の実施計画

弊社の「Edv Path」を用いて事業実施校及び協力校の1~3年生約700名を対象に、定期的なアセスメント調査を行うこととしている。なお、令和4年度に実施したベースライン調査の残された課題として、調査母数の少なさ及び実施時期の不統一さが指摘された。

従い、令和5年度においては、下記の変更点が生じている

<令和4年度からの変更点>

- ①事業実施校1校から事業実施校及び協力校の計4校に増加
- ②調査実施時期を全4回の実施計画への見直し

Table3.3-1は、事業実施校及び協力校の4校についての概要を示したものである。

**Table3.3-1. 事業実施校及び協力校の概要**

	学生数	備考(学生特性など)
事業実施校	160名	既卒学生が約1~2割在籍
協力校A	164名	沖縄や鹿児島など九州南部の学生も在籍
協力校B	110名	既卒学生が約2~3割在籍
協力校C	142名	既卒学生が約1割在籍

次に Table3.3-2 を示す。これは令和 5 年度本事業におけるアセスメント実施計画をまとめたものである。

**Table3.3-2. 令和 5 年度ベースライン調査計画表及び各校の学習計画**

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
事業実施校	1年生	座学			考查		夏季休業	座学			冬季休業	考查		春季休業	
	2年生	座学+校内実習			考查			座学				臨床実習	考查		
	3年生	臨床実習			考查			臨床実習				国家試験			
協力校A	1年生	座学			考查		夏季休業	座学			冬季休業	座学 考查		春季休業	
	2年生	座学 校内実習			考查			研修				臨床実習Ⅰ			
	3年生	臨床実習Ⅲ			考查			国試対策				卒業試験			国家試験
協力校B	1年生	座学			演習開始 考查		夏季休業	座学			冬季休業	座学 考查		春季休業	
	2年生	座学+相互実習			考查			臨床実習Ⅰ				臨床実習Ⅱ 考查			
	3年生	臨床実習Ⅲ			臨床実習Ⅳ			臨床実習Ⅴ				国試対策 卒業試験			国家試験
協力校C	1年生	座学			相互実習		夏季休業	座学 考查 座学			冬季休業	座学 考查		春季休業	
	2年生	座学+総合実習						考查				臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ			
	3年生	臨床実習Ⅲ						臨床実習Ⅳ				考查 国試対策			国家試験

調査時期の選定方法は、令和 4 年度と同様で「歯科衛生士養成課程における座学での学習や様々な施設における実習の前後での比較が行える時期」から選定している。前述の通り、令和 5 年度は全 4 回のアセスメント時期を設定している。本報告書では、令和 4 年度に取得したデータに加えて、令和 5 年度に取得した 2023 年 4 月から 12 月までの「Edv Path アセスメント」の結果を元にしたベースライン調査について取り扱う。

なお、「Edv Path アセスメント」結果については弊社の担当者がデータ分析を行い、事業実施校及び協力校に対して都度報告会を実施している。その際には、弊社が持つ非認知能力向上のための支援機能である「Edv Path 授業コンテンツ」や「アラート抽出機能(※1)」を踏まえ、学生の非認知能力向上に向けたコーチングアドバイスを行っている。

### 1-3 本調査における測定項目

令和5年度の本事業で測定・分析を行う非認知能力は、Figure3.3-1に示す項目である。本調査では、令和4年度に引き続き、令和3年度調査の結果を踏まえて事業実施校と相談の上で策定している。なお、e.g., Neroni et al. (2022) 及び Weisskirch (2018) が指摘した「自己肯定感と GRIT が相関すること、いずれも学習パフォーマンスに影響を与える」ことについては、令和4年度調査からの裏付けされていることから、令和5年度調査においても継続して調査項目の対象とした。



Figure3.3-1. 本事業実施校における測定項目

## 第2節 本調査の結果

### 2-1 結果の概要

Table3.3-2の実施計画に基づき、事業実施校及び協力校の4校において全4回でのアセスメントを実施している。本稿では、すでに調査を終えている3回分(2023年4月、2023年9月、2023年12月)について取り扱うこととする。なお、令和4年度(2022年4月、2022年9月、2022年12月)に実施した調査結果についても経時的変化を捉えることを目

的に使用している。

本節では、ベースライン調査における調査結果から分かることについてまとめることにより、本事業の目指すプログラム開発に際して示唆されることについて検討する。

## 2-2 調査結果

### 2-2-1 アセスメント結果サマリ

令和5年度の調査結果のサマリとして、調査対象4校での平均スコアの推移を Table3.3-3 に示す。学年ごとに大項目「SEL/EQ」「GRIT」「自己肯定感」で分析した際に、2023年4月、9月、12月の調査結果の変動については「SEL/EQ」「自己肯定感」の学年においてもプラスに推移している。一方で、「GRIT」については調査時期に波が見られており、他の大項目の推移とは異なる変動が見られた。「GRIT」について下位項目に注目すると、平均スコアの低下には「度胸」の低下が特に強く影響していたと解釈できる。

Table3.3-3. 令和5年度調査結果サマリ (4校平均)

測定項目	1年生			2年生			3年生		
	4月	9月	12月	4月	9月	12月	4月	9月	12月
自己理解	3.34	4.08	4.01	3.32	4.06	4.07	3.36	4.02	4.11
社会・他者理解	3.54	4.02	4.06	3.55	4.06	4.06	3.45	4.03	4.06
セルフマネジメント	3.51	3.76	3.78	3.58	3.66	3.78	3.51	3.68	3.90
責任ある意思決定	3.38	3.68	3.74	3.37	3.69	3.79	3.33	3.65	3.85
対人間関係スキル	3.50	3.60	3.64	3.55	3.56	3.61	3.50	3.52	3.59
<b>SEL/EQ 平均値</b>	<b>3.45</b>	<b>3.83</b>	<b>3.85</b>	<b>3.47</b>	<b>3.80</b>	<b>3.86</b>	<b>3.43</b>	<b>3.78</b>	<b>3.90</b>
<b>度胸</b>	<b>3.35</b>	<b>3.00</b>	<b>3.04</b>	<b>3.36</b>	<b>3.07</b>	<b>3.05</b>	<b>3.30</b>	<b>2.92</b>	<b>3.06</b>
復元力	3.54	3.45	3.59	3.59	3.61	3.63	3.45	3.41	3.64
自発性	3.60	3.46	3.49	3.58	3.45	3.54	3.52	3.35	3.51
執念	3.52	3.36	3.40	3.54	3.30	3.36	3.51	3.26	3.49
<b>GRIT 平均値</b>	<b>3.53</b>	<b>3.34</b>	<b>3.41</b>	<b>3.54</b>	<b>3.38</b>	<b>3.42</b>	<b>3.46</b>	<b>3.26</b>	<b>3.45</b>
自己閉鎖性・人間不信	3.16	3.10	3.33	3.15	3.28	3.41	3.21	3.15	3.46
自己表明・対人的積極性	3.44	3.43	3.47	3.53	3.34	3.46	3.55	3.40	3.42
被評価意識・対人緊張	3.21	2.59	2.61	3.14	2.69	2.69	3.22	2.68	2.74
自己受容	3.57	3.93	3.99	3.63	4.05	4.06	3.49	3.94	4.06
自己実現的態度	3.46	3.59	3.68	3.58	3.72	3.73	3.52	3.54	3.78
充実感	3.51	3.77	3.79	3.57	3.83	3.78	3.54	3.69	3.86
<b>自己肯定感 平均値</b>	<b>3.39</b>	<b>3.40</b>	<b>3.48</b>	<b>3.43</b>	<b>3.48</b>	<b>3.52</b>	<b>3.42</b>	<b>3.40</b>	<b>3.56</b>

加えて、それぞれの大項目における下位項目に着目したい。ほとんどの項目でプラスに推移している結果が見られ、これは令和4年度調査の結果と概ね同様であった。マイナス傾向が見られた下位項目は、「度胸」「自発性」「執念」「被評価意識・対人緊張」の4項目であり、令和4年度の「度胸」「自己受容」の2項目と比べて増加した(※2)。その他の項目はプラス推移が見られ、特に、「自己理解」「社会・他者理解」「責任ある意思決定」「自己受容」「自己実現的態度」「充実感」において向上が顕著であった。

次に、令和5年度に実施したEdvPathアセスメントのデータを学年順に整理した際の平均値の変動をFigure3.3-2に示す。

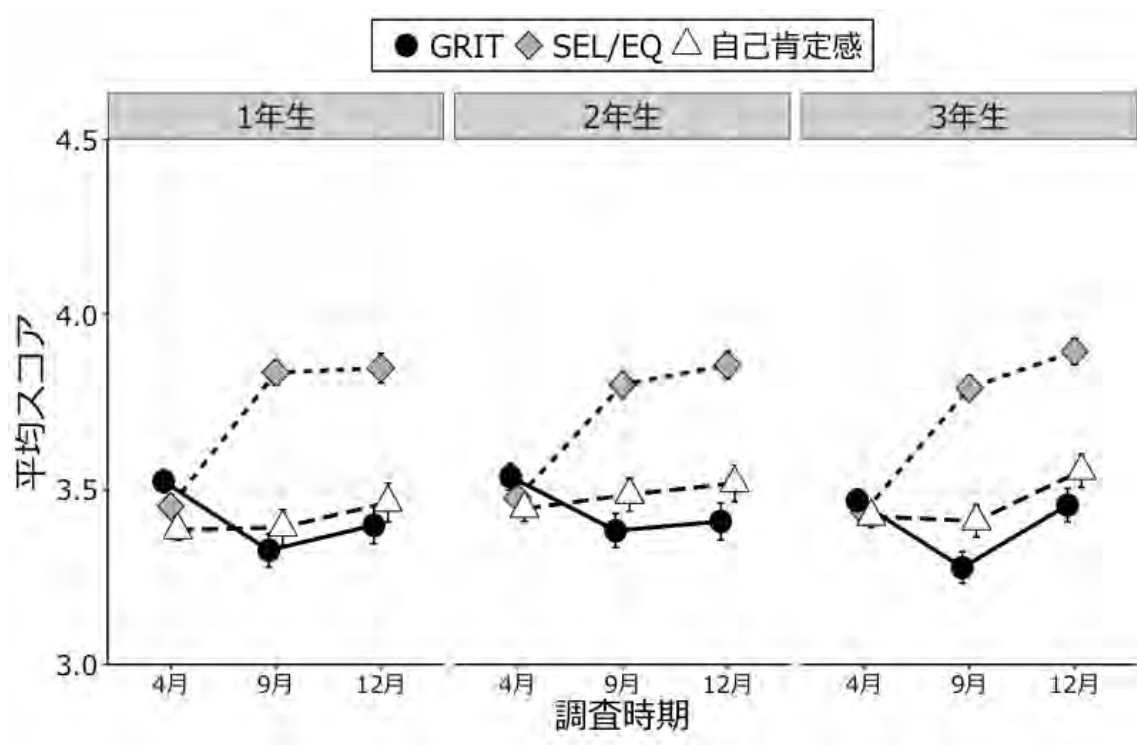


Figure3.3-2. 令和5年度調査における時系列的な推移のベースライン

令和4年度の結果では、事業実施校が持つ教育課程（歯科衛生士養成課程）によって学生の非認知能力が一定程度育成されている傾向も見られたが、実習前に数値の低下が見られるなどの結果も認められている。協力校3校のデータが加わった令和5年度の調査結果からも概ね同様の結果が得られていることから、事業実施校が持つ教育課程特有の変動ではなく、歯科衛生士養成課程の取り組みを通じて、時期による波がありながらも非認知能力の向上に寄与していると分析される。

## 2-2-2 実習前後における変化の傾向（学校ごとの特徴）

本事業の調査における実習前後の比較としては、下記の3地点があげられる。

2年生：2023年9月調査と12月調査（対象は9～12月の臨床実習）

3年生①：2023年4月調査と9月調査（対象は4～8月の臨床実習）

3年生②：2023年9月調査と12月調査（対象は9～12月の臨床実習）

本事業の調査結果では、上記のいずれにおいても「SEL/EQ」の最終的な向上が見られたが、「GRIT」「自己肯定感」については最終的なプラス変化は見られなかった。

ここで、調査を実施した学校別の調査結果サマ리를 Table3.3-4～7に示す。向上の傾向が見られた「SEL/EQ」については、4校間での比較を実施した際に1,2年次での平均スコアに差が見られるものの、3年次にはその差はほとんどない状態にまで成長していることがわかる。

一方で、変化が見られなかった「GRIT」「自己肯定感」についてもそれぞれが特徴的な動きを見せている。「GRIT」については、学年を問わずに2023年9月調査の段階でマイナス傾向が認められている。さらに「自己肯定感」は平均スコアでの大きな変動は見られないものの、自己肯定感を構成する6つの下位項目に着目すると変化が起こっている項目も見られる。

まずは事業実施校に着目したい (Table3.3-4)。1年次の学生との比較において、3年次の終了時点での「自己受容」の平均スコアが若干低下している傾向が見られた。これは、令和4年度と同様である。他の協力校3校においては同様の結果は得られていない。その反面、「被評価意識・対人緊張」が若干の低下傾向が見られており、事業実施校との違いとして明らかになった。

Table3.3-4. 調査結果サマリ (事業実施校)

測定項目	1年生			2年生			3年生		
	4月	9月	12月	4月	9月	12月	4月	9月	12月
自己理解	3.50	4.26	4.19	3.45	4.22	4.10	3.43	3.87	3.81
社会・他者理解	3.66	4.17	4.18	3.87	4.32	4.28	3.71	4.00	3.88
セルフマネジメント	3.75	3.92	3.89	3.97	3.93	4.00	3.58	3.73	3.81
責任ある意思決定	3.57	3.91	4.03	3.56	3.77	3.88	3.35	3.65	3.71
対人間関係スキル	3.67	3.75	3.72	3.85	3.73	3.72	3.58	3.70	3.62
<b>SEL/EQ 平均値</b>	<b>3.63</b>	<b>4.01</b>	<b>4.00</b>	<b>3.74</b>	<b>4.00</b>	<b>4.00</b>	<b>3.52</b>	<b>3.79</b>	<b>3.76</b>
度胸	3.48	3.22	3.17	3.51	3.21	3.13	3.35	3.20	3.23
復元力	3.62	3.53	3.76	3.76	3.75	3.74	3.57	3.59	3.74
自発性	3.74	3.61	3.63	3.79	3.58	3.60	3.63	3.53	3.63
執念	3.70	3.42	3.47	3.84	3.50	3.57	3.59	3.47	3.65
<b>GRIT 平均値</b>	<b>3.65</b>	<b>3.47</b>	<b>3.54</b>	<b>3.75</b>	<b>3.54</b>	<b>3.53</b>	<b>3.55</b>	<b>3.47</b>	<b>3.59</b>
自己閉鎖性・人間不信	3.10	3.08	3.37	3.38	3.36	3.46	3.24	3.31	3.53
自己表明・対人的積極性	3.55	3.65	3.65	3.97	3.50	3.52	3.51	3.58	3.58
<b>被評価意識・対人緊張</b>	<b>3.25</b>	<b>2.49</b>	<b>2.42</b>	<b>3.25</b>	<b>2.65</b>	<b>2.69</b>	<b>3.23</b>	<b>2.95</b>	<b>3.03</b>
<b>自己受容</b>	<b>3.64</b>	<b>4.14</b>	<b>4.20</b>	<b>3.84</b>	<b>4.08</b>	<b>4.08</b>	<b>3.58</b>	<b>3.90</b>	<b>3.96</b>
自己実現的態度	3.62	3.64	3.79	3.78	3.93	3.91	3.47	3.53	3.72
充実感	3.60	3.88	4.02	4.01	4.08	3.92	3.55	3.66	3.79
<b>自己肯定感 平均値</b>	<b>3.46</b>	<b>3.48</b>	<b>3.57</b>	<b>3.70</b>	<b>3.61</b>	<b>3.59</b>	<b>3.43</b>	<b>3.49</b>	<b>3.61</b>



次に、協力校 A に着目したい (Table3.3-5)。協力校 A については、1 年次が 4 校の中で特徴的な傾向を見せている。「SEL/EQ」「自己肯定感」の平均スコアが他校に比較して圧倒的に低い結果となっている。従い、自分自身のスキル面への不安を強く感じている傾向の強い学年であることが指摘される。

Table3.3-5. 調査結果サマリ (協力校 A)

測定項目	1年生			2年生			3年生		
	4月	9月	12月	4月	9月	12月	4月	9月	12月
自己理解	3.14	4.00	3.92	3.27	4.00	4.08	3.26	4.21	4.20
社会.他者理解	3.46	3.90	4.02	3.35	3.99	3.93	3.48	4.08	4.16
セルフマネジメント	3.42	3.65	3.58	3.39	3.56	3.63	3.38	3.66	3.99
責任ある意思決定	3.25	3.54	3.57	3.30	3.60	3.68	3.36	3.76	3.96
対人間関係スキル	3.33	3.40	3.46	3.32	3.48	3.40	3.45	3.43	3.53
<b>SEL/EQ</b>	<b>3.32</b>	<b>3.71</b>	<b>3.71</b>	<b>3.33</b>	<b>3.73</b>	<b>3.74</b>	<b>3.38</b>	<b>3.83</b>	<b>3.97</b>
度胸	3.16	2.69	2.75	3.29	2.95	2.82	3.21	2.67	2.86
復元力	3.39	3.18	3.38	3.44	3.49	3.41	3.41	3.38	3.62
自発性	3.43	3.18	3.29	3.38	3.43	3.44	3.43	3.42	3.64
執念	3.36	3.17	3.10	3.31	3.28	3.27	3.54	3.25	3.50
<b>GRIT</b>	<b>3.35</b>	<b>3.08</b>	<b>3.16</b>	<b>3.37</b>	<b>3.31</b>	<b>3.26</b>	<b>3.42</b>	<b>3.21</b>	<b>3.43</b>
自己閉鎖性.人間不信	3.09	3.01	3.06	3.03	3.15	3.19	3.18	2.94	3.29
自己表明.対人的積極性	3.25	3.08	3.14	3.47	3.42	3.35	3.41	3.36	3.46
被評価意識.対人緊張	3.18	2.36	2.47	3.16	2.67	2.64	3.21	2.69	2.62
自己受容	3.28	3.76	3.81	3.45	4.00	3.98	3.54	4.05	4.25
自己実現的態度	3.20	3.41	3.29	3.57	3.56	3.63	3.59	3.56	3.81
充実感	3.28	3.64	3.61	3.38	3.92	3.79	3.58	3.74	3.86
<b>自己肯定感</b>	<b>3.21</b>	<b>3.22</b>	<b>3.22</b>	<b>3.35</b>	<b>3.45</b>	<b>3.43</b>	<b>3.41</b>	<b>3.39</b>	<b>3.55</b>

次に、協力校 B に着目したい (Table3.3-6)。協力校 B については、2,3 年次での推移に 4 校の中で特徴的な傾向を見せている。「GRIT」の平均スコアに着目した際に、いずれの学校においても 9 月調査段階での低下傾向が見られるが、特に強いマイナス傾向が見られたのが協力校 B である。一方で、「SEL/EQ」「GRIT」「自己肯定感」のそれぞれの平均スコアの変動が大きく、最終的な到達点も 4 校の中で上位に位置している。これは、協力校 B が実証的に実施している臨床実習の取り組みに起因している可能性が示唆される。協力校 B では、第 1 回の臨床実習先を最後の臨床実習で再び実習先として訪れる取り組みを実施している。これにより、自分自身の成長を指導者から認められる体験やそれによる自己肯定感の涵養を意識しているという。令和 5 年度の調査が初回の実施であることから、来年度以降も引き続き、協力校 B の数値の推移については検討をしていく必要性が示唆された。

Table3.3-6. 調査結果サマリ (協力校 B)

測定項目	1年生			2年生			3年生		
	4月	9月	12月	4月	9月	12月	4月	9月	12月
自己理解	3.44	4.11	4.04	3.29	4.16	4.12	3.31	3.94	4.26
社会.他者理解	3.43	4.10	4.12	3.57	4.10	4.12	3.18	4.02	4.13
セルフマネジメント	3.44	3.79	3.88	3.52	3.64	3.92	3.52	3.54	3.92
責任ある意思決定	3.26	3.69	3.64	3.44	3.83	3.98	3.29	3.51	3.86
対人間関係スキル	3.37	3.63	3.76	3.63	3.60	3.74	3.42	3.51	3.67
<b>SEL/EQ</b>	<b>3.39</b>	<b>3.86</b>	<b>3.89</b>	<b>3.49</b>	<b>3.86</b>	<b>3.98</b>	<b>3.35</b>	<b>3.71</b>	<b>3.98</b>
度胸	3.23	<b>2.99</b>	3.18	3.26	<b>3.03</b>	3.21	3.38	<b>2.98</b>	3.12
復元力	3.50	<b>3.58</b>	3.71	3.75	<b>3.63</b>	3.86	3.20	<b>3.25</b>	3.67
自発性	3.54	<b>3.65</b>	3.66	3.65	<b>3.44</b>	3.68	3.57	<b>3.06</b>	3.34
執念	3.55	<b>3.49</b>	3.56	3.60	<b>3.21</b>	3.34	3.52	<b>3.01</b>	3.43
<b>GRIT</b>	<b>3.47</b>	<b>3.46</b>	<b>3.56</b>	<b>3.59</b>	<b>3.35</b>	<b>3.56</b>	<b>3.44</b>	<b>3.10</b>	<b>3.41</b>
自己閉鎖性.人間不信	3.09	3.20	3.44	3.06	3.40	3.50	3.38	3.24	3.52
自己表明.对人的積極性	3.48	3.62	3.63	3.36	3.05	3.52	3.67	3.31	3.40
被評価意識.対人緊張	3.09	2.82	2.76	3.06	2.47	2.62	3.14	2.53	2.83
自己受容	3.57	3.97	4.04	3.63	4.28	4.19	3.47	3.92	4.08
自己実現的態度	3.62	3.70	3.83	3.49	3.82	3.90	3.39	3.41	3.88
充実感	3.45	3.79	3.84	3.61	3.81	3.70	3.48	3.51	3.93
<b>自己肯定感</b>	<b>3.39</b>	<b>3.51</b>	<b>3.59</b>	<b>3.36</b>	<b>3.46</b>	<b>3.58</b>	<b>3.43</b>	<b>3.33</b>	<b>3.60</b>

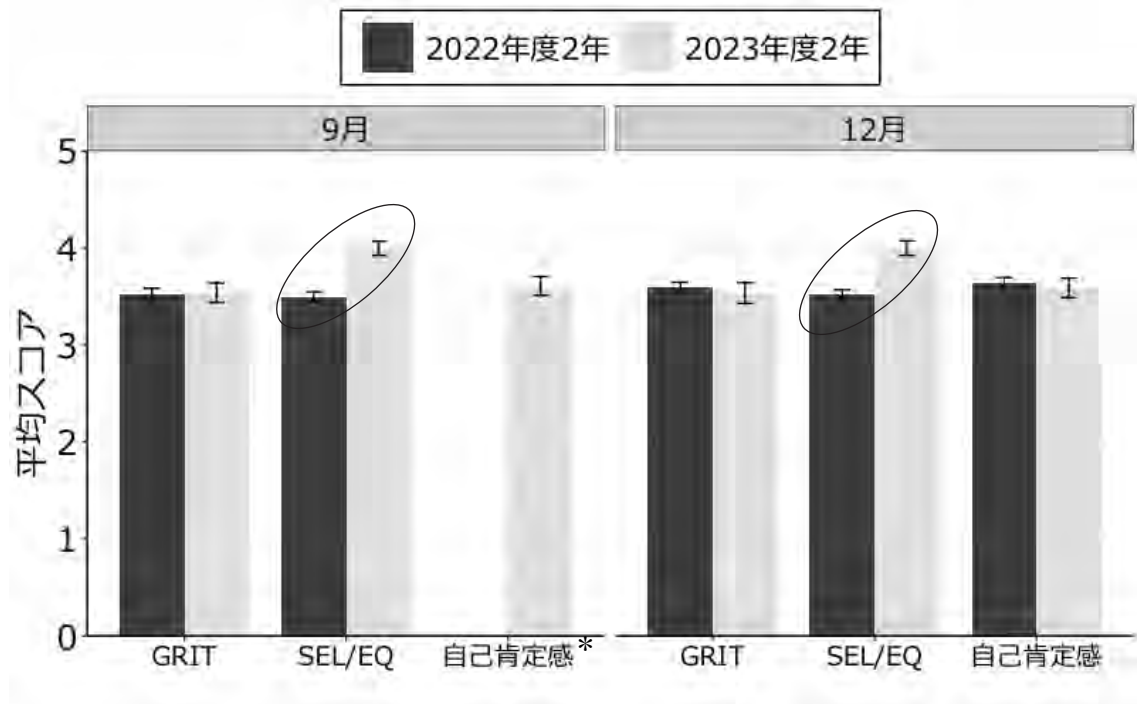
最後に、協力校 C に着目したい (Table3.3-7)。協力校 C は、1,2 年次の 4 月調査から 9 月調査にかけての「SEL/EQ」の伸び率が他の 3 校と比較して弱いことが指摘される。さまざまな要因が検討されるが、協力校 C に特筆される違いとしては、Table3.3-2 に示している通り、9 月調査時期が考査の時期と非常に近い。夏季休業を挟んで期末試験を実施している教育課程を保有しているのは協力校 C のみであり、それにより他校に比較して非認知能力育成のタイミングが遅れを生じており、9 月調査時点での伸びが弱い結果になっていることが検討される。しかし、12 月調査の段階では 4 校間で特筆して平均スコアが低いという結果にはなっていないことから、教育課程の違いによる学生への負の影響はないことが示唆される。

Table3.3-7. 調査結果サマリ (協力校 C)

測定項目	1年生			2年生			3年生		
	4月	9月	12月	4月	9月	12月	4月	9月	12月
自己理解	3.26	3.93	3.91	3.24	3.84	3.96	3.45	4.07	4.16
社会・他者理解	3.60	3.92	3.92	3.43	3.82	3.91	3.44	4.04	4.09
セルフマネジメント	3.42	3.66	3.76	3.44	3.52	3.55	3.55	3.77	3.89
責任ある意思決定	3.44	3.60	3.74	3.19	3.56	3.64	3.31	3.70	3.87
対人間関係スキル	3.64	3.61	3.62	3.41	3.41	3.58	3.56	3.44	3.53
<b>SEL/EQ 平均値</b>	<b>3.47</b>	<b>3.75</b>	<b>3.79</b>	<b>3.34</b>	<b>3.63</b>	<b>3.73</b>	<b>3.47</b>	<b>3.80</b>	<b>3.90</b>
度胸	3.56	3.09	3.07	3.38	3.07	3.04	3.26	2.84	3.01
復元力	3.67	3.49	3.54	3.42	3.56	3.49	3.63	3.40	3.55
自発性	3.71	3.41	3.37	3.49	3.35	3.43	3.45	3.38	3.44
執念	3.49	3.38	3.48	3.40	3.19	3.27	3.39	3.33	3.37
<b>GRIT 平均値</b>	<b>3.64</b>	<b>3.36</b>	<b>3.38</b>	<b>3.44</b>	<b>3.31</b>	<b>3.32</b>	<b>3.46</b>	<b>3.26</b>	<b>3.37</b>
自己閉鎖性・人間不信	3.35	3.11	3.44	3.13	3.19	3.50	3.06	3.12	3.51
自己表明・対人的積極性	3.47	3.38	3.46	3.34	3.40	3.43	3.61	3.35	3.26
被評価意識・対人緊張	3.31	2.69	2.78	3.08	2.96	2.81	3.30	2.55	2.50
自己受容	3.80	3.83	3.91	3.60	3.85	3.98	3.38	3.90	3.96
自己実現的態度	3.40	3.60	3.81	3.49	3.57	3.47	3.62	3.66	3.70
充実感	3.71	3.79	3.71	3.28	3.50	3.72	3.55	3.84	3.84
<b>自己肯定感 平均値</b>	<b>3.51</b>	<b>3.40</b>	<b>3.52</b>	<b>3.33</b>	<b>3.41</b>	<b>3.49</b>	<b>3.42</b>	<b>3.41</b>	<b>3.46</b>

### 2-2-3 令和4年度データとの比較

次に、事業実施校における、令和4年度の結果と本年の比較を実施したい。なお、本稿では、調査時期を整えるため両年度に共通して実施している2,3年生の9月調査及び12月調査の2点での比較を実施することとした。その結果を Figure3.3-4 及び5 に示す。



\* 令和5年度9月は実施せず

Figure3.3-4. 2年次アセスメント結果比較

2年次のアセスメント結果を示した Figure3.3-4 からは「SEL/EQ」については、2集団の間に差が見られた。Figure3.3-5 から3年次のアセスメント結果でも同様の結果が得られている。

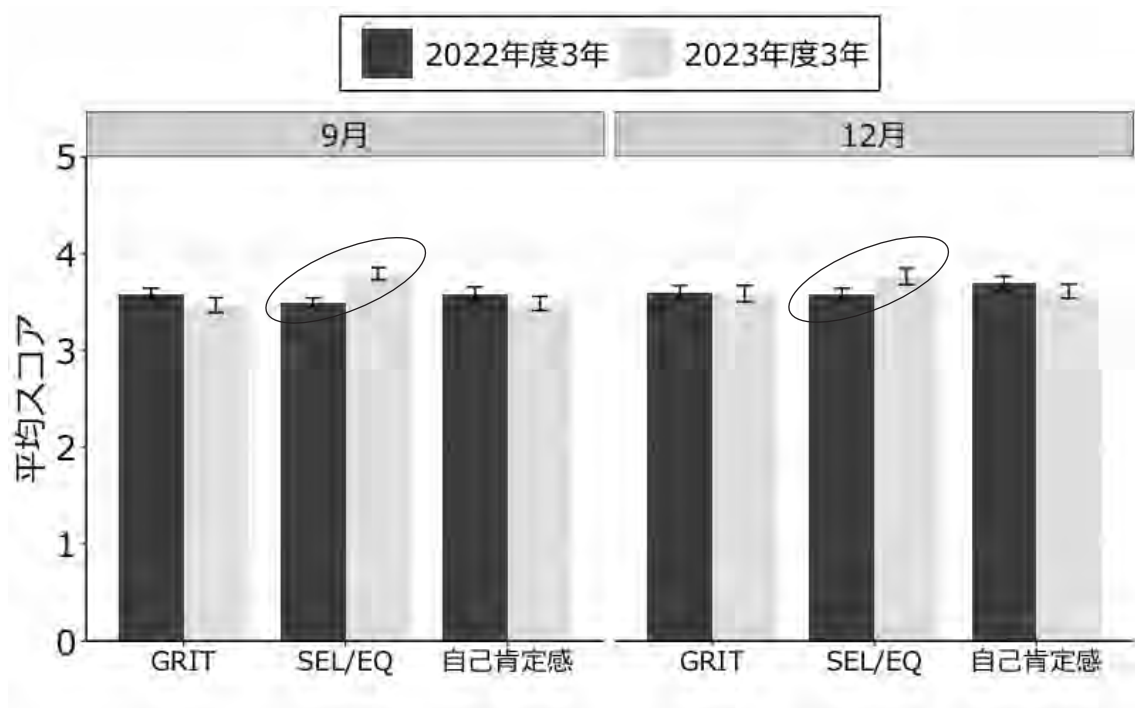


Figure3.3-5. 3年次アセスメント結果比較

特に年度間での差が認められた「SEL/EQ」については、主として歯科衛生士養成課程で中核となる「臨床実習」で育成されている可能性が令和4年度のベースライン調査においても指摘されている。専任教員がそれを理解したことが学生への個別指導内容に反映され、令和5年度の臨床実習が学生に対して与えた影響が大きかった可能性がある。「GRIT」「自己肯定感」については、若干の平均スコアの違いは生じているものの、明らかな差は認められなかった。

#### 2-2-4 専門学校間での比較

最後に、2023年12月に実施したEdv Pathアセスメントデータを用いて、同年代かつ他系統の専門学生のデータを加えて比較した。その結果をFigure3.3-6に示す。比較対象としたのは、2年制の非資格系専門学校に通う2年生であり、当該学生に対して実施したEdv Pathアセスメントデータを用いている。測定対象は本調査と同様に学生本人であり、質問紙についても同様のもので受検を実施している。

事業実施校及び協力校については、2年次であることで初回の臨床実習を終えた時点（あるいは実習中）での調査であり、歯科衛生士養成課程での「SEL/EQ」育成が始まり始めた地点での結果を用いている。従い、比較対象の専門学校に比べて平均スコアが高くなっていく学校が散見される。特に、事業実施校及び協力校Cについては明らかな差が見られており、歯科衛生士養成課程における非認知能力の育成が裏付けられたといえよう。

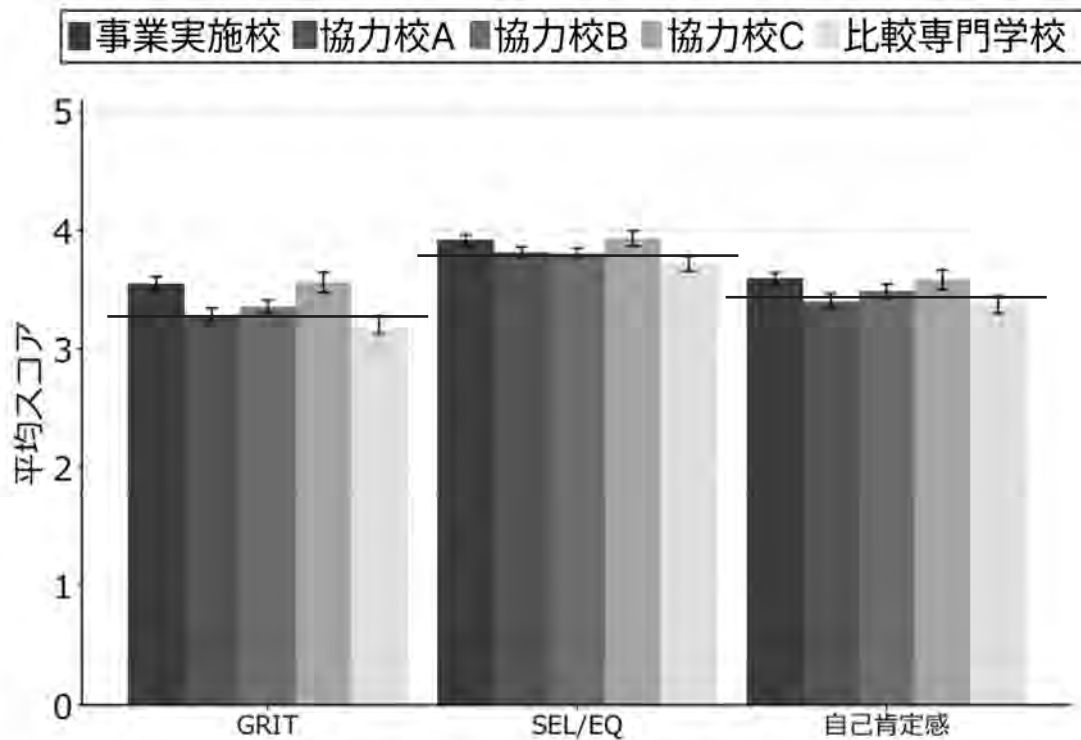


Figure3.3-6. 事業実施校4校と非資格系専門学校の2年生アセスメント結果比較

### 第3節 ベースライン調査から見てきたこと

#### 3-1 調査結果のポイント

令和5年度に実施したベースライン調査の結果から考えられるポイントを以下の4つの視点からまとめる。

##### ①臨床実習前後の比較

実習前後の比較を実施した3点(2年生=2023年9月調査及び12月調査、3年生=2023年4月調査及び9月調査、2023年9月調査及び12月調査)では、共通して「SEL/EQ」の最終的な向上が結果として得られた。これは、令和4年度調査でも明らかになっていた傾向であることから、臨床実習が学生の非認知能力のうち特に「SEL/EQ」の育成に寄与していることを意味していることが推察される。

一方で、「GRIT」「自己肯定感」については最終的なプラス変化は見られなかった。特に、「自己肯定感」を構成する6つの下位項目の対人系項目のうち「自己表明・対人的積極性」

「被評価意識・対人緊張」についてはマイナスの推移が見られた。臨床実習先での指導者との関係性や実習生と指導評価者という関係性の中で、他者を強く意識する時間が長いことが起因している可能性がある。歯科衛生士の職業的特性として、他者との関わりが欠かせない職業であるからこそ、測定項目の中でも特に対人関係に関する項目については歯科衛生士養成課程の中で育成していくべき非認知能力であるといえよう。

#### ②4 校間の結果比較

4校の比較からは、各学校での教育課程の違いなどから若干の推移の違いを見とることができた。特に協力校B (Table3.3-6) 及びC (Table3.3-7) については、他校とは違うスケジュールや臨床実習の仕組みを設けていることによる各項目の平均値の違いなどが生じている可能性が示唆された。一方で、4校の平均スコア自体には集団の違いなどの要因も含めてスコアの差が見られるものの、最終的な到達点の近さや時系列順に並べた際の数値動き方の類似性があることが明らかになっている。

令和4年度調査では、事業実施校の調査結果をもとに歯科衛生士養成課程のベースライン調査を実施してきたため、事業実施校に特有の推移である可能性も払拭できなかった。しかし、令和5年度調査では、3校の協力校のデータを取得したことで、歯科衛生士養成課程の非認知能力の推移の大枠を把握することができたといえる。

その中で若干の学校ごとの特性の違いについては、初年度の調査であったため分析ができていない部分も生じている。令和6年度の本事業においても継続して、ベースライン調査を進めることを通じて、学校ごとの違いについてもより明確にしていく必要性が推察される。

#### ③他系統専門学校との比較

Figure3.3-6において、比較対象の専門学校のデータと比較して平均スコアが高い学校が多く見られていることを指摘した。つまり、歯科衛生士養成課程やその中で実施されている臨床実習を通じて、学生の非認知能力の育成が実施されていることを意味している。一方、歯科衛生課程の中で、非認知能力の伸び悩みのある学生や非認知能力が育成されているにも関わらず「卒業後の早期離職」が問題意識に上がってくることには何らかの要因が隠れている可能性が考えられる。つまり、全体としては「SEL/EQ」や「GRIT」などの非認知能力が育成されている現状を認めることができるが、現場で求められている非認知能力との間に乖離がある可能性がある。

### 3-2 次年度以降のプログラム開発への示唆

本事業の主たる目的は、「中途退学者および就職後1年以内の退職者を減らし、最終的に地域で活躍する歯科衛生士を増やすことを目指す」ことにある。卒業後に歯科衛生士として

活躍していくためには「非認知能力」「社会人基礎力」が必要であることはこれまでの研究で明白であろう。それに基づき、本事業は非認知能力を育成するプログラム開発を目指しているのである。プログラム開発の視点としては、「①中途退学者および就職後1年以内の退職者を減らすことに寄与するプログラム」及び「②臨床の現場で活躍する歯科衛生士の育成に寄与するプログラム」の大きく2つに分けられる。

令和4年度から2年間のベースライン調査の実施により、大卒では歯科衛生士養成課程における非認知能力育成の状況とその推移について掴むことができた。しかし、歯科衛生士に求められる非認知能力の実態については分析されていない。従い、より明確化を進めていくにあたり多種多様なグループでの比較分析が必要であろう。

「①中途退学者および就職後1年以内の退職者を減らすことに寄与するプログラム」に対しては、該当する学生や歯科衛生士の傾向や共通点を明らかにしなければならない。特に「卒業後の早期離職」についてはその要因や傾向が明らかにできていない(※3)。さらには、各校で生じている「学生の中途退学」に対しても傾向が掴めていない現状がある。令和4年度及び令和5年度に中途退学及び休学した学生についてのデータを分析した結果としては、共通点は現状把握できていない。得られたデータをもとに傾向やパターンについては、引き続き弊社にて分析を進めていくこととしたい。加えて、卒業後の追っかけ調査を実施することにより、早期離職者に共通する在学時点での傾向やパターンを掴める可能性もあろう。

「②臨床の現場で活躍する歯科衛生士の育成に寄与するプログラム」開発にあたって育成したい非認知能力を見定めるために、臨床実習に対する満足度の高い学生と低い学生での比較や、指導者からの評価の高かった学生と低かった学生のベースラインの違いなどを明確にしていくことも必要であろう。これらの比較を通じて、より歯科衛生士に臨床の現場で求められている非認知能力を明確にした上で、それらを育成するための非認知能力育成プログラムの開発に進めていく必要があると考えられる。

## 注釈

(※1) EdvPathの「アラート抽出機能」は、回答したデータを元に「誰が」「何に対して」「どのように困っているのか」を自動で抽出する機能。弊社で「EdvPathアセスメント」によって取得した直近数万件のデータを元に分析を実施し、独自ロジックを開発。アセスメント実施後すぐに支援リスクの高い結果を抽出し、教員アカウント上へアラートを表示する2023年夏にリリースされた新機能である。

(※2) 令和5年度のベースライン調査において、「度胸」「自発性」「執念」「被評価意識・対人緊張」の4項目のマイナス変化が3学年共通して見られたが、2,3年生においては「自己表明・対人的積極性」においてもマイナス推移が見られている。

(※3) 令和4年度及び令和5年度については、「卒業後の早期離職者」については



調査分析の対象としてきていないため分析は実施していない。一方で、「学生の中途退学」については令和4年度及び令和5年度の継続して分析を実施しているが、現段階で特筆すべき傾向が見られていないため、別の角度からの分析を検討している。

## 参考文献

- Edv Future 株式会社「生きる力を育む成長型支援サービス Edv Path | サービスページ」  
<https://lp.edvpath.jp/>
- 一般社団法人福岡県歯科医師会 福岡歯科衛生専門学校 (2023)「専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証 With コロナ/人生 100 年新時代における歯科衛生士養成専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証事業 成果報告書」  
『令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」』
- 韓民 (1996)『現代日本の専門学校—高等職業教育の意義と課題—』玉川大学出版部
- 経済産業省 (2006)「社会人基礎力に関する研究会 —「中間取りまとめ」—」
- 厚生労働省 (2004)「若年者就職基礎能力修得のための目安策定委員会報告書」
- Neroni, J., Meijs, C., Kirschner, P. A., Xu, K. M., & de Groot, R. H. (2022). Academic self-efficacy, self-esteem, and grit in higher online education: Consistency of interests predicts academic success. *Social Psychology of Education, 25*(4), 951-975.
- OECD (2015)“Skills for Social Progress: the Power of Social and Emotional Skills”, *OECD Skills Studies*, OECD Publishing, Paris.
- 植上一希 (2011)『専門学校の教育とキャリア形成 進学・学び・卒業後』大月書店
- Weisskirch, R. S. (2018). Grit, self-esteem, learning strategies and attitudes and estimated and achieved course grades among college students. *Current Psychology, 37*(1), 21–27.

## 3.3 非認知能力育成ベースライン調査②

### 3.3.1 調査概要

#### (1) 調査目的

歯科衛生学生の社会人基礎力と非認知能力の実態と関連性について統計分析を用いて明らかにし、非認知能力育成プログラム開発のための基礎資料とする。

#### (2) 調査対象

福岡県内にある2つの歯科衛生士養成校（学科）の2023年度在籍者を対象に2023年4月に実施した調査のうち、同意が得られた以下の者の結果を用いた。

- ・ A校の164名（1年生58名、2年生58名、3年生48名）
- ・ B校の155名（1年生51名、2年生51名、3年生53名）

#### (3) 調査方法および項目

社会人基礎力の調査は既存の調査票<sup>1)</sup>を用い、3つの能力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を調査した。非認知能力は前述のEdv Future株式会社の調査システムを用いて、SEL（Social Emotional Learning：社会性と情動の学習）とGRIT（長期目標に対する情熱と粘り強さ）を調査し、非認知能力に影響を及ぼす外的要因として、周辺環境（友人関係や家庭環境等の生徒自身の範囲外の状況）と自己肯定感を合わせて測定した。それぞれの取りうる平均値は最小値1.00、最大値5.00である。

#### (4) 調査結果まとめ

##### A. A校

社会人基礎力の学年別の平均値は、「前に踏み出す力」が1年生3.7、2年生3.5、3年生3.8、「考え抜く力」が1年生3.6、2年生3.7、3年生3.8、「チームで働く力」1年生4.2、2年生4.1、3年生4.3、3つの能力の合計が1年生3.9、2年生3.9、3年生4.3でいずれも3年生が高い傾向があった。学年間の平均値に有意な差がみられたのは、「前に踏み出す力」の2年生と3年生のみであった( $p<0.05$ )。

表1 社会人基礎力に関する学年別の平均値の比較

	1年生	2年生	3年生	1年 vs 2年	2年 vs 3年	1年 vs 3年
	平均	平均	平均	p 値	p 値	p 値
全体	3.9	3.9	4.0	0.571	0.057	0.369
前に踏み出す力	3.7	3.5	3.8	0.146	0.031*	0.729
主体性	4.1	3.8	4.0	0.086	0.253	0.899
働きかけ力	3.4	3.2	3.5	0.475	0.146	0.727
実行力	3.8	3.6	3.9	0.357	0.040*	0.486
考え抜く力	3.6	3.7	3.8	0.826	0.645	0.315
課題発見力	3.8	3.7	3.8	0.773	0.858	0.992
計画力	3.4	3.6	3.9	0.444	0.210	0.013*
創造力	3.7	3.8	3.8	0.729	0.994	0.810
チームで働く力	4.2	4.1	4.3	0.495	0.083	0.532
発信力	4.1	4.0	4.2	0.958	0.247	0.375
傾聴力	4.3	4.1	4.3	0.967	0.944	0.996
柔軟性	4.3	4.1	4.3	0.165	0.215	0.998
状況把握力	4.2	4.1	4.3	0.423	0.117	0.703
規律性	4.5	4.4	4.5	0.511	0.769	0.930
ストレスコントロール力	3.7	3.7	4.0	0.956	0.044*	0.085

\*: p<0.05

非認知能力の学年別の平均値は、SEL が1年生 3.5、2年生 3.5、3年生 3.5、GRIT が1年生 3.5、2年生 3.5、3年生 3.6、自己肯定感が1年生 3.5、2年生 3.4、3年生 3.5、周辺環境が1年生 3.6、2年生 3.6、3年生 3.6、これらを合わせたものが1年生 3.5、2年生 3.5、3年生 3.5 でSEL 以外、3年生が高い傾向があったが、学年間に有意な差が認められなかった。

表2 非認知能力に関する学年別の平均値の比較

	1年生	2年生	3年生	1年 vs 2年	2年 vs 3年	1年 vs 3年
	平均	平均	平均	p 値	p 値	p 値
全体	3.5	3.5	3.5	0.910	0.789	0.962
SEL/EQ	3.5	3.4	3.5	0.554	0.810	0.927
自己理解	3.4	3.4	3.3	0.761	0.891	0.498
他者理解	3.5	3.5	3.6	0.951	0.867	0.973
自己管理	3.6	3.5	3.7	0.692	0.416	0.878
責任ある意思決定	3.4	3.4	3.4	0.970	1.000	0.973
対人スキル	3.7	3.5	3.6	0.333	0.886	0.651
GRIT	3.5	3.5	3.6	0.838	0.942	0.661
度胸	3.3	3.4	3.4	0.944	0.882	0.712
復元力	3.6	3.6	3.7	0.906	0.958	0.774
自発性	3.5	3.6	3.7	0.689	0.590	0.185
執念	3.6	3.6	3.5	1.000	0.717	0.734
自己肯定感	3.5	3.4	3.5	0.775	0.633	0.962
自己閉鎖性	3.2	3.2	3.2	0.995	0.925	0.956
対人積極性	3.6	3.6	3.8	0.995	0.440	0.387
対人緊張	3.1	3.0	3.1	0.686	0.943	0.889
自己受容	3.8	3.7	3.6	0.894	0.647	0.386
自己実現	3.6	3.4	3.8	0.337	0.038*	0.499
充実感	3.5	3.6	3.6	0.953	0.998	0.973

\*: p<0.05

社会人基礎力と非認知能力との間には  $r=0.627$  ( $p<0.01$ ) の相関がみられた。

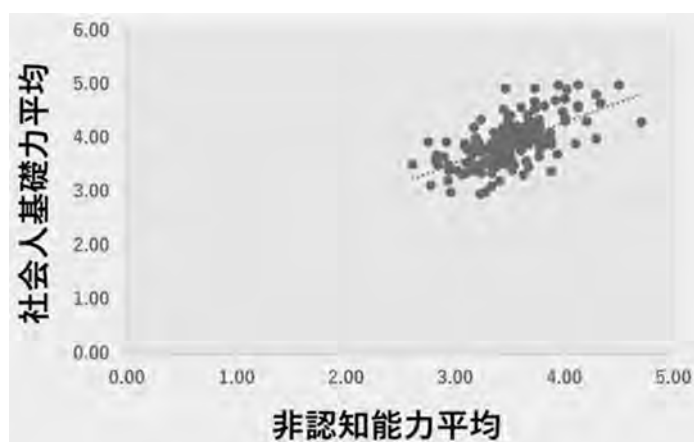


図1 社会人基礎力と非認知能力との相関

社会人基礎力の3つの能力については、いずれの能力も3年生が学年間で最も高く、これは1年生から2年生にかけての積み上げ方式の学修の成果ではないかと考えられる。

#### B. B校

社会人基礎力の学年別の平均値は、「前に踏み出す力」が1年生3.7、2年生3.9、3年生3.6、「考え抜く力」が1年生3.7、2年生3.8、3年生3.7、「チームで働く力」1年生4.2、2年生4.3、3年生4.1であった。3つの能力の合計の平均値は1年生3.7、2年生3.8、3年生3.7でいずれも2年生が高い傾向があった。

表3 社会人基礎力に関する学年別の平均値の比較

	1年生	2年生	3年生	1年 vs 2年	2年 vs 3年	1年 vs 3年
	平均	平均	平均	p 値	p 値	p 値
全体	4.0	4.1	3.8	1.000	0.015*	0.148
前に踏み出す力	3.7	3.9	3.6	0.341	0.005**	0.381
主体性	4.0	4.2	3.8	0.729	0.004**	0.136
働きかけ力	3.3	3.5	3.3	0.475	0.450	1.000
実行力	3.9	4.1	3.7	0.996	0.016*	0.210
考え抜く力	3.7	3.8	3.6	1.000	0.962	1.000
課題発見力	3.8	3.8	3.7	1.000	0.566	1.000
計画力	3.5	3.6	3.6	1.000	1.000	1.000
創造力	3.7	3.8	3.7	0.765	0.721	1.000
チームで働く力	4.2	4.3	4.1	1.000	0.017*	0.093
発信力	4.3	4.3	3.9	1.000	0.010**	0.012*
傾聴力	4.3	4.4	4.2	1.000	0.122	0.568
柔軟性	4.3	4.4	4.2	0.841	0.132	1.000
状況把握力	4.4	4.5	4.0	1.000	0.001**	0.005**
規律性	4.6	4.6	4.4	1.000	0.109	0.357
ストレスコントロール力	3.6	3.8	3.7	1.000	0.990	1.000

\*: p<0.05, \*\*p<0.01

非認知能力の学年別の平均値は、SELが1年生3.6、2年生3.7、3年生3.6、GRITが1年生3.6、2年生3.7、3年生3.6、自己肯定感が1年生3.5、2年生3.7、3年生3.4、周辺環境が1年生3.7、2年生3.8、3年生3.6であった。これらを合わせたものが1年生3.6、2年生3.7、3年生3.5でいずれも2年生が高い傾向があった。学年間の平均値に有意な差がみられたのは前に踏み出す力、チームで働く力、社会人基礎力全体、自己肯定感の4因子であり、いずれも2年生が3年生よりも高かった。

表4 非認知能力に関する学年別の平均値の比較

	1年生	2年生	3年生	1年 vs 2年	2年 vs 3年	1年 vs 3年
	平均	平均	平均	p 値	p 値	p 値
全体	3.6	3.7	3.5	0.738	0.111	1.000
SEL/EQ	3.6	3.7	3.5	1.000	0.206	0.632
自己理解	3.5	3.4	3.4	1.000	1.000	1.000
他者理解	3.7	3.9	3.7	1.000	0.846	1.000
自己管理	3.8	4.0	3.6	0.751	0.042*	0.584
責任ある意思決定	3.6	3.6	3.4	1.000	0.079	0.148
対人スキル	3.7	3.	3.6	1.000	0.260	1.000
GRIT	3.6	3.7	3.6	1.000	0.371	1.000
度胸	3.5	3.5	3.4	1.000	1.000	1.000
復元力	3.6	3.7	3.6	0.911	0.312	1.000
自発性	3.7	3.8	3.6	1.000	0.417	1.000
執念	3.7	3.8	3.6	1.000	0.502	1.000
自己肯定感	3.5	3.7	3.4	0.025*	0.016*	1.000
自己閉鎖性	3.1	3.4	3.2	1.000	0.121	0.442
対人積極性	3.5	4.0	3.5	0.009	0.007**	1.000
対人緊張	3.3	3.2	3.2	1.000	1.000	1.000
自己受容	3.6	3.8	3.6	0.441	0.314	1.000
自己実現	3.6	3.8	3.5	1.000	0.265	1.000
充実感	3.6	4.0	3.6	0.045*	0.014*	1.000

\*: p<0.05, \*\*p<0.01

社会人基礎力と非認知能力との間には  $r=0.70$  ( $p<0.001$ ) の相関がみられた。

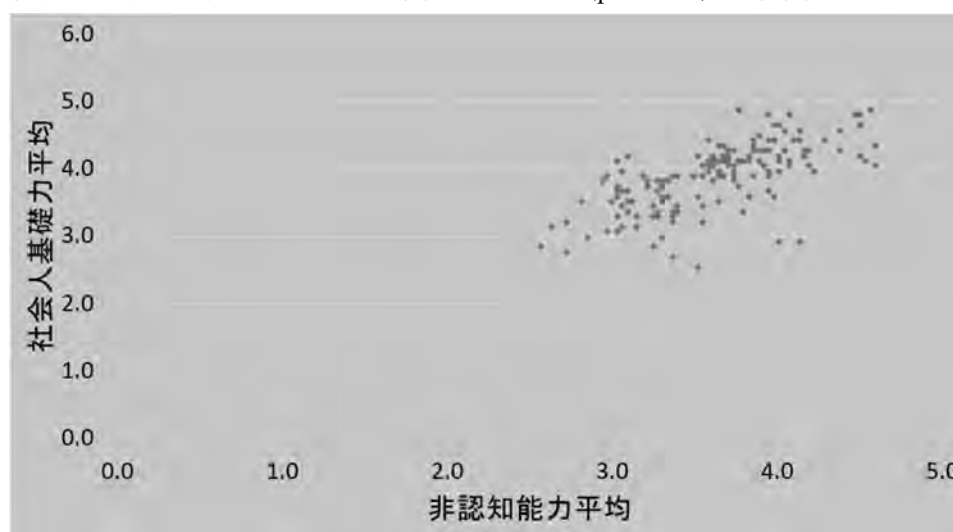


図2 社会人基礎力と非認知能力との相関

社会人基礎力の3つの能力については、各学年ともに「チームで働く力」が最も高く、「前に踏み出す力」や「考え抜く力」の育成を重視する必要があることが示唆された。非認知能力であるSELとGRITはほぼ同じ値をとり、学年間では2年生が最も高かった。1年時の授業や実習を通じて高まるものの2年時を通じて低下する可能性があるが経時的な変化を検討していないため、本研究に加えて今後検討する必要がある。

社会人基礎力と非認知能力の間には有意な相関がみられ、非認知能力の育成プログラムを検討する際に社会人基礎力のそれを参考にすることの必要性を改めて確認した。

#### 参考文献

- 1) 篠原さやか, 山下真理: 課題解決型学習が社会人基礎力にもたらす効果—アンケート調査結果からの考察—. 九州女子大学紀要, 57(2): 11-21, 2021.
- 2) 一般財団法人日本生涯学習研究所: 「非認知能力」の概念に関する考察<集約版>. 2022年9月1日.
- 3) 経済産業省産業人材政策室: 「人生100年時代の社会人基礎力」と「リカレント教育について」. [https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001\\_3.pdf](https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_3.pdf) (2022年7月22日アクセス).
- 4) 古賀 恵, 神光一郎, 梶貢三子: 歯科衛生学生の社会人基礎力に対する臨床実習の効果ならびに自己評価・他者評価に関する分析. 日衛教育誌, 14(1): 19-32, 2023.

## 3.4 新卒歯科衛生士の就業状況調査

### 3.4.1 調査概要

(1) 調査目的

KPI の 1 つである「早期離職率」を調査し、開発するプログラムに活かすこと。

(2) 調査対象

福岡歯科衛生専門学校の卒業生(R2、1、H31 年度卒)約 150 名

(3) 調査方法

A. 該当年度の入学後の動向の情報をを用いる。合わせて卒業時の就職状況票より卒業後すぐの就職先および進路を確認する。

B. 同窓生向けの連絡網システムに任意で登録している者に対して調査を依頼し、Google フォームのアンケートへの無記名での回答を求める。

(4) 調査項目

A. 入学後の動向及び就職先一覧の集計

入学者数、中退・休学・復学者数、卒業生数

卒業年度末時点での就職先

B. アンケート

1. 回答者情報

(1) 卒業期（年度）

2. 卒業後の就業状況

(1) 卒業後の就業状況

① 歯科衛生士として就職し、現在も歯科衛生士として就業している。

→ 質問 3 へ

② 歯科衛生士として就職したが、現在は別の職業についている。

→ 質問 4 へ

③ 歯科衛生士として働いたことはない。

→ 質問 5 へ

3. 2 で①「歯科衛生士として就職し、現在も歯科衛生士として就業している」と回答した方への質問



- (1) 卒業後、いつまでに就職したか
  - (2) 最初に就職する際、最も重視したこと
  - (3) 歯科衛生士として働いて辞めたいと思った（あるいは辞めた）ことがありますか。あれば最も当てはまる理由を教えてください。
  - (4) 歯科衛生士として働いて良かったこと、嬉しかったことは(任意回答)。
4. 2で②「歯科衛生士として就職したが、現在は別の職業についている。」と回答した方への質問
- (1) 歯科衛生士として就業しなくなった時期
  - (2) 別の仕事を選んだ理由（任意回答）
5. 2で③「歯科衛生士として働いたことはない。」と回答した方への質問
- (1) 専門学校で高まったと思う能力
  - (2) 歯科衛生士として働かないことにした理由

- (5) アンケートの回収件数  
合計 95 件（154 名中、61.7%）

(6) 調査結果まとめ

A.入学後の動向及び就職先一覧の集計

令和元年度から令和3年度の3年間に卒業した者は154名である。当該学年の入学者数（平成29年度から令和元年度に入学）は163名、この間の復学者8名、留年者10名、中退者7名である。卒業時点での就職状況は卒業生154名中、歯科衛生士として就職した者が145名（94.2%）、短期大学専攻科（学士課程）に進学した者が4名（2.6%）、歯科衛生士以外の職業を選んだ者および未就業・不明な者が5名（3.2%）であった。

B. アンケート

1. 回答者情報

令和元年度から令和3年度の3年間に卒業した154名のうち95名が回答し、その内訳は令和元年度22.1%（21名）、令和2年度41.1%（39名）、令和3年度36.8%（35名）であり、令和2年度と3年度に比べて令和元年度は少なかった。

2. 卒業後の就業状況

「歯科衛生士として就職し、現在も歯科衛生士として就業している」92.6%（88名）、「歯科衛生士として就職したが、現在は別の職業についている（専業主婦を含む）」3.2%（3名、3名とも2年目以降に離職）、「歯科衛生士として働いたことはない」4.2%（4名）であった。

3. 2にて(1)「歯科衛生士として就職し、現在も歯科衛生士として就業している」と回答した者への質問

3-(1)「就職先を決めた時期」は卒業年度内（3月中）が92.0%（81名）であった。

3-(2)「最初に就職先を決定する際、最も重視したこと（複数回答可）」は就業時間・休日数が44.3%（39名）、給与額が43.2%（38名）、人間関係も43.2%（38名）であった。

3-(3)「歯科衛生士として働いて辞めたい（あるいは辞めた）理由」は人間関係35.2%（31名）、給与額25%（22名）、就業時間・休日数20.5%（18名）であり、辞めたいと思ったことはない者も19.3%（17名）いた。

3-(4)「歯科衛生士として働いて良かったこと、嬉しかったこと（任意回答、記述）」には27名（30.7%）から回答があり、患者さんに感謝されること、患者さんの口の中が綺麗になる（セルフケアが上達する過程が見られる）こと、国家資格で就職先に困らないことなどがあげられていた。

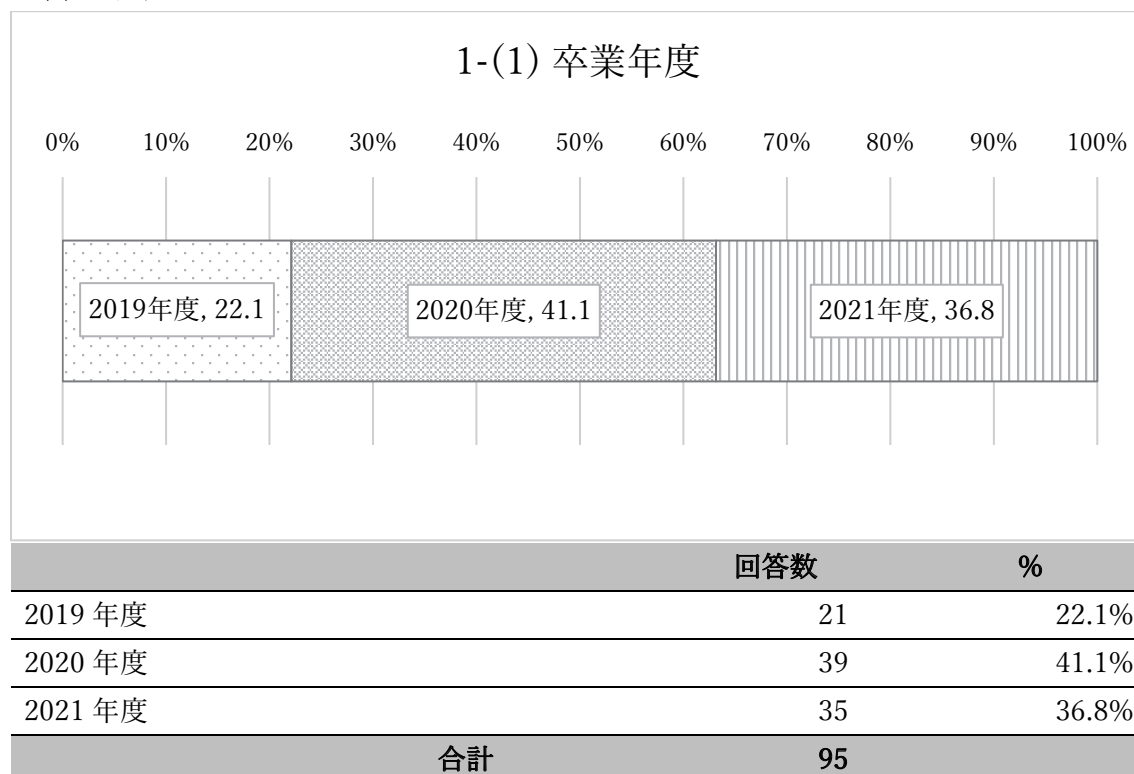
#### 【両調査結果からの考察】

早期離職を新卒で就職後1年以内の離職と考えた場合、今回の調査結果では該当者がいなかった。直近3年間における卒業生の離職者は3名（回答者中3.2%）であり、その全員が2年目以降に離職している。よって新人（1年目）として働く中で2年目以降も歯科衛生士として働く自信や意欲を持たせることが重要ではないかと考えられる。本調査で明らかになった「歯科衛生士として働いて良かったこと、嬉しかったこと」を卒業前あるいは卒業後の早い時期から広く周知し、利点を認識することも必要であろう。

### 3.4.2 調査結果

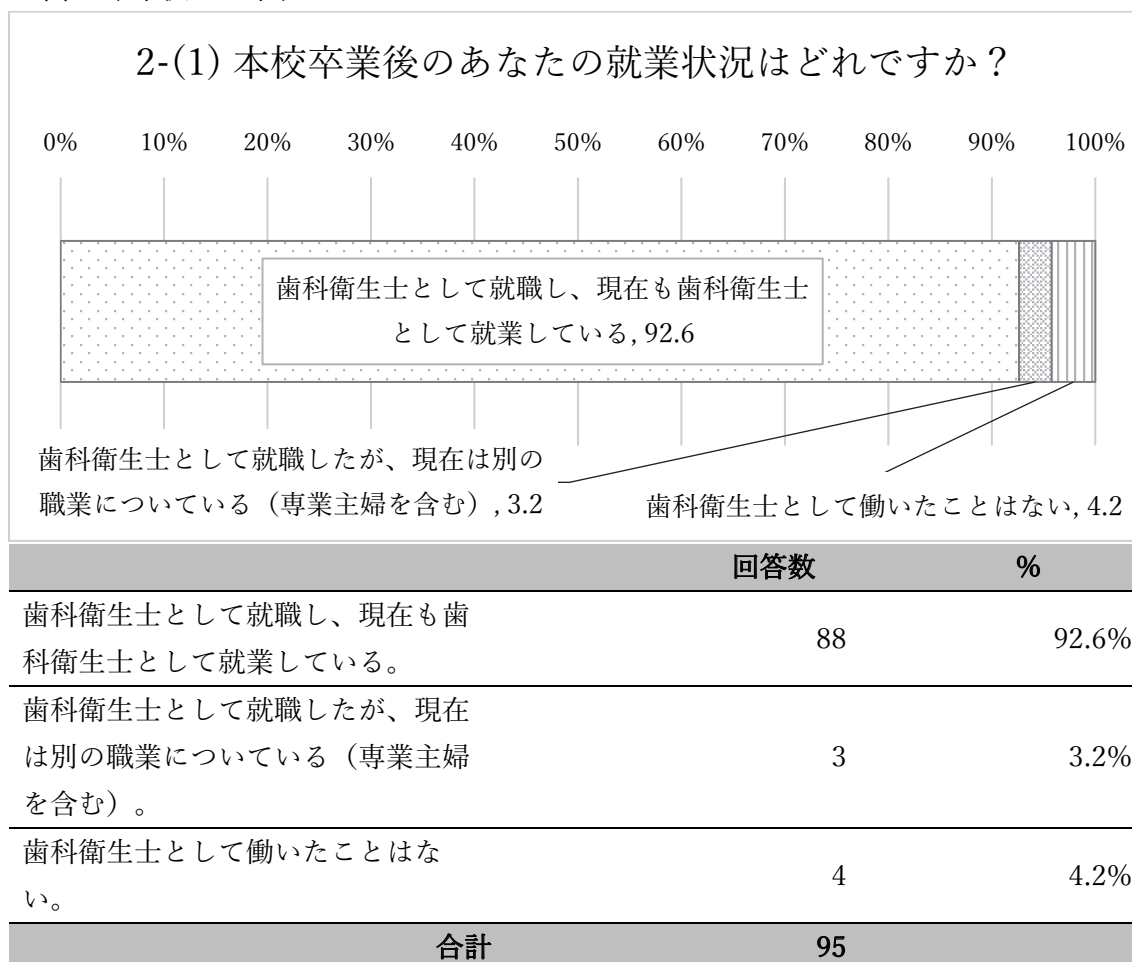
#### 1. 回答者情報

##### 1-(1) 卒業年度



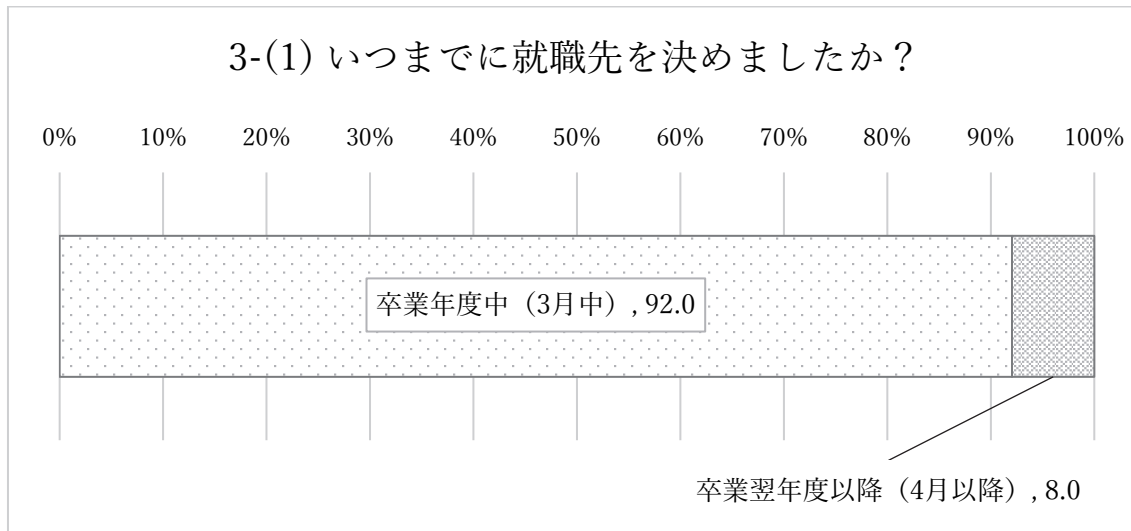
## 2. 卒業後の就業状況

### 2-(1) 卒業後の就業状況



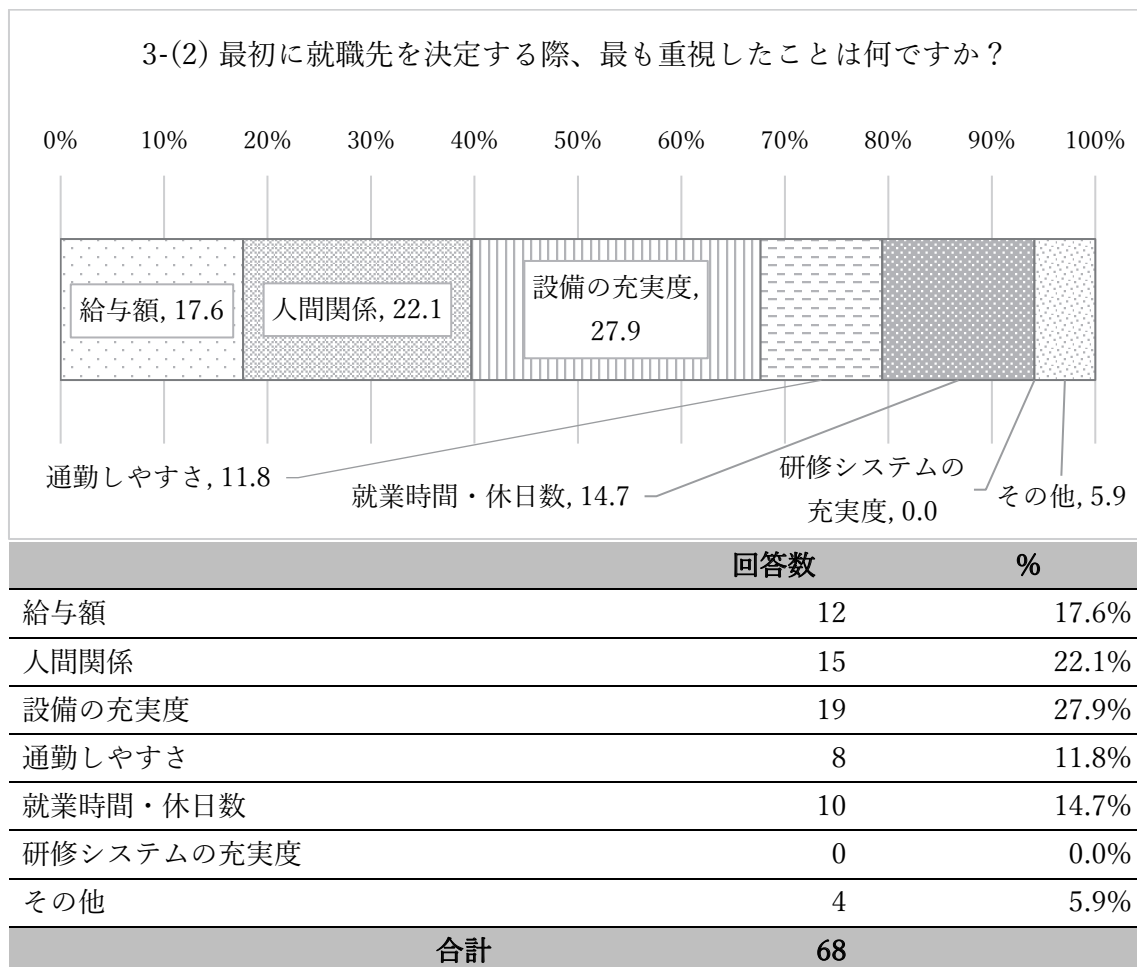
3. 2 で①「歯科衛生士として就職し、現在も歯科衛生士として就業している」と回答した方への質問

3-(1) 卒業後、いつまでに就職したか

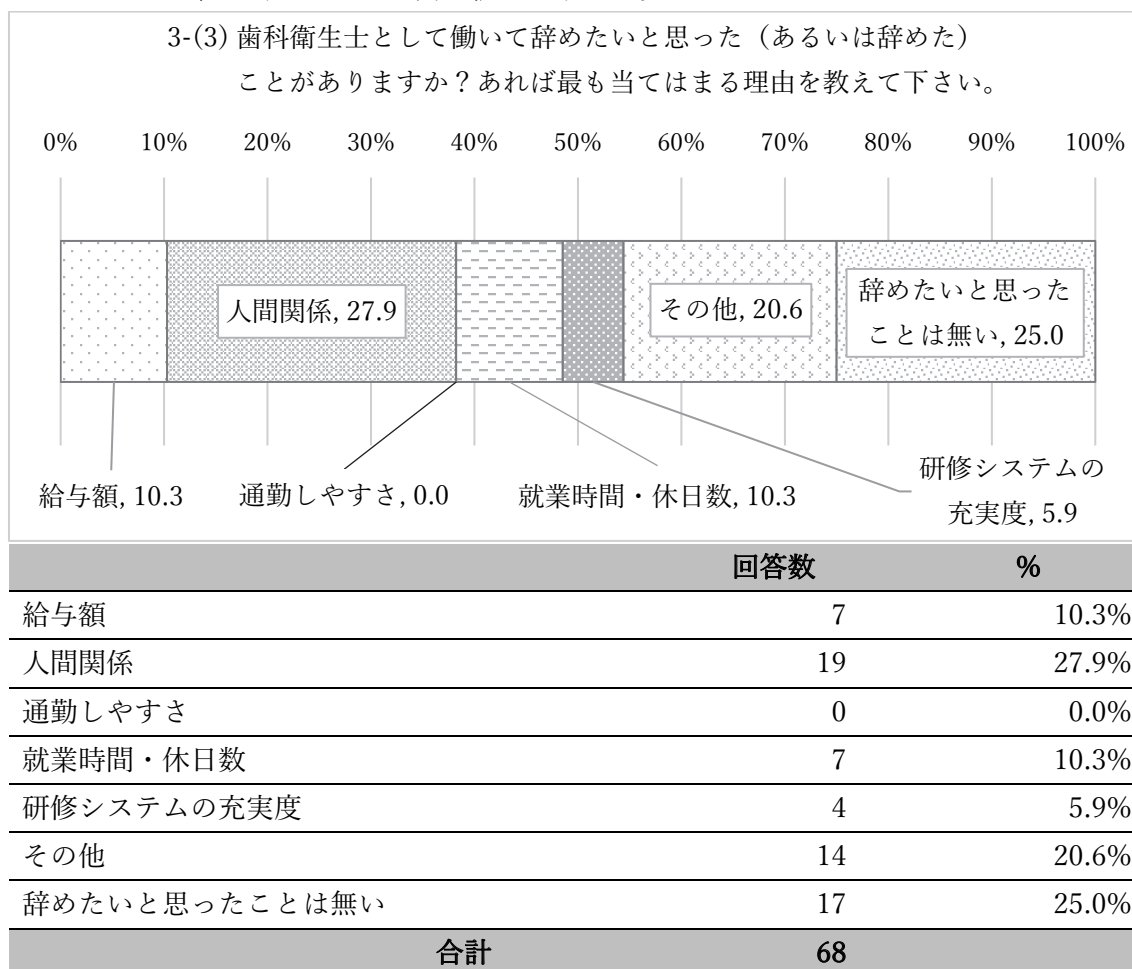


	回答数	%
卒業年度中 (3月中)	81	92.0%
卒業翌年度以降 (4月以降)	7	8.0%
合計	88	

### 3-(2) 最初に就職する際、最も重視したこと



3-(3) 歯科衛生士として働いて辞めたいと思った（あるいは辞めた）ことがありますか。  
 あれば最も当てはまる理由を教えてください。



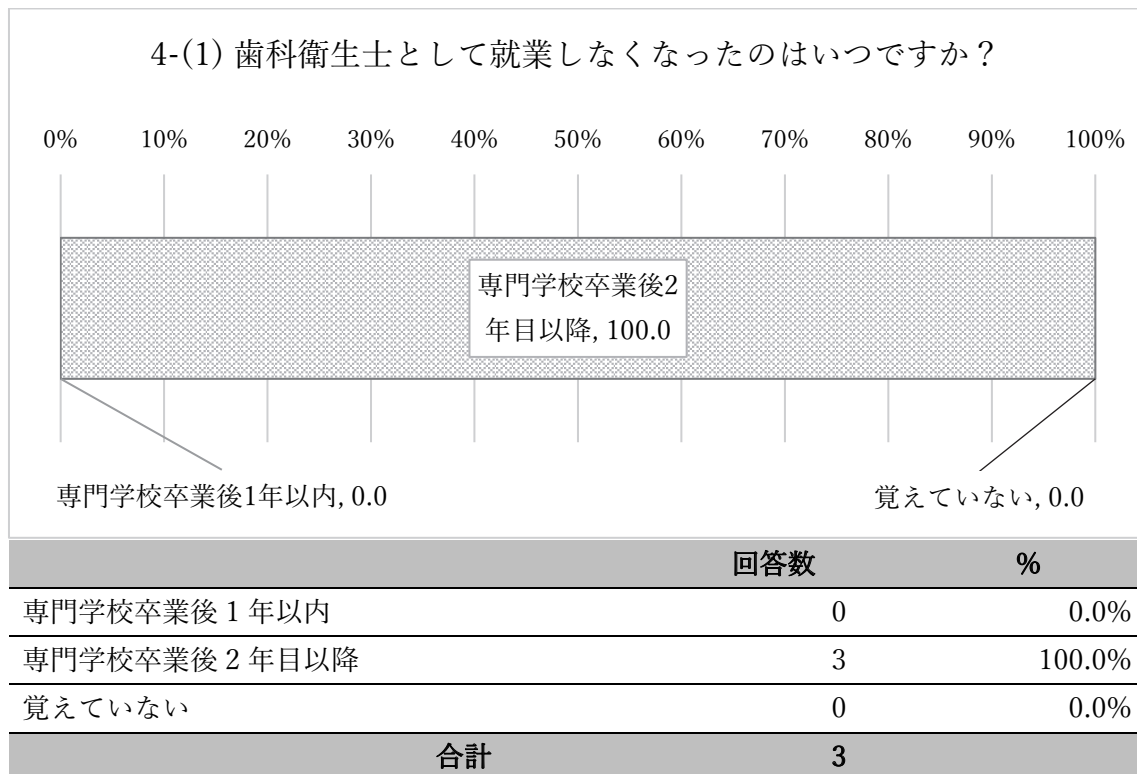
### 3-(4) 歯科衛生士として働いて良かったこと、嬉しかったことは（任意回答）。

- ・自分の技術向上が患者さんの口腔内によって直接実感できる素晴らしい職業だと思う。
- ・患者さんに名前を覚えてもらった時やまたクリーニング来てくれた時。
- ・小児歯科なので、治療を嫌い他院では治療できなかった子が頑張って治療を受けることが出来、そのことに対し嬉しそうな顔をしてくれたとき。
- ・患者さんに感謝されること。資格であるということ。様々な職業の方と連携できるところ。
- ・転職に困らない。
- ・患者様から直接嬉しい言葉を頂いた時。
- ・面白い患者さんがきた時。
- ・患者さんからありがたうと言われると、やりがいを感じる。
- ・患者様の口腔内がきれいになっていく過程を見られること。
- ・クリーニング後、患者さんに「気持ちよかった」と言われた時。歯科恐怖症の患者さんに「あなたがいるから、ここの歯医者さんは通える！」と笑顔で言われた時。
- ・患者さんから気持ちよかったですと言われた時。
- ・患者さんの口の中が綺麗になることがすごく嬉しいから衛生士になって良かったと思う。
- ・患者さんに気持ちがよかったと思ってもらえた時。
- ・国家資格で就職先に困らない。
- ・患者さんと一緒に共感できる点。
- ・あなたが担当してくれて良かったと言われたこと。
- ・予約をとる際に、「この日はお休みをいただいているので別の衛生士が～」とお話したら、「じゃあ別の日にするわ」と言ってもらえたとき。
- ・患者さんが喜んでくれた時にやりがいを感じた。
- ・身の周りの人におすすめの歯ブラシや歯磨き粉を聞いてもらえること。
- ・患者さんが笑顔になり明るくなったこと。
- ・再就職しやすい。
- ・患者さんだけでなく、自分の身近な人達の口腔内の健康を事前に予防してあげられること。また、自分自身がスキルアップする事で、医院に大きく貢献することが出来ると分かった事。
- ・楽しい。
- ・患者さんが笑顔になって帰っていく姿を見ると嬉しくなる。
- ・次もあなたに見てもらいたいと言われたこと。
- ・メンテナンスが終わって患者さんに感謝されること。今までブラッシングを適当にしていた方が、熱心にされるようになり意識が変化したこと。
- ・担当性なので患者さんが「メンテに来るのが楽しい」と言ってくれること、「子供がメンテに来るのを楽しみしている」と親御さんから聞いた時。



4. 2で②「歯科衛生士として就職したが、現在は別の職業についている。」と回答した方の質問

4-(1) 歯科衛生士として就業しなくなった時期



4-(2) 別の仕事を選んだ理由（任意回答）

- ・病気になり退職後通院中
- ・他にしたい仕事があったため

## 5. 2で③「歯科衛生士として働いたことはない。」と回答した方への質問

### 5-(1) 専門学校で高まったと思う能力

	回答数	%
基礎的な知識・技能（日常生活におけるマナーを含む）	1	
専門性・専門知識（歯科衛生学に関する知識と経験）	2	
問題解決力		
批判的思考力		
協働力		
コミュニケーション力		
主体性		
自己管理能力		
自己肯定感		
探求心		
共感性		
道徳心		
倫理観		
規範意識		
公共性		
特になし	1	
合計	4	

### 5-(2) 歯科衛生士として働かないことにした理由

- ・家庭の事情
- ・出産
- ・向いていません
- ・飽きた



## 4. 開発報告

## 4. 開発報告

今年度は「高等学校におけるキャリア教育プログラム」のうち2年生分の指導案、ワークシート、スライドを開発した。さらに授業内で使用する教材群として動画を開発した。また、昨年度開発した「歯科保健教育プログラム」で指導者がまとめて用いるスライドを更新した。

以下にそれぞれの開発物について報告する。ワークシートの解答やスライドの原稿はホームページにのみ掲載しているため、参照いただきたい。

### 4.1 高等学校におけるキャリア教育プログラム2年生分の全体像

学校設定教科「健康科学」年間指導計画

「健康科学 α」 令和5年度後期 1コマ50分

時数	単元	項目	学習内容	担当教科	授業担当学校
1	保健学総論	生活習慣と健康づくりについて	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
2		医療専門職に就くためのキャリアプランニング	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
3		医療従事者の社会的役割	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
4		高校生のうちに習得しておくべきこと	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
5	能力 コミュニケーション	医療におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
6		医療におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
7		保健指導におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
8		保健指導におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
9	口腔と健康	人体の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
10		歯・口腔の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
11		歯・口腔の疾患について	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
12		歯周病と全身とのかかわり	人体の構造	理科	福岡医療短期大学

#### 4.1.1 単元ごとの概要

科目名	健康科学	講座名	健康科学 α	履修年次	2年次
単元名	保健学総論	授業担当	福岡歯科衛生専門学校		
実施形態	一斉（講義）	指導計画	4時間		
到達目標	医療に関わる職業を知り、それぞれの業種における社会的役割を理解する。				
講座内容					
第一次 (1時間)	<p>①ライフステージにおける生活習慣病をみんなはどれくらい知っているか、あげてみる。</p> <p>②自分の生活習慣を見直してみよう。</p> <p>③高校生のうちからやれる、健康づくりとは？</p> <p>※キーワード：お口の健康づくり←全身の健康に重要</p> <p style="text-align: center;">↑ 歯科衛生士という職種の重要性</p>				
第二次 (1時間)	<p>①チーム医療：各医療職が、患者様とどのように関わるのか？</p> <p>②チーム医療における歯科衛生士の役割・業務内容とは？</p> <p>③自分はどんな分野に興味があるかを考えてみよう。</p>				
第三次 (1時間)	<p>①健康づくりに携わる人々（仕事）にはどんなものがあるか？みんなで、知っている職種を、上げてみる。</p> <p>②健康づくりに携わる職種（医療職）の社会的役割について</p> <p>③具体的な職種と資格について</p> <p style="text-align: center;">医師、歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士</p> <p>④医療現場に携わる職種としての歯科衛生士の役割について</p>				
第四次 (1時間)	<p>①KJ法を用いたグループワーク</p> <p style="text-align: center;">テーマ：各医療職に就くために必要なこと（国家資格以外に社会人として必要なこと）を出し合ってみる→テーマ別に分けてみる。</p> <p>②本校専門学校のアンケートの結果（報告書）を紹介することにより、自分たちで出し合ったものとの合致性を検討し、振り返りを行う。</p>				

科目名	健康科学	講座名	健康科学 α	履修年次	2 年次
单元名	コミュニケーション能力	授業担当	九州歯科大学		
実施形態	一斉（講義）	指導計画	4 時間		
到達目標	医療におけるコミュニケーションの意義を理解し、健康に関する行動をとらえる視点や行動変容への働きかけを知ること、保健や医療への関心を高める。				
講座内容					
第一次 (1 時間)	<p>医療におけるコミュニケーション①</p> <p>医療におけるコミュニケーションの基本は患者主体のかかわりです。その根底には人の尊厳を守る医療倫理があります。この回では、全ての医療従事者に共通する倫理観について理解してもらいます。</p>				
第二次 (1 時間)	<p>医療におけるコミュニケーション②</p> <p>患者さんとの信頼関係を築き、治療への積極的参加をうながすコミュニケーションには、言葉や態度などの技術があることを知ってもらいます。</p>				
第三次 (1 時間)	<p>保健指導におけるコミュニケーション①</p> <p>医療従事者の中でもケアにかかわる職種は、健康に関する行動を一定の基準で評価し、その人に適した保健指導を行います。この回では、健康に関する行動について認識を深め、その行動を良い方向に導くための「自己効力感」について知ってもらいます。</p>				
第四次 (1 時間)	<p>保健指導におけるコミュニケーション②</p> <p>食事のときに「よく噛むこと」について、自分の行動を客観的に振り返り、保健行動に対する理解を深めます。加えて、「よく噛むこと」を無理なく実践できる方法を体験することで、「これならできそう！」という「自己効力感」を内面化してもらいます。</p>				

科目名	健康科学	講座名	健康科学 α	履修年次	2年次
单元名	口腔と健康	授業担当	福岡医療短期大学		
実施形態	一斉（講義）	指導計画	4時間		
到達目標	人体及び口腔の構造と機能を知ること、歯・口腔の様々な疾患の理解を深める。特に歯周病については全身疾患との関わりについても学ぶ。				
講座内容					
第一次 (1時間)	<p><b>人体の構造と機能：</b>歯を含めた口腔は広い意味での消化器です。今回は消化器の構造と機能について解説します。消化管は口、咽頭、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門と連続した1本の管で、そこを食べたものが通過する時に消化・吸収を行います。口腔の働きは消化器として重要です。</p>				
第二次 (1時間)	<p><b>歯・口腔の構造と機能：</b>歯はエナメル質・象牙質・セメント質・歯髄でできており、歯の周りは歯肉・歯根膜・歯槽骨で支えられています。口腔には歯 以外に、舌・頬粘膜（頬）・口蓋（上あご）・顎関節（顎の関節）・唾液腺（つばを出す器官）などがあり、これら全てが「噛む・味わう・飲み込む・発音・表情」などに関係するため、とても重要です。</p>				
第三次 (1時間)	<p><b>歯・口腔の疾患について：</b>次にあげる、歯や口腔の疾患（病気）や症状について、説明します。①むし歯、②口臭[お口の臭い]、③口呼吸[鼻呼吸ではなく、口で呼吸]など。</p>				
第四次 (1時間)	<p><b>歯周病と全身とのかかわり：</b>歯周病は、歯の周りの歯茎や骨がなくなっていく病気で、日本人の歯を抜く原因の第一位となっています。さらに口の中の問題だけでなく、糖尿病など様々な全身の病気との関連が報告されており、全身への影響の強い病気です。そこで本授業では、歯周病がどのような病気と関連するかについて簡単にまとめるとともに、歯周病がどのようなメカニズムで全身の病気に関係するかについて解説します。</p>				



## 4.2 单元ごとの詳細 保健学総論

### 4.2.1 指導案（第1次）

第1次 生活習慣と健康づくりについて					
指導目標；生活習慣と全身の健康には密接な関係があることを伝える。 1. 生活習慣病にはどんなものがあるかを考える。【関心・知識・表現】 2. 歯・口の健康づくりが生活習慣病を予防することにつながることを理解する。【知識・思考】					
手立て ・実際に、色のついたクッキーを食べた後の口腔内状況を知り、ブラッシングをすることにより日ごろの習慣を見直させる。 ・某高校の歯肉炎実態調査結果を見せることにより、自分の生活習慣について考えさせる。					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○生活習慣が関わって起こる病気にはどんなものがあるかを考える。 ・知っている生活習慣病をワークシート1に記入。	10分	一斉	う蝕や歯肉炎も生活習慣病の一つであることを伝える。	ワークシート1 生徒の自由な記載に対して介入しない。
展 開 I	○自分の食後の口腔内の状況を知る。 ・配布されたクッキー(OREO)を食べ、食渣の付き具合を、視覚的に確認して、不快感を経験してみる。 ・配布した歯ブラシで、いつものブラッシングを行い、爽快感を確認してみる。 ・ブラッシング時間をお互い比較する。 ・歯と口の健康づくりのために、自分のライフスタイルを振り返り、改善できることは何かを考え、ワークシートに記入する。 [歯磨き習慣、フロスの使用、飲食のタイミング、咀嚼、うがい、かかりつけ歯科医院]	20分	GW	磨き残しを減らすポイント： グループで考えさせ、発表させる。  ブランクと食渣の違いを伝える。	ワークシート2 ワークシート3  ワークシート4
展 開 II	○某高校の歯肉炎実態調査の結果を知ることにより、自分の口腔内を振り返り、ワークシートに記入する。	10分	一斉	歯肉炎ってどんな症状か？をわかりやすく理解させる。(出血・腫れ・発赤などをスライドで解説) ・う蝕や歯肉炎の直接の原因は歯垢であることを再確認させる。 ・「歯みがきによる出血を避けるために歯を磨かない」という行動は悪循環となることに気付かせる。	ワークシート5
ま と め	○今日の学習の振り返りを行う。 ・隣とワークシートを交換し読む。	10分	一斉	・歯と口の健康づくりに欠かさない職業に歯科衛生士というものがあるという関心を促す。	ワークシート6

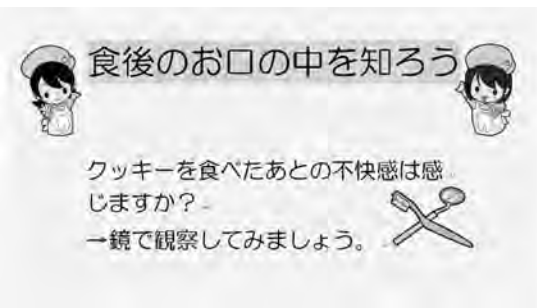
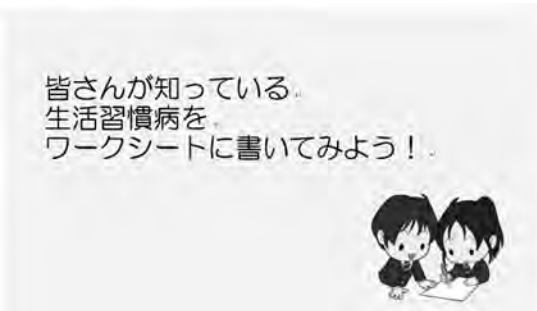
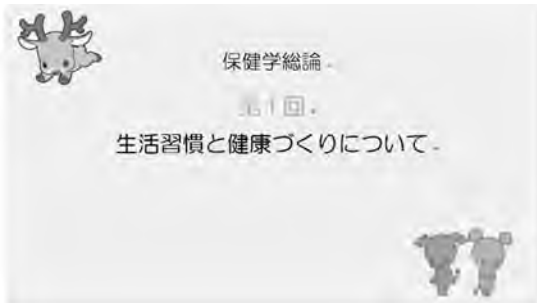
#### 4.2.2 ワークシート（第1次）

【第1次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎あなたの知っている生活習慣病をあげてみよう。</p> <p style="text-align: center;">〔  〕</p> <p>生活習慣病とは：以前は<b>成人病</b>と呼ばれていましたが、子供であっても生活習慣によっては発症することがわかったため、最近では生活習慣病と呼ばれています。</p>
2	<p>◎あなたの歯磨き習慣、みんなと比べてどうですか？○を付けて振り返ろう。</p> <p>時間（ 短い 長い ）</p> <p>鏡はいつも…（ 見ている 見てない ）</p> <p>磨く順番は決まっていますか？（ はい いいえ ）</p> <p>デンタルフロス(糸ようじ)使ったこと（ ある ない ）</p> <p>就寝前に歯磨きをしていますか？（ はい いいえ ）</p> <p>歯磨きをする暇がないときは、うがいをしていますか？（ はい いいえ ）</p> <p>歯科医院に定期健診に行っていますか？（ はい いいえ ）</p>
3	<p>◎磨き残しを減らすポイントは何でしょう？※ヒントは👉にあります(ˆ▽ˆ)/</p> <p style="text-align: center;">〔  〕</p>
4	<p>◎プラーク(歯垢)と食べかすの違いはわかりましたか？</p> <p>プラークとは、皆さんのお口の中にいる（ ）が（ ）をえさにして出す🦠</p> <p>のことで、時間がたつて、できるもの。</p> <p>食べかすはうがいで落ちますが、プラークは落ちません。</p> <p>（ ）が必要になります。</p>
5	<p>◎歯肉炎チェックシート(こんな症状ないですか?)○を付けてみよう。</p> <p>歯磨きの時に痛くないのに血が…（ 出る 出ない ）</p> <p>朝起きた時、お口の中がネバネバ（ している していない ）</p> <p>鏡でみたとき、歯ぐきに赤いところが（ ある ない ）</p>
6	<p>◎今日の授業を聞いて、これから自分の習慣の中で改善できることを書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

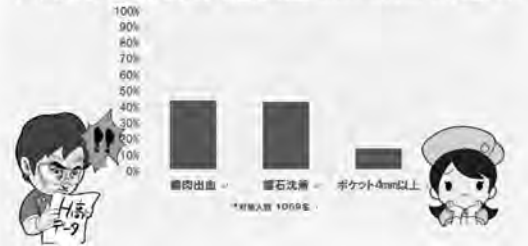
#### 4.2.3 授業スライド (第1次)



### 磨き残して何?? - 二、歯の汚れ



### H高校の歯肉炎実態調査 (2022.9月実施) の結果



### 本日のまとめ

あなたの生活習慣で改善できることは？



## 4.2.4 指導案（第2次）

第2次 医療専門職に就くためのキャリアプランニング					
指導目標；チーム医療の重要性を理解するとともに、進路意識の深化を図る。					
<p>1. 一人の患者様を例にして、総合病院での治療からリハビリまでの関わりを知る。【関心・意欲】</p> <p>2. チーム医療の中での歯科医療の関わりについて知る。【思考・判断】</p>					
手立て					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷で整形外科に入院した高校生を例にした動画を視聴することにより、様々な医療職を知る。</li> <li>・チーム医療の中での歯科の関わりを動画で紹介する。</li> </ul>					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○整形外科病院における医療職の関わり方と チーム医療について興味をもつ。	5分	一斉	チーム医療とは何かを説明 して理解を促す。	
展 開 I	○チーム医療に関わる職種を知る。 ・動画視聴（5分） 「外傷による手術後、3週間の入院をした患者 Aさん（高校生）のケース」	15分	一斉		ワークシート1 ・動画に出てき た職種を記入 してみる。
展 開 II	○高齢化社会におけるチーム医療の中での歯 科医師・歯科衛生士の関わりについて理解す る。	20分	一斉	歯科医師：口腔内の傷及びそ の他の異常の有無を精査 歯科衛生士：口から食べられ なくなった場合の口腔ケア の必要性、誤嚥性肺炎という 言葉の理解を促す。	
ま と め	○自分の興味のある分野はどんなことか？ワ ークシートに記入してみる。	10分	一斉		ワークシート2


#### 4.2.5 ワークシート（第2次）

【第2次 ワークシート】


年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎チーム医療とは</p> <p>1人の患者に、( )のメディカルスタッフ（医療専門職）が( )して、治療やケアにあたることです。</p> <p>異なる職種 of メディカルスタッフが、それぞれの専門スキルを発揮することで、患者の生活の質( )の維持・向上をサポートしています。</p>
2	<p>◎動画に出てきた職種を記入してみよう。</p> <p>( )</p>
3	<p>◎誤嚥とは？</p> <p>( )</p>
4	<p>◎誤嚥性肺炎とは？</p> <p>( )</p>
5	<p>◎チーム医療における歯科医師・歯科衛生士の関わりについて</p> <p><b>歯科医師：</b></p> <p><b>歯科衛生士：</b></p>
6	<p>◎今日の授業を聞いて、あなたはどんな分野に興味を感じましたか？自由に書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.2.6 授業スライド（第2次）




保健学総論  
第2回  
医療専門職に就くためのキャリアプランニング



チーム医療とは？

1人の患者に**複数**のメディカルスタッフ（医療専門職）が**連携**して、治療やケアにあたることです。

異なる職種メディカルスタッフが、それぞれの専門スキルを発揮することで、患者の**生活の質（QOL）**の維持・向上をサポートしています。




チーム医療とは？



管理栄養士、理学療法士、看護師、作業療法士、放射線技師、医師、社会福祉士、臨床検査技師、臨床工学士

動画を観てみましょう。

「部活動中に、前十字靭帯を損傷し手術後、3週間の入院をした患者Aさん（高校3年生）のケース」




動画に出てきた医療職  
いくつ覚えてますか？



高齢化社会における  
チーム医療

歯科は  
どう関わっている  
でしょう？



誤嚥【ごえん】  
という言葉を知っていますか？



誤嚥

食物などが気管に入ってしまうこと

ぼくたちが肺に入ると…

誤嚥

気管：  
空気を肺まで送る管

食道：  
食物を消化管まで送る管



## 誤嚥性肺炎って知ってますか？

誤嚥したものと一緒に細菌が肺に入って炎症が起こったもの  
※高齢者の肺炎の7割が相当

要介護高齢者の死亡数割合



肺炎の年齢別死亡率



## 介護の現場でのチーム医療 歯科 の成果



誤嚥性肺炎の  
発症を6割減らす  
ことに成功



あなたは、どんな分野に  
興味を持ちましたか??





## 4.2.7 指導案（第3次）

第3次 医療従事者の社会的役割					
指導目標；自己の職業的な能力適正を理解し、将来設計を図る。					
1. 前回の講義で知り得た医療職について、仕事内容や取得方法を理解する。【知識・思考】					
2. 各医療職と予防医療との関係性を理解し、その可能性を知る。【関心・意欲】					
手立て					
・前回の動画を、再度視聴し、医療職の仕事内容を説明する。					
・国家資格について説明し、各医療職の取得方法（大学・専門学校）について考えさせる。					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○仕事をするこの意味について自分の考えを記入してみる。	10分	一斉	将来の夢や目標が具体的に なっているかどうかの認識を得 るようサポートする。	ワークシート1
展 開 I	○医療職種と各々の仕事内容について理解を深める。 ・前回の動画を再視聴する。 ・前回知り得た医療職種名をワークシートに記入する。	10分	一斉		ワークシート2
展 開 II	○各医療職取得方法について理解する。 ○自分が興味を持っている分野の医療職種を一つ選び、到達までの道のりをワークシートに記入してみる。	10分	一斉	国家資格についての理解を促す。 各国家資格を取得するためには、どうすればよいかを助言していく	ワークシート3 ワークシート4
展 開 III	○各医療専門職と予防医療との関係性を理解する。	10分	一斉		ワークシート5
ま と め	○自分にできる予防あるいは将来してあげられる予防を自由に記入してみる。	10分	一斉	自分が興味をもった医療職で、やれる予防を考えさせる。	ワークシート6


#### 4.2.8 ワークシート（第3次）

【第3次 ワークシート】


年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎あなたは、何のために仕事をすると、思いますか。自由に書いてみてください。</p> <p>( )</p>
2	<p>◎動画に出てきた医療職種名を、もう一度記入してみよう。</p> <p>( )</p>
3	<p>◎国家資格とは？</p>
4	<p>◎自分が興味を持った分野の医療職種を一つ、選んで書いてみよう。</p> <p>_____ →到達までの道のりは??</p> <p>( )</p>
5	<p>第一次予防：</p> <p>[例]</p> <p>第二次予防：</p> <p>[例]</p> <p>第三次予防：</p> <p>[例]</p>
6	<p>①自分のためにできる予防は何か、書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>②将来、自分がなりたいと思う医療職で、患者様にどんなことをしてあげたいと考えますか？自由に書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.2.9 授業スライド（第3次）




保健学総論  
第3回  
医療従事者の社会的役割

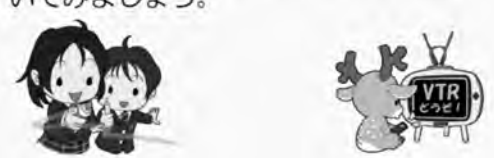


**働かってどんなイメージ??**

高校2年生の皆さん、  
将来の夢や目標、少しは思い描くことが  
できていますか？  
ワークシートに書いてみましょう。



前回の動画をもう一度見てみましょう。  
覚えている職種名をワークシートに書  
いてみましょう。



**医療従事者とは？**



**国家資格**：国の法律に基づいて、各種分野における  
個人の能力、知識が判定され、  
特定の職業に従事すると証明される資格。




**各医療職取得方法について**

**国 家 資 格**



**看護師**

看護専門学校・看護系短大（3年）  
看護大学（4年）  
↓  
看護師国家試験に合格  
↓  
病院・医院勤務




**理学療法士**

理学療法士養成過程  
4年制大学  
短期大学・専門学校（3年）  
↓  
理学療法士国家試験に合格  
↓  
医療機関・高齢者施設 他



**作業療法士**  
 作業療法士養成課程  
 4年制大学・短期大学（3年）  
 専門学校（3年・4年）  
 ↓  
 作業療法士国家試験に合格  
 ↓  
 医療機関・高齢者施設 他



**診療放射線技師**  
 診療放射線技師養成過程  
 4年制大学  
 短期大学・専門学校（3年）  
 ↓  
 診療放射線技師国家試験に合格  
 ↓  
 放射線を扱う病院・研究機関



**歯科衛生士**  
 歯科衛生士養成過程  
 4年制大学  
 短期大学・専門学校（3年）  
 ↓  
 歯科衛生士国家試験に合格  
 ↓  
 一般歯科診療所・総合病院（歯科併設）・高齢者施設 他




**予防医療**  
 医療従事者の活躍の場



**第一次予防**

- ★健康増進：健康教育
- ★特異的予防：予防接種



**第二次予防**

- ★早期発見：健康診断・人間ドック
- ★早期治療



**第三次予防**

- ★リハビリテーション
- ★再発の予防





## 4.2.10 指導案（第4次）

第4次 高校生のうちに習得しておくべきこと					
指導目標：各医療職に就くために、必要なことを理解させる。					
1. 資格を取得するまでの間、そして取得後に必要なことは何かを考える。【関心・意欲・態度】					
2. 高校生のうちに、身に付けておくべきことを、想起できる。【思考・判断】					
手立て					
・グループワークにおいて、社会人として必要なものを認識させる。					
・将来を見据えて、今できることを考えさせる。					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○各医療職に就くために、資格以外に必要なことは何かを考える。	10分	一斉		ワークシート1
展 開 I	○グループワーク テーマ：国家資格以外に社会人として必要なものを出し合ってみる。 →4人グループで、意見を取りまとめてみる →テーマ別に分けてみる。 →ベスト1を決める	15分	GW	みんなで出し合った意見をグループ分けした際のテーマを考えさせる。(アドバイス可)	ワークシート2  ワークシート3
展 開 II	○アンケート結果をもとに、自分たちが出し合った意見との合致性を検討し、振り返りを行う。 →高校生のうちにやれること、身に付けておくべきことは何かを考える。	15分	一斉	本校専門学校生のアンケート結果を紹介し自分たちの意見との合致性を検討させる。	ワークシート4
ま と め	○自分が将来に向けて今、できることをワークシートに書き込んでみる。	10分	一斉	コミュニケーション能力が重要であり、今後の講義につながっていくことを伝える。	ワークシート5

#### 4.2.11 ワークシート（第4次）

【第4次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎医療従事者として働くにあたって、資格以外に必要なことは何だと思いますか？なんでも結構です。思いつくことを3つ、書いてみてください。</p> <p>1. 2. 3.</p>
2	<p>◎みなんで出し合った意見の中に、さらに、違う意見はありましたか？自分の意見以外のものをぜひ、書き留めてみましょう。</p> <p>( )</p>
3	<p>◎あなたのグループの中で、みなんで決めたこれが一番というテーマとその内容を書いてみてください。</p> <p>( )</p>
4	<p>◎本校のアンケート結果(在校生&amp;卒業生)をもとに、これが一番というものをひとつ、書いてみましょう。</p> <p>( )</p>
5	<p>◎将来に向けて高校生の今、できることは何か、自由に書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

1	<p>◎高校生に関係のある生活習慣病とその予防について</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
2	<p>◎あなたと歯科との関わりについて思いつくことを書いてみてください。(将来のことも含めて結構です)</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
3	<p>◎4回の講義を通して、疑問や質問があれば何でも書いてください。なければ、今回の講義を通しての感想を自由に記入してください。(今後の意気込みなどなんでも結構です)</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>



#### 4.2.12 授業スライド（第4次）

保健学総論  
第4回  
高校生のうちに習得しておくべきこと

みんなで考えよう！  
テーマ  
将来、皆さんが  
医療従事者として動くにあたって  
資格以外に必要なことは  
何だと思いませんか？

テーマ  
医療従事者に必要なこと

それぞれの意見を書いてみよう  
↓  
同じ意味の意見をグループにまとめてみよう！  
↓  
ほとまったら  
グループの小タイトルをつけてみよう！  
↓  
全体の意見をまとめて  
「一番大切なこと」を発表してみよう！

専門学校を卒業し、  
現在歯科衛生士として働いている人  
を対象に  
アンケート調査をしました。

臨床実習に来る学生に求めること

基礎学力	50%
基礎的な知識・技能	70%
コミュニケーション力	45%
応用力	45%

本校（福岡歯科衛生専門学校）  
の学生にもアンケート調査を  
しました。

専門学校へ進学する前に、  
習得しておきたかったと感じること

学習習慣	34.7%
規則正しい生活習慣	40%
人と交流する力	25.4%
日本語能力	22.1%

専門学校で高める必要があると思う  
能力は何？（1位から3位の合計）


コミュニケーション力	61.7%
問題解決力	25.4%
専門性・専門知識	40.0%
基礎的な知識・技能	25.0%
基礎学力	27.5%

最後に・・・

アンケートの結果をもとに、あなたが考える、**医療従事者として「これが一番大事」**というものを、ワークシートに書いてみてください。

あなたの将来のために

**高校生のうちにできること  
って何でしょうか？**



## 4.3 单元ごとの詳細 コミュニケーション能力


### 4.3.1 指導案（第1次）

第1次 医療におけるコミュニケーション①					
指導目標；医療におけるコミュニケーションには共通の倫理があることを伝える。 1. 「人を大切にすること」が医療におけるコミュニケーションの土台であることを知る。【知識・技能】 2. 医療従事者の倫理的な行動を想起できる。【思考・判断・表現】					
手立て ・ 人に関わる専門職に共通する倫理があることを説明する。 ・ 歯科医師の態度が異なる動画を視聴させて医療従事者の望ましい行動について考えさせる。					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点 ★5人組で着座	評価規準 (評価方法)
導入	○医療におけるコミュニケーションに興味をもつ。 ・人の尊厳を重視することが医療の土台であることについて講義を聴く。 ・動画1（前編）を視聴し、医療で人と関わることについて考えてみる。	10分	一斉	・記載内容を評価せず考えさせること。	ワークシート1◎に自分の考えを記入している。
展開I	○医療従事者の倫理的行動を知る。 ・医療従事者の倫理について講義を聴く。（自律の尊重・無危害・善意・正義など） ・ワークシート1◎のフィードバックをうけ、医療倫理の意義について理解する。（動画1（前編）を再視聴し、自分の記載を確認する。）	10分	一斉	・医療倫理がなぜ必要かを平易なことばで説明して理解を促す。	ワークシート1 ・「医療倫理」と記入している。 ・自分の記載内容を確認している。
展開II	○医療従事者の倫理的行動を考える。 ・動画1（後編）を視聴し、前編との違いを話し合う。 ・ワークシート2 “もし自分が患者だったら”に各自で記入する。 “歯科医師の態度や発言は…”の内容をグループで話し合って記入する。その後発表する。 ・ワークシート2のフィードバック（医療倫理に基づいた医療者の行動の解説）を受けて、患者に与える影響と医療者の望ましい行動について考える。 ・動画1（後編）を再視聴し確認や修正をする。	20分	GW  一斉  GW発表  一斉	・患者/医療従事者の両方の立場で、どう感じたか、倫理的行動について考えさせることに重点を置く。 ・GWの積極的参加を促す。 ・医療者の望ましい行動に関する意見を共有し、他者の気づきから新たな認識を得るようサポートする。	ワークシート2 “もし自分が患者だったら”に対しては評価しない。 “歯科医師の態度や発言は…”の記載に Key word が2つ以上ある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             Key word;              丁寧な説明・解りやすい説明・患者の話をよく聞く・目を見て話す・優しく接する・患者の気持ちを大切にすること・患者の立場に立つ など           </div>
まとめ	○医療におけるコミュニケーションで大切な事は何か考える。 ・考えをワークシート3に記載する。	5分	一斉		自分の考えを書いている。

### 4.3.2 ワークシート（第1次）

【第1次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>人と接するときにはその人の話をよく聞き相手の立場に立つことが普段の生活でも大切です。関わる人の気持ちを尊重することは医療におけるコミュニケーションでもとても重要です。<b>患者さんの病気に関する聞き取りや、治療内容の説明など、医療現場で行うコミュニケーションの土台と言えます。</b></p> <p>◎それはなぜでしょう？ 動画を見て考えてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>医療従事者がとるべき行動を示した[ 医療倫理 ]を土台として患者さんに関わっています。</p>
2	<p>◎動画を見て、医療従事者である歯科医師や歯科衛生士の発言や態度について考えてみましょう。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>Key Words 2つ以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な説明</li> <li>・分かりやすい説明</li> <li>・患者の話をよく聞く</li> <li>・目を見て話す</li> <li>・やさしく接する</li> <li>・患者の気持ちを大切に</li> <li>にする</li> <li>・患者の立場に立つ</li> <li>・その他</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> <p>← 歯科医師の態度や発言は どうするのが良いか考 えて書きましょう</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center; margin-left: 10px;"> <p>↑ 歯科衛生士がアシ スタントをしていま した。何かできるこ とがないか、思いつ くことを書きましょ う</p> </div> </div> <p>もし自分が患者だったら → どのように接して欲しいか考 えて書きましょ</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
3	<p>医療におけるコミュニケーションで大切なことは何でしょう。あなたの考えを書きましょ。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

### 4.3.3 授業スライド（第1次）

医療における  
コミュニケーション  
基礎編①

**単元の目標**

「コミュニケーション能力」全4回授業の目標

- 医療におけるコミュニケーションとはどういうものかを理解してもらいます。
- 医療では患者さんとのコミュニケーションにより、健康に関する行動を判断し、望ましい行動に変えるための働きかけを行っていることを知ってもらいます。
- 保健や医療に関わる職業に関心をもってもらいます。

**第1次授業の目標**

- 医療におけるコミュニケーションの土台となるものは何かを知ってもらいます。
- 医療従事者\*は、どのような事に留意してコミュニケーションを取るのがよいのか、考えてもらいます。

\*医療専門職の人のこと

医療におけるコミュニケーションで大切なこと

“見えるもの”ではなく、  
“見えないもの”  
へ耳を傾けること

どの程度の痛みか…  
どのような痛みか…  
本当に痛みがあるか…

「痛い」という患者の訴えは本人にはわかりません。  
本人になって経験する事はできないので、  
「ほんどの痛み」は理解できないのです。

ここやってます

ワークシート①を  
見てみましょう

普段の生活でも、相手の話をよく聞いてその人の立場に立つことは大切です。  
「人を尊重すること」は医療では特に重要で、医療におけるコミュニケーション全ての土台と言えます。

では、このことを考えながら  
動画を見てみましょう

ワークシート②に  
記入しましょう


動画を見てどう思いましたか？  
歯科医師は患者さんの気持ちを尊重していたか…  
歯科医師と患者さんの関係性についてはどうか…

欄に、  
自由な意見を書きましょう

**解説**

- ・もともと患者と医療従事者との間には、専門的知識が乏しく痛みや苦痛を軽減するための医療を受ける人（してもらう人）と、専門的知識や技術により医療を提供する人（してあげる人）という立場の違いがあります。
- ・医療従事者でも患者さんの本当の痛みや苦痛はわかりません。

患者さんの心と体の状態を正しく知って、適切な医療を提供するために、コミュニケーションが大切なのです。



ワークシート1に記入しましょう

患者さんに対して、人としての尊厳を守って接するために医療従事者がとるべき行動を示したものが「医療倫理」です。

**医療倫理**




**医療倫理**

医療従事者が守るべき倫理的な行動の原則は以下の4つです

- ・自律の尊重…患者の人権を尊重し、患者が自律的に判断し、自己決定できるように情報を提供しサポートする。
- ・無危害…患者に危害を加えない。
- ・善悪…患者の利益となるように行動する。
- ・正義…常に公平に振る舞う。

では、倫理的行動を考えながらもう一度動画を見てみましょう




ここやってます

ワークシート2について、話し合ひましょう

**グループになってください**

“もし自分が患者だったらどのように接して欲しいか”

“歯科医師の態度や発言はどうするのが良いか”

二つのことを考えながら、別の動画を観てみましょう

VTRどうぞ




ワークシート2に記入しましょう

“もし自分が患者だったらどのように接して欲しいか”

“歯科医師の態度や発言はどうするのが良いか”

グループで意見をまとめて発表しましょう。他の人の意見も含めて各自で記入しましょう



**解説** 医療従事者が気を付けていること



**歯科医師の例**

- ・患者さんに優しく接し、話しやすい雰囲気を作る。
- ・患者さんの話をよく聞いて、気持ちを大切にします。
- ・患者さんに合わせて解りやすく丁寧に説明する。
- ・患者さんの立場を尊重しつつ治療内容を適切に判断する。

**アシスタントの歯科衛生士の例**

- ・患者さんが話しやすい雰囲気を作る。
- ・患者さんの立場に立って、気持ちをくみ取り、言葉を足したり、代わりに歯科医師に伝える。

医療におけるコミュニケーションによって、まずはじめに、患者さんを安心させ信頼関係を築くことを目指しています。





**医療従事者の望ましい行動**

“歯科医師の態度や発言”

“診療の補助をしている歯科衛生士の役割”

ふたつのことを考えながらもう一度動画を見てみましょう





**だからコミュニケーションは重要** ワークシートに記入しよう



医療では患者の苦痛を減らし健康状態を改善するために  
色々な場面でコミュニケーションをとります。

**医療におけるコミュニケーションで大切な事は  
何でしょう。自分の考えを記入しましょう。**

#### 4.3.4 指導案（第2次）

第2次 医療におけるコミュニケーション②					
指導目標；医療におけるコミュニケーションには、適切なかわりのための技術があることを伝える。 1. コミュニケーションでは言葉以外に、表情や態度などの技術を用いていることを知る。【知識・技能】 2. 医療におけるコミュニケーションの技術の実際について考える。【思考・判断・表現】					
手立て ・医療におけるコミュニケーション技術のうち「傾聴」と「共感」を説明する。 ・動画を視聴させ、実際に用いられているコミュニケーション技術について考えさせる。					
教材 スライド・動画・ワークシート・1次授業のワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点 ★5人組で着座	評価規準 (評価方法)
導入	○前回授業の復習 ・第1次の動画1(後編)を視聴し、医療におけるコミュニケーションで、人の尊厳を重視するための行動について考えた事を思い出す。	10分	一斉	・第1次のワークシートで、医療者の態度や患者の立場について考えた内容を思い出させる。	第1次のワークシート2の記載内容を確認している。
展開	○医療におけるコミュニケーション技術について知る。 ・講義を聴いて、多様な技術があることを理解する。 ・その中で「傾聴」と「共感」という言葉を知る。  ○コミュニケーション技術の実際の場面を判断する。 ・動画2を視聴し資料の該当部分を考える。 ・各自の内容をもとにグループで話し合っ資料に書き込みやマークをつける。 その後発表し、賛同する意見があれば追加する。 ・フィードバックを受けて自分たちの考えを確認する。 ・動画2を再視聴しフィードバックの指摘を確認する。	30分	一斉  GW 発表  一斉	・日常のコミュニケーションとの類似を想起させ、医療としての技術を「傾聴」「共感」という新鮮な言葉により理解させる。  ・コミュニケーション技術の場面を他者と共有しながら考えさせる。	ワークシート1 ・「傾聴」「共感」と記入している。  ・ワークシート2のセリフ資料に該当箇所をマーク・書き込みをしている。 (個別にはできなくてもGWで何か抽出できれば良い)
まとめ	○医療の場面では、コミュニケーションが技術を用いて意図的に行われていることに気づく。 ・考えをワークシート2に記載する。	10分	一斉		自分の考えを書いている。



### 4.3.5 ワークシート（第2次）

【第2次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>医療におけるコミュニケーションの役割は、「信頼関係を築くこと」「情報の収集」「治療への動機づけや患者教育」です。患者さんとの信頼関係を築くために、カウンセリングの技術を応用してコミュニケーションを取ります。よく用いられるのが、[ 傾聴 ]と[ 共感 ]です。</p> <p><b>◎動画を見て効果的なコミュニケーション技術が使われていると思う所に線を引いたり書き込んでみましょう。</b></p> <p>「虎雄さん 歯ぐきに痛みもありグラグラして噛めなかつた歯を両隣で支えたので一安心ですね。」</p> <p>「歯を抜かれんで良かったあ。このまま年明けまでもつかねえ。大事にせにゃ。」</p> <p>「そうですね。また症状が出ないように虎雄さんが出来ることを一緒に考えましょう。」</p> <p>「今回の歯ぐきの痛みや歯のぐらつきで色々困ったことがあったでしょう？」</p> <p>「そうなんじゃあ。今まで時々歯が浮いたような何か変な感じがすることがあったけど、そのうち気にならんようになるんでほっといた。昨日、婆さんが作った唐揚げをひとくち噛んだ時、歯がグキツとなってグラグラし始めたんで、鏡をみたら歯ぐきも腫れとつた。痛みも続くんで今日ここに来たんよ。」</p> <p>「そうすると、歯ぐきの検査やレントゲン撮影の結果を先生から聞いて驚きましたね。」</p> <p>「ああ～。急に今から抜くとか言われて頭が真っ白になったわ。いままで自分の口の中とか歯ぐきとか見た事が無かったから、レントゲンで骨がどうのこうの言われても意味がわからなかった。正月に孫が帰ってくるのに間の抜けた顔で笑えんし喋りにくいやろうから、こりゃ困ったと思うた。孫も婆さんの唐揚げが大好きやから “爺ちゃん一緒に食べような！” って電話で約束したのに出来んかと…。」</p> <p>「楽しみが台無しになるのは嫌ですね。まずは、虎雄さんの今の状況を一緒に整理してみましょうか。歯ぐきが腫れてグラグラの歯は歯周病で支えの骨がないから抜くしかないのは解りましたか。一緒に鏡で見てみましょう。歯ぐきは赤くてブヨブヨしていますね。両隣の歯に接着剤で固定したので3本つながってグラグラはなくなりました。ものすごく硬いものでなければだいたい食べられます。でも、いきなりガブリは力がかかりすぎるので、少し小さめにゆっくりかじり取って食べるようにして下さい。」</p> <p>「歯を抜かないので、笑うのも喋るのも今まで通りでホッとした。」</p> <p>「笑える、喋られる、食べられるが暫くは維持できそうなので一安心ですね。」</p> <p>「でも、一時的な処置なので肝心の歯周病の問題は残ったままです。これまで虎雄さんは、“変な感じがした” ことが何度かあったとおっしゃいましたね。」</p> <p>「あ～気づいても大したことないと思って歯ぐきを確認もせんかった。」</p> <p>「そうなんですね。大した事ではないと思っていたんですね。」</p> <p>「むし歯は一本も無いし歯が丈夫と思ってたからな。それに自分の口の中を鏡でみてるなんて教えてもらったことがないから、思いつきもせんかった。」</p> <p>「口の中を観察できることは知らなかったんですね。」</p> <p>「ちゃんと鏡で見て早めに歯医者に来たらこんなことにならんかったかもしれん。」</p> <p>「変な感じがしてもそのままにしていたことを後悔しているんですね。」</p> <p>「後悔しとる。でも、先生が年明けまでもつように応急手当てしてくれたから、一生懸命自分でできることを頑張るつもり。よろしくな。」</p> <p>「はい。私もしっかりお手伝いしますので一緒に頑張りましょう！」</p>
2	<p>医療におけるコミュニケーションの技術についてあなたの考えを書きましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.3.6 授業スライド (第2次)

医療における  
コミュニケーション

巻頭語:

第2次授業の目標

1. コミュニケーションには技術があることを知ってもらいます。
2. 医療において、コミュニケーション技術がどのように使われているか考えてもらいます。

復習です。

前回、歯科医師の望ましい態度や発言についてどう考えましたか?

ワークシート2を確認しましょう

医療におけるコミュニケーションでは人の尊厳を大切にしています。

患者さんの表情や発言に注目して、コミュニケーションがどのように影響するか考えながら前回の動画を見てみましょう。

別の見方をしてみよう

VTR 動画

コミュニケーションとは

情報を伝え

互いに理解すること

偏見を受け取り

医療におけるコミュニケーションの役割

- 信頼関係の確立
- 情報収集
- 治療への動機づけ、患者教育

コミュニケーションの技術

ワークシート1に記入しましょう

患者さんとのコミュニケーションでは「傾聴」や「共感」などの技術を使います。

**傾聴**【けいちよう】  
耳を傾けて、一生懸命、相手の言おうとしている事を聞き、さらには理解しようという姿勢。ただ聞くのではなく、能動的に聴くこと。

**共感**【きょうかん】  
相手の見たり感じたりしているものを、あなたも自分がそうであるかのように、正確に感じ取れて、伝え返せること。相手の思いを共有すること。

傾聴  
耳を傾けて、一生懸命、相手の言おうとしている事を聞き、さらには理解しようという姿勢。

共感  
相手の思いを共有すること。

それはいいですね！

## コミュニケーション技術の確認



ワークシート①に  
マークしましょう

ここやっています

○シートのセリフ部分を選んでみましょう

その後、動画を見て、「傾聴」と「共感」にマークします。表情や言葉などで技術が使われていると思う所にもマークします。



ワークシート①の○のセリフから「傾聴」と「共感」を見つけましょう！  
見つけたら線を引いて傾聴 or 共感と書き込みましょう。

ワークシート①を  
見てみましょう



表情や態度でも、コミュニケーションの技術が使われていると思ったらマークしましょう。

では、動画を見てみましょう



ワークシート①を  
見てみましょう



どんなコミュニケーション技術があったか、グループで話し合しましょう。

グループの意見を  
発表してください。  
“あ～そうだな”  
と思ったことがあれば、  
シートに加えましょう。



## 一緒に確認しましょう

- ① 「虎さん、歯ぐきに痛みもありグラフで検めなかった歯を指摘で受えたので一安心ですね。」
- ② 「そうなんじゃあ、今まで時々歯が浮いたような何か妙な感じがすることがあったけど、・・・」
- ③ 「そうすると、歯ぐきの検査やレントゲン撮影の結果を先生から聞いて驚きましたね。」
- ④ 「あー、急に今から抜くとか家で行って歯が真っ白になったわ、・・・」
- ⑤ 「楽しみが全然なくなるのは嫌ですね。」
- ⑥ 「笑える、嫌られる、食わられるが暫くは維持できそうなので一安心ですね。」
- ⑦ 「そうなんですね、大した事ではないと思っていたんですけどね。」
- ⑧ 「笑な感じかしてもそのままにしていたことを後悔しているんですけどね。」

もう一度動画を見て  
コミュニケーションの技術を確認しましょう



別の見方を  
してみましょう

患者さんが安心して通院を促すために  
コミュニケーションが重要です。

医療における  
コミュニケーションの技術について  
自分の考えを記入しましょう。

ワークシート②に  
記入しましょう




### 4.3.7 指導案（第3次）

第3次 保健指導におけるコミュニケーション①					
指導目標：保健指導で行うコミュニケーションが理論に基づいていることを伝える。 1. 保健指導で用いる、人の行動をとらえる基準ややる気を引き出す方法について知る。【知識・技能】 2. やる気を引き出す「自己効力感」を自分にあてはめてみることができる。【思考・判断・表現】					
手立て ・保健指導では、人の行動をとらえる理論（基準）がある事を説明する。 ・行動理論が用いられている動画を視聴させ保健行動の段階を考えさせる。 ・保健指導で用いる、やる気を引き出すための「自己効力感」、それを高めるポイントを説明する。 ・自分の行動に「自己効力感」をあてはめて具体的に認識させる。					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○歯科衛生士が保健指導を行うことを知り、コミュニケーション能力の大切さに気付く。 ・講義を聴く。	5分	一斉		
展開Ⅰ	○保健行動を良い方向に導くことが保健指導である事を知って、行動をとらえる基準を理解する。 ・講義を聴き、「保健行動」を理解してワークシート1に記入する。 ・人の行動をとらえる基準を知る。 ・動画3を視聴し、事例の保健行動の段階をワークシート1に記入する。	15分	一斉	・日常生活の中で保健行動を改めて認識させ、保健指導を科学的に行うための基準があることを理解させる。 ・理解度により動画を連続視聴させる。	ワークシート1 ・「保健行動」と記入している。 ・登場人物は「禁煙したいと思っている」にチェックしている。
展開Ⅱ	○やる気を引き出す「自己効力感」を、自分にあてはめて理解する。 ・講義を聴き、相手に自信を持たせて行動を変える「自己効力感」ということばを理解する。それを高めるポイントと共にワークシート2に記入する。 ・動画3を再視聴し、自己効力感を高めるコミュニケーションの場面を考えて話し合う。 ・フィードバックを受けて自分の考えを確認する。	15分	一斉  GW	・「自己効力感」という言葉とそれを高める働きかけのポイントを理解させる。 ・動画3の再視聴で「自己効力感」に働きかける場面に気づくことで理解を深める。	ワークシート2 ・「自己効力感」「自分はその行動を上手くやる事が出来るんだと思うこと」と記載している。 ・「あなたならできると言われた」「友人もやっている」「うまく出来た事がある」と記入している。
まとめ	○これまでの経験を思い出し「自己効力感」にあてはめてみる。 ・経験事例をワークシート3に記載する。	10分	一斉		自分の経験を書いている。

### 4.3.8 ワークシート（第3次）

【第3次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>●健康のために良い行動を〔 保健行動(健康行動) 〕とといいます。健康だと思っているときにそれを保持・増進しようとする行動や病気にかかったかもしれないと思ったときに早めに見つけて対処し、健康な状態に戻そうとする行動です。</p> <p>◎身近な保健行動を挙げてみましょう [ _____ ]</p> <p>●保健指導で用いる行動変容の理論</p> <p>健康のために必要な行動は人によって状況が違いますので誰でも同じ内容ではありません。その人が、どう考えているか・どう行動しているかを正しく判断して、その人にあった内容を決めます。その判断では、いろいろな基準（理論）が用いられています。</p> <p>例えば、禁煙指導でよく使われているのが、“人の行動が変わり、それが維持されるには5つのステージを通る”という考えです。患者さんの考えや行動は階段を上るように変わっていくので、その何段目にいるかによって指導の内容を決めるのです。禁煙をするつもりが全くない「無関心」な人に対して、いきなりタバコの本数を減らす方法など実践方法だけを提案しても心に響きません。健康への害や喫煙にかかる費用など、“それならタバコをやめたほうがいいかな”と思わせるような情報を伝えて、まずは「関心を持つ」ことへのステップアップを目標にします。</p> <p>◎保健行動のステージを考えながら動画を見てください。 患者さんはどの段階と思うかチェック☑をしましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>禁煙するつもりはない    <input type="checkbox"/>禁煙したいと思っている    <input type="checkbox"/>禁煙している</p>
2	<p>●健康によい行動を促す方法</p> <p>保健指導の際、行動を変えることへの自信である〔 自己効力感 〕を高めるよう働きかけます。自己効力感とは「自分は、その行動をうまくやることができるんだと思うこと」です。自己効力感を高めるポイントは4つあります。</p> <div style="text-align: center;">  <p>あなたならできると言われた</p> <p>友人もやっている</p> <p>うまく出来た事がある</p> <p>やってみたら気分が良くなった・元気になった</p> <p>&lt;自己効力感を高めるポイント&gt;</p> </div> <p>◎動画の歯科衛生士の発言や行動で「自己効力感」を高める場面をグループで話し合しましょう。</p>
3	<p>誰かから「あなたならできると言われたこと、やってみたら出来たので次も大丈夫と思ったことを書きましょう。趣味や部活、勉強など健康以外のことでもよいです。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

### 4.3.9 授業スライド (第3次)

医療科専攻  
「コミュニケーションの発展」

## 医療における コミュニケーション

第3次授業

### 第3次授業の目標

1. 医療従事者の、健康に関する行動の  
とらえかたを知ってもらいます。
2. やる気を引き出して健康に良い行動を促す方法  
を知ってもらいます。

### 保健行動 (健康行動)

ワークシート1に  
記入しましょう

健康のために良い生活行動のことを、保健行動  
(健康行動) といい、次のようなことがあてはまります。

健康だと思っている  
ときに  
それを保持・増進  
しようとする行動

病気がかかったかも  
しれないと思ったときに  
早めに見つけて対処し  
健康な状態に  
戻そうとする行動

### 歯科保健指導

歯科衛生士は  
「歯科保健指導」  
をします。

むし歯や歯周病にかからないように、  
その原因について説明し、  
ブラークなどを取り除く方法を教えます。

日常生活で口の健康を保つための保健行動を実践してもらいます。  
歯周病の予防として禁煙指導も行います。

### 保健指導を適切に行うために

患者さんが自分の健康について、どんな考えを持って、  
どんな行動をしているかをちゃんと見る！ 必要があります。

そのための物差しが  
「健康行動理論」です。  
(保健行動理論)

ここやってます

### 保健行動 (健康行動) を段階で見る

保健行動の準備や実践の程度の段階を「5つのステージ」に分けて  
見る…その人は今どんな状況かを判断して適切に働きかけるという考え

6か月以上 継続している	維持期
6か月未満 継続している	実行期
1か月以内に 熱意する	準備期
6か月以内に 熱意したい	関心期
6か月以内に 熱意するつもりはない	無関心期

関心を持ったことを評価  
して自己効力感を高める  
よう働きかける

保健行動のステージを考えながら動画を見てみましょう。

よく  
考えてね!

この患者さんはどの段階かシートにチェックしてください

「自分、その行動をうまくやることできる」と自信を持つためには4つの事が大切です。

ここやっています

### やる気を引き出して行動を促す

患者さんに、健康のために良い行動を実践してもらうとき、行動することへの自信である「自己効力感」を高める方法があります。



「自分は、その行動をうまくやることできるんだと思うこと」です。

### 自己効力感を高めるポイント

「自分、その行動をうまくやることできる」と自信を持つためには4つの事が大切です。

あなたならできると言われた

うまく出来たことがある

友達もやっている

やってみたら気分が良くなった元気になった

動画を見て自己効力感を高める場面を探しましょう



グループで話し合って意見を共有しましょう

### 自己効力感を高めるコミュニケーション場面

「自分、その行動をうまくやることできる」と自信を持つためには4つの事が大切です。

患者の選択を肯定し「高卒認定でいいよ」と自己効力感を高める。

「あなたならできると言われたこと、やってみたら出来たので次は大丈夫と思ったことを書きましょう。」

コミュニケーションによって相手にやる気を持たせ、健康に良い行動を実践してもらうことは、医療専門職として仕事のやりがいです。



誰かから  
○「あなたならできると言われたこと、  
○やってみたら出来たので次は大丈夫と思ったこと  
を書きましょう。

### 4.3.10 指導案（第4次）

第4次 保健指導におけるコミュニケーション②					
指導目標；健康のために変えた方がよい生活行動を認識し、行動変容につながる「自己効力感」を実感させる。 1. 「よく噛むこと」が健康のために良いことを知る。【知識・技能】 2. 「よく噛むこと」の実践にむけて自己効力感を体験する。【思考・判断・表現】					
手立て ・習慣化した生活行動である咀嚼（よく噛むこと）の重要性を説明する。 ・食品の実食で、一口量と咀嚼回数の関係を理解し、よく噛むために“これならできそうだと”実感させる。 [物品] 生徒：定規、ティッシュ、筆記用具 学校：ソイジョイ（1本/人）、サランラップ（ソイジョイを置く）、記録用紙（ワークシート）					
教材 スライド・ワークシート・食品					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○咀嚼と健康との関連を理解し、“健康のために変えた方がよい生活行動”という視点を理解する。 ・講義を聴き、咀嚼ということばを知ると共によく噛む事が健康に良い事を理解する。	5分	一斉	・咀嚼という専門的な言葉を知ることにより、よく噛む事と健康の関係の認識を促す。	ワークシート1 ・「そしゃく(咀嚼)」と記入している。 ・「肥満などの生活習慣病」と記入している。
展開I	○自分の一口量と咀嚼回数を認識する。 ・ワークシート①~⑦を参照しながら食品を実食する。教員の指示通りに進める。特に、普段通りのペースで咀嚼回数を数えながら食べることに留意する。 ・食べ方を変える（一口量を半分・1.5倍の量にする）ことで食べ物の物性が違うこと（のどごし）を認識する。 ・ワークシート①~⑦に順次記入する。 (毎日の食事で一口ごとに咀嚼回数を数えたとしたらどう思うかを記入する。)	15分	一斉	・机間巡視しながら説明し、指示内容を正しく理解し実践させる。 ・ワークシートに正しく記入させる。  ( )は18分経過していなければ書かせる。	ワークシート2 ・順に、①記入、実食後回数を③に記入、④記入、計算して⑤記入、0.5口長計算して⑥記入、実食後回数⑥記入、1.5口長計算して⑦記入、実食後回数⑦記入している。のどごしを⑥に記入している。
展開II	○自分の普段の食べ方（一口量と咀嚼回数）を客観的に捉える。 ・グループ内の最大・最少をワークシート3に記入する。自分についての考察を記載する。 ・ <b><u>自分の一口量を変えたときの咀嚼回数の割合をワークシート3の表に記入する。</u></b> <b><u>表からよく噛む方法を見極める。</u></b> ・分かった事を記載する。	5分 10分	GW	・他人と比較して自分の食べ方を改めて認識させ、行動変容の必要性を考えさせる。 ・0.5口、1.5口の咀嚼回数%を正しく記載させる。	ワークシート3 ・グループ内で結果を共有し①、2に記入している。 ・自分の一口量を基準とし0.5口、1.5口の咀嚼回数%を正しく記入している。
まとめ	○生活行動を客観的データでみることを知って「これならできそう」と実感する。 ・自分の考えをワークシート4に記載する。	10分	一斉		自分の生活行動に対する考えを書いている。




### 4.3.11 ワークシート（第4次）

【第4次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1 食事で、口に食べ物を取り込んだあと、**歯、あご・舌・筋肉**などの働きによって、**ぐだいて、すりつぶし、唾液と混ぜて、飲み込める状態の塊**にすることを専門的には[ **咀嚼（そしゃく）** ]と言います。“よく噛む”とは咀嚼回数が多いということです。“よく噛むこと”は、満腹感を感じて食べすぎを防ぐので、[ **肥満などの生活習慣病** ]を予防すると言われています。また、咀嚼によって食べ物を細かくすると、本来の味が分かっておいしく食べられ、**栄養素の吸収も良くなります。**



これならできる！自己効力感の体験 【いつも通りに食べて咀嚼回数を数えます】

2 ①ソイジョイの全体の長さを測りましょう。 A \_\_\_\_\_ cm  
 ②これから、ソイジョイをいつも通りにひと口かじって食べてもらいます。  
 いつも通りに噛んで、**全部飲み込むまでの咀嚼回数(噛む回数)**を数えながら食べてください。  
 飲み込む時の感じ(のどごし)も覚えておきましょう。  
 ③咀嚼回数を記入しましょう。 1口の咀嚼回数は \_\_\_\_\_ 回  
 ④ソイジョイの残りの長さを測りましょう。 B \_\_\_\_\_ cm  
 ⑤1口量の長さを計算しましょう。 A-B= C \_\_\_\_\_ cm  
 ⑥0.5口量は、C \_\_\_\_\_ cmの半分の \_\_\_\_\_ cmです。  
 0.5口量を、いつも通りに噛んで回数を数えましょう。 0.5口の咀嚼回数は \_\_\_\_\_ 回  
 飲み込む時の感じは一口量に比べてどうでしたか？ \_\_\_\_\_  
 ⑦1.5口量は、C \_\_\_\_\_ cmの1.5倍の \_\_\_\_\_ cmです。  
 1.5口量を、いつも通りに噛んで回数を数えましょう。 1.5口の咀嚼回数は \_\_\_\_\_ 回  
 ◎毎日の食事で一口ごとの咀嚼回数を数えて食べるとしたらどう思うか書きましょう。  
 [ \_\_\_\_\_ ]

3 ◎グループで比べてみましょう。  
 1. 一口量が一番大きかった人は \_\_\_\_\_ cm、小さかった人は \_\_\_\_\_ cm  
 自分についてどう考えますか？ \_\_\_\_\_  
 2. 1口の咀嚼回数が一番多かった人は \_\_\_\_\_ 回、少なかった人は \_\_\_\_\_ 回  
 自分についてどう考えますか？ \_\_\_\_\_  
 ◎自分の一口量を変えたときの咀嚼回数の割合を計算しましょう

	1口	0.5口	1.5口
咀嚼回数	_____ 回	_____ 回	_____ 回
1口との比較	100%	_____ %	_____ %

食べ物を最もよく噛むのは、1口 0.5口 1.5口のどれでしょう

分かった事を書きましょう  
 一口が半分になっても咀嚼回数は半分より多い。食事の時に口に入れる量を少なくすれば全部食べたとき、よく噛んだことになる

4 自分の生活行動に対する感想を書いてください。  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

### 4.3.12 授業スライド（第4次）

医療における  
コミュニケーション  
基礎編④

第4次授業の目標

1. 「よく噛むこと」は健康のために良いと、分かってもらいます。
2. 「よく噛むこと」を日常生活で実践するため、自己効力感を体験してもらいます。

咀嚼（そしゃく）とは

ワークシート1に記入しましょう

口に食べ物を取り込んだあと、歯・舌・舌内等の働きによって、食べ物を碎き、すり潰し、唾液と混ぜて、飲み込める状態の塊にすること

よく噛む ⇒ 咀嚼回数が多い!

よく噛むと健康に良い事

ワークシート1に記入しましょう

- ・栄養素の吸収を助ける。
- ・食物本来の味がわかり、おいしく味わえる。
- ・顎や咀嚼筋に刺激を与え、正常な成長・発育を促進させる。
- ・唾液の分泌を促進する。
- ・満腹感を感じて食べすぎを防ぐので、肥満などの生活習慣病を予防する。
- ・脳血流量を増加させ、脳を活性化する。

など

よく噛む（保健行動）を実践するには

色々な方法が提唱されています

- ・一口30回噛みましょう
- ・ゆっくり時間をかけて食べましょう
- ・一口ごとにお箸を置きましょう
- ・よく噛む調理方法にしましょう

よく噛むことはむずかしい

食事のたびに一口30回を数えながら食べるとしたら...

これならできる！の体験

いつも通りに食べているのに自然に咀嚼回数が増えた…これだったら出来そう！という「自己効力感」の体験です

ここやってます

**実食実験** ワークシート2を確認しましょう

ワークシート2に記入しましょう

3回ソイジョイを食べます

口に入れる量を変えて食べます

**注意**

3回とも同じように「いつも通りに噛む」を意識する  
(いつもの咀嚼回数を食べる)



**はじめます ①～⑤** ワークシート2に記入しましょう

①はじめのソイジョイの長さを測り、Aに記入してください。

②合図をしたら、ひと口かじっていつも通りに食べてください。  
※その時、全部飲み込むまでの咀嚼回数を数えましょう。  
※喉を通る時の感触も確認して下さい。

③ それでは、ソイジョイを持って、はい！一口かじって咀嚼回数を数えながら食べてください！

④飲みこんだら、咀嚼回数を記入してください。

⑤別のソイジョイの長さを測り、Bに記入してください。

⑥A・Bを計算し、Cに記入して下さい →これがあなたの一口量

**一口量を変えます ⑥～⑦** ワークシート2に記入しましょう

⑥0.5口量(Cの半分の長さ)を記入してください。

⑦ それでは、ソイジョイの0.5口量の長さのところで持って、0.5口かじって咀嚼回数を数えながら食べてください！はじめ！  
※0.5口の回数を記入してください。  
飲み込む時の喉の感触の違いが分かったら書いてください。

⑦1.5口量を記入してください。

⑧ それでは、ソイジョイの1.5口量の長さのところを持って、1.5口かじって咀嚼回数を数えながら食べてください！はじめ！  
※1.5口の回数を記入してください。

**おつかれさまでした** ワークシート2に記入しましょう



一口ごとに咀嚼回数を数えながら食べた体験について毎日の食事のたびに実践するとしたらどうでしょう？  
Cに感触を記入して下さい。



ここやっています


**グループで比べてみましょう**

ワークシート3の一つ目①です

1. 一口量が一番大きい人・小さい人の結果 (cm) を記入し、自分と比べてどう考えるか書きましょう。

2. 一口の咀嚼回数が一番多い人・少ない人の結果 (回) を記入し、自分と比べてどう考えるか書きましょう。

ワークシート3に記入しましょう



**実食の結果を確認しましょう**


ワークシート3の二つ目②の表を見てください。

1口・0.5口・1.5口に咀嚼回数を記入しましょう。

1口の咀嚼回数を100%としたときの、0.5口・1.5口の割合を計算して記入しましょう。

式  $0.5口回数 \div 1口回数 \times 100$   
 $1.5口回数 \div 1口回数 \times 100$

ワークシート3に記入しましょう



**発見！？「これならできる」**

口に入れる量を変えた場合の咀嚼回数の割合から分かったことを書きましょう。

ワークシート3に記入しましょう




### 誰でもできる！？よく噛む方法

ワークシート3の二つ目の表に書いた口に入れる量を変えたときの咀嚼回数の変化は他の人も同じか、グループで確認しましょう。

#### ポイント

- 一口量は人によって異なるが、少ない人も多い人も、
- 一口量を減らすと良く噛むことになる。

ワークシート3に記入しましょう



ワークシート4に記入しましょう



自分の生活行動を振り返って思ったことを書いてください。

### 「コミュニケーション能力」の単元は終わりです



## 4.4 単元ごとの詳細 口腔と健康

### 4.4.1 指導案（第1次）

第1次 人体の構造と機能					
指導目標；					
1. 人体の構造のなかで消化管の部位とそれぞれの機能を理解する。【知識】					
2. 口腔の消化器としての働き（咀嚼、消化液、嚥下）【表現】					
手立て					
・細胞、組織、器官、器官系および関係する医科・歯科診療科の名称					
・特に歯科に関係ある消化管（口、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）と付随した臓器（肝臓、胆嚢、膵臓）の説明					
教材 スライド・スライドのハンドアウト					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○人体の構造、マイクロからマクロへ	10分	一斉	動物と植物の細胞の 違い	ワークシート1
展 開 I	○人体の10個の器官系の名称と働き ・対応する医科・歯科の診療科の名称	15分	一斉		ワークシート2
展 開 II	○消化器のそれぞれの臓器の働きを、消化・吸収・ 排泄の一連の流れに沿って、どの部分をどの臓 器が担当しているのか説明する。	20分	一斉	消化・吸収・排泄の流 れを理解させる。消化 器の病気と歯科衛生 士の役割について具 体的に説明し、興味を 持ってもらおう。	ワークシート3 消化器の機能につい て( )埋め問題
ま と め	○本講義のまとめと質問を受ける。感想文提出。	5分	一斉		ワークシート4 感想を200字程度

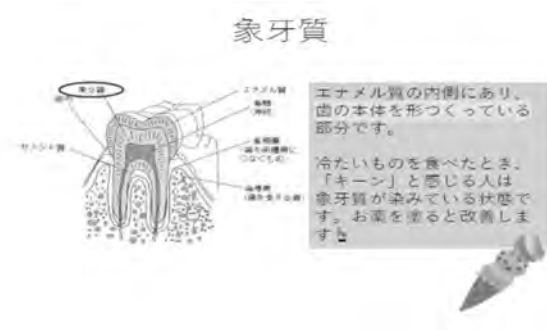
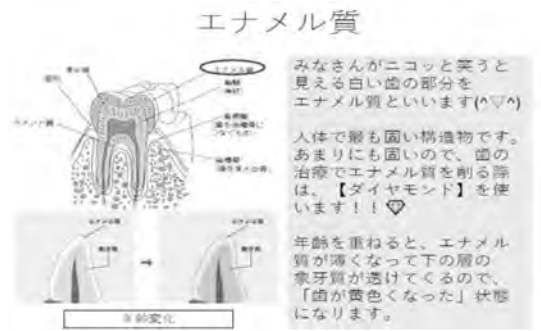
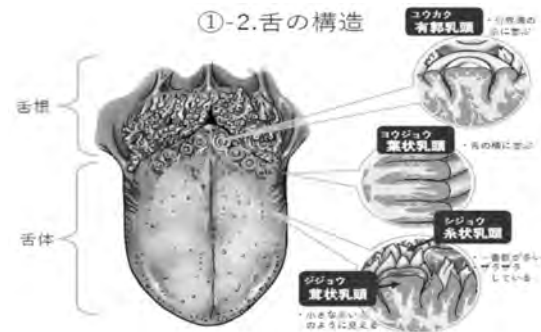
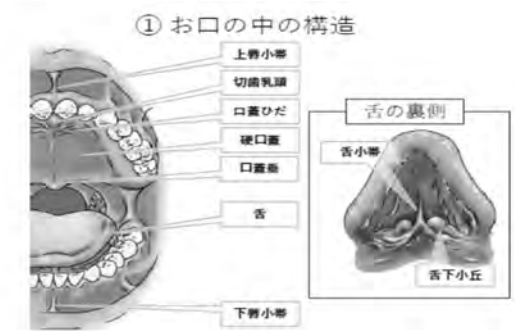
#### 4.4.2 ワークシート（第1次）

【第1次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	◎植物細胞にあって動物細胞にない細胞内小器官を3つあげてみよう。
2	◎あなたの知っている診療科をあげてみよう。
3	◎消化器系は口から肛門まで続く器官系で、食物を摂取する働き、摂取した食物を栄養素に分解する働き、これを(A)といいます。さらに分解された栄養素を血液中に(B)する働き、消化しにくい残りの部分を体から(C)するという働きをしています。 消化器とは、口から食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門までの消化管と、肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓を指します。消化管のおもな役割は(A)と(B)です。 食べ物が口から入ると、(D)でかみ砕き、(E)を出して食べ物をできるだけ溶かします。 A, B, C, D, E にあてはまる言葉を以下の語群から選びましょう  唾液、吸収、消化、歯、排泄
4	感想文

### 4.4.3 授業スライド (第1次)



## セメント質

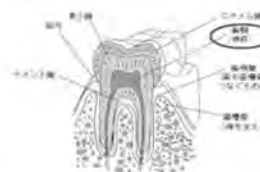


歯根部（しこんぶ）表面を被っている組織で、歯根膜（しこんまく）によって歯槽骨と結合しています。

歯根膜の線維（せんい）が小さな束となって入り込んでいて、線維の反対側は、歯槽骨の中にもしっかりと入り込んで、歯を顎の骨にハンモックのように吊っています。



## 歯髄（しずい）

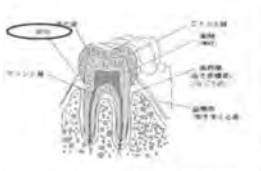


歯髄（しずい）とは歯の神経のことです。

歯髄（しずい）には、様々な刺激を脳へ伝える神経とともに、無数の毛細血管が存在します。この毛細血管は、歯に栄養と酸素を供給する大切な役割を担っています。



## 歯肉（しにく）



歯肉（しにく）とは、歯ぐきのことです。

健康で正常な歯肉はピンク色で、スティッピングと呼ばれる「つぶつぶ」があります。お掃除が上手に出来ていないと、赤く腫れた歯肉（しにく）になります。



## 歯槽骨（しそうこつ）

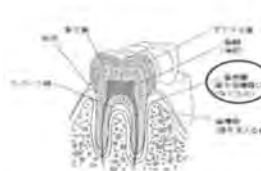


歯槽とは、歯（の根）がはまり込む顎骨の穴をいい、歯槽骨（しそうこつ）はそれを構成している骨のことをいいます。

歯周病が進行すると、歯を支える歯槽骨（しそうこつ）が溶けて、歯がグラグラし、最後には歯が抜けてしまいます。



## 歯根膜（しこんまく）



歯の土台となる歯槽骨（しそうこつ）という骨の間に、クッション材の役割となっている膜のことをいいます。

歯根膜（しこんまく）の役割として、歯の衝撃を和らげたり、歯にかかる力を刺激として脳に伝え、全身のバランスを整えます。



## 歯周組織について



- 歯の周りにある組織で、歯の機能を支えるものです。歯肉（しにく）、歯根膜（しこんまく）、歯槽骨（しそうこつ）、セメント質からなっています。

## ② お口の機能は？

1.かむ	2.味わう・・・味覚・触覚・温度覚	3.飲み込む・・・口と舌を使う複雑な作業
4.唾液の分泌・・・消化・飲み込み・潤滑・洗浄作用	5.発音・・・息・舌・口唇・歯・歯槽	6.表情・・・口の周りの筋肉と表情を作る

## 1.かむ

- 食事をする際に、たべものをかみくだき、飲み込みます。
- 歯が抜けてしまうと、食べれる食材に限りがあるため「食事が楽しくない」と思うようになり、低栄養状態になることがあります。





## 2. 味わう

- お口の中には、舌（した）など味を感じることができる味蕾（みらい）があります。
- 味蕾（みらい）には、甘い・苦い・酸っぱい・しょっぱいなどを感じることができます。
- 味蕾（みらい）の数は、年齢を重ねると減っていきってしまうんです。



## 3. 飲み込む

- 食べ物を飲み込み、口から胃へと運びます。この一連の動作を『嚥下（えんげ）』といいます。
- 嚥下（えんげ）がスムーズに行われるには、多くの器官の筋肉や神経などが連携して働いています。
- 食事中によくむせたり、せき込んだりする場合は、嚥下（えんげ）機能が低下しているかもしれません・・・。



## 4. 唾液の分泌・・・ 嚥む・飲み込む・発音・自浄作用

- 唾液（だえき）はツバのことです。
- 唾液（だえき）は、消化を助ける・口の清潔を保つ・味を感じやすくする・食べ物を飲み込みやすくする・口の健康を保つ・全身の健康を保つ重要な働きがあります。



## 5. 発音・・・ 話す・歌う・コミュニケーション

- 声を発する発音に、お口は関係ないと思っていませんか？
- 実は、話す・歌う・コミュニケーションを取るにはお口の筋肉や舌の筋肉が重要となっています。舌の筋肉が弱まると、食べこぼしが増えたり、滑舌が悪くなってしまうんです。



## 6. 表情・・・ 口の周りの筋肉と表情を作る

- ニコッと笑顔になったり、悲しくて口元が下がったり、表情を作るにもお口の周りの筋肉が重要な働きとなっています。
- 顔には30種類以上の筋肉が存在しており、口元を若々しく保つためには「口輪筋（こうりんきん）」を鍛えることが大事です☺



みなさんは何本歯が生えてるかな？  
手鏡を持って歯の本数を数えてみましょう

### ③ 歯って何本あるの？

◇乳歯の生える時期と本数◇  
生後8か月頃に生え始め、  
乳歯は20本あります。



◇永久歯の生える時期と本数◇  
6歳頃に第一大臼歯が生え始め、  
永久歯は28～32本あります。



第一大臼歯は『6歳臼歯』  
ともいわれます

16歳ごろは  
上の歯：14本  
下の歯：14本  
の計28本生えていることが  
多いです

歯科矯正をしている人や、生まれつき歯の本数が  
少ない人もいますので、人それぞれになります☺

④ 歯の役割って何があるの？  
① 切歯（前歯）の役割



前歯の大きな役割は、  
食べ物をかみ切ることです。

最初に噛み切ることによって奥歯で  
効率よく、飲み込むのにちょうど良  
い大きさにします。

② 臼歯（奥歯）の役割

臼歯の大きな役割は、  
前歯でかみやすいように切った食べ物をす  
り潰し、細かくし、次の消化器官（胃）で  
消化しやすいようにすることです。

もう一つの重要な役割は  
かみ合わせの安定です。



ワークシートを  
まとめましょう



皆さん今日は50分という短い時間では  
したが、歯・口腔機能について理解して  
いただけたでしょうか？😊

#### 4.4.4 指導案（第2次）

第2次 歯・口腔の構造と機能					
指導目標；お口はマルチタレントであることを理解させる。					
行動目標					
1. 歯と口腔の基本的な知識・機能を理解する。【知識】					
2. 口腔の役割（機能）について考える。【思考・表現】					
手立て					
・歯の本数、歯の役割の説明					
・口腔内の役割の説明					
[準備物品] 生徒：手鏡					
講師：ワークシート					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	○本日学ぶ内容の説明・本講義の目的	5分	一斉	口腔内のことについて興味を持たせる。	
展開 I	○講義 1 ・歯の本数、歯の役割（機能）など基本的な知識を説明する。  ・ワークシートに記入	20分	一斉	講義内容を理解させる。わかりやすい言葉で説明する。  生徒の自由な記載に対して介入しない。	ワークシート 1 ワークシート 2 ワークシート 3
展開 II	○講義 2 ・口腔内には、咀嚼だけではなく多くの役割（機能）があることを説明する。  ・ワークシートに記入	15分	一斉 発表	講義内容を理解させる。わかりやすい言葉で説明する。  他者の気づきも共有させて知識を深める。	ワークシート 4
まとめ	○フィードバック ・本講義目的のまとめ ・ワークシートのまとめ・発表	10分	一斉 発表		ワークシート 5

#### 4.4.5 ワークシート（第2次）

【第2次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

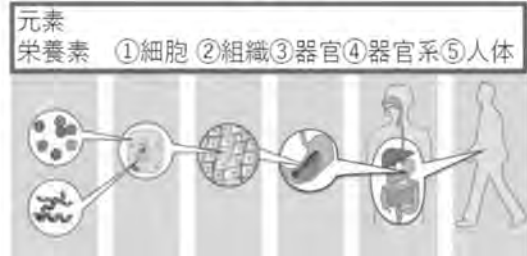
1	<p>◎子供の歯の本数と大人の歯の本数は何本でしょう？</p> <p style="text-align: center;">( )</p> <p>◎16歳ごろは、上の歯14本・下の歯14本 計28本生えていることが多いです^^🦷</p>
2	<p>◎切歯(前歯)・犬歯・臼歯(奥歯)の役割についてまとめてみましょう。</p> <p>①切歯(前歯)の役割・・・前歯の大きな役割は( )ことです。 最初にかみ切ることによって奥歯で効率よく、飲み込むのにちょうどよい大きさにします。</p> <p>②犬歯の役割・・・犬歯の大きな役割は、上下のあごが正しくかみ合うように( )ことです。 とても長い根をもっていて、前歯や臼歯(奥歯)に比べても比較的最後まで残りやすい歯です。</p> <p>③臼歯(奥歯)の役割・・・臼歯の大きな役割は、前歯でかみやすいように切った食べ物をすり潰し、細かくし、次の消化器官(胃)で( )することです。 もう一つの重要な役割は( )です。</p>
3	<p>◎人体で一番固い構造物は何でしょう？ また、それを削るために使うものは何でしょう？</p> <p style="text-align: center;">( )</p>
4	<p>◎お口の中のお仕事は6つ(かむ、味わう、飲み込む、唾液(ツバ)の分泌、発音、表情)ありますが、唾液(ツバ)の量を増やすために行うことマッサージのことを( )といいます。 そのほかに、唾液(ツバ)を増やすために、一口( )回以上かんで食べることをお勧めしています。そのことを、嚙ミング30(カミングサンマル)といいます(^▽^)</p>
5	<p>◎今日の授業を聞いて、初めて知ったことや、これから自分の習慣の中で改善できることを書いてみましょう👉</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.4.6 授業スライド (第2次)

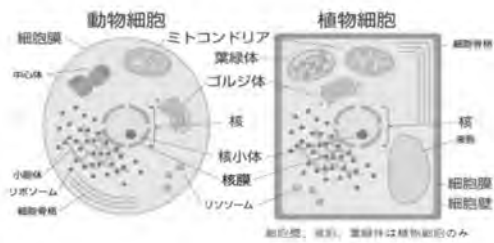
### 本日の内容

自己紹介  
 人体の構造と機能  
 消化器の構造と機能

### 人体の構成

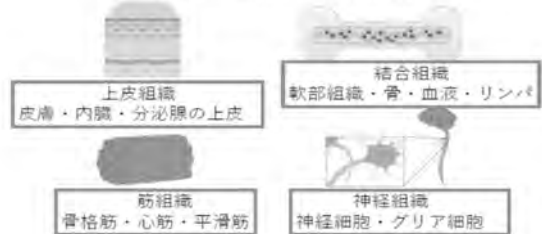


### ① 細胞



### ② 組織

人体の組織はこの4つに分類されます



### ③ 器官



### ④ 器官系

いくつかの器官が機能的に共通性をもち、共同して働く一連の機能的、形態的系統の総称。

#### 人体の10個の器官系

- 1)消化器系
- 2)呼吸器系
- 3)循環器系
- 4)神経系
- 5)運動器系(筋骨格系)
- 6)腎・泌尿器系
- 7)生殖器系、
- 8)血液・造血器・免疫系
- 9)内分泌系
- 10)感覚器(系)

皆さんが知っているお医者さんの診療科は？

内科・外科・小児科・・・

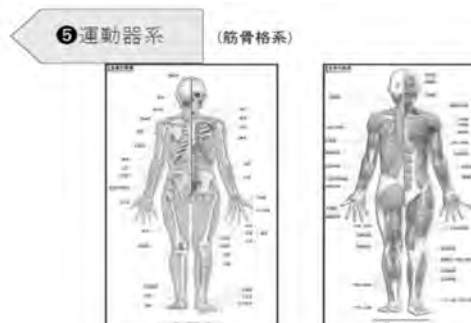
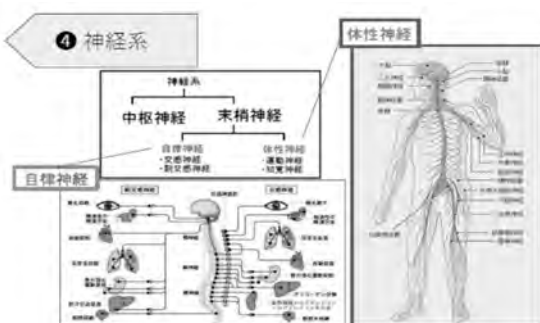
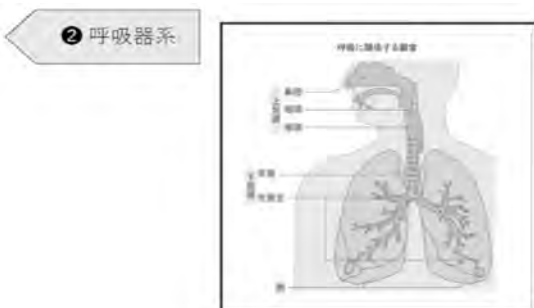




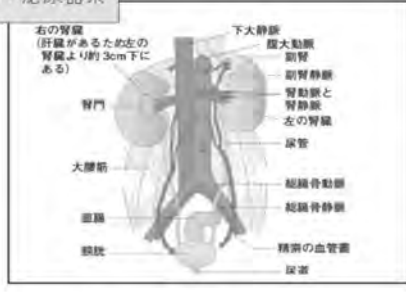
その他にも・・・

麻酔科 放射線科 小児科  
小児外科 形成外科、総合診療部  
救急部、集中治療部、など

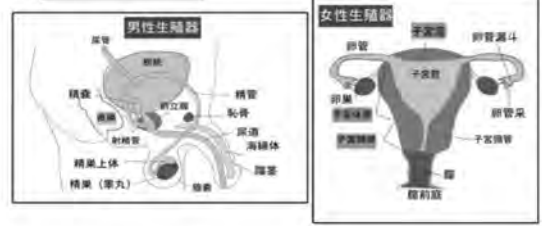
いろいろな系や臓器の疾患を  
診療する総合的な科です



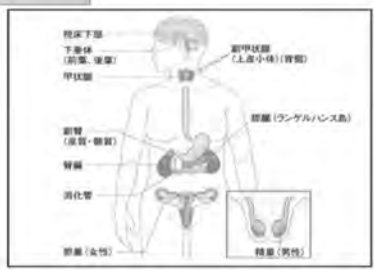
**6 腎・泌尿器系**



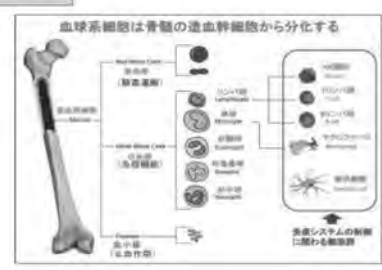
**7 生殖器系**



**8 内分泌系**



**9 血液・造血器系**



**10 感覚器系**

外界からの情報の80%は視覚

**第六感 (だいろっかん)!**

人間の5感 (視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚) 以外のあるいはそれをこえる第6番目の感覚の意。すなわち知事の本質をつかむ心の働き。直感・勘(かん)、靈感、インスピレーション、直のしらせ、などともいう。

ただし、俺は第六感が強くと言う人ほど、そのあつた感覚器も知らない人が多い!?

**本日の内容**

- 自己紹介
- 人体の構造と機能
- 消化器の構造と機能

**消化器とは消化管と実質臓器**

消化管      口から肛門まで1本の管 (くだ)  
 実質臓器    消化液を作成、栄養分の加工や蓄積

**消化管の構造**



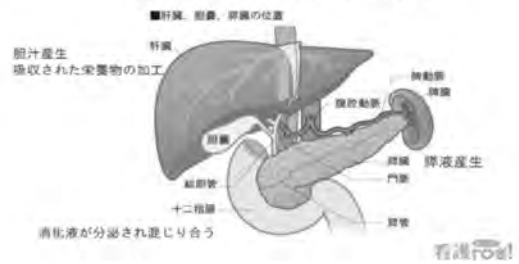
## 消化管の機能

消化と吸収



## 実質臓器

肝臓・膵臓：消化液を分泌



## 本日のまとめ

- 人体は10種類の器官系
- 診療科と器官系の関係
- 消化器系の構造と主な機能




#### 4.4.7 指導案（第3次）

第3次 歯・口腔の疾患について					
指導目標： 1. 歯や口腔の疾患（病気）について理解する。【知識】 2. 1.の挙げた疾患（病気）の症状について理解する。【思考】					
手立て ・お口の病気とからだの健康、口臭、口呼吸についての説明					
教材 スライド・動画・ワークシート					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○学生にわかりやすい、「むし歯」の説明	10分	一斉	理解しやすいイラスト 図の使用	むし歯の症状を説明できる。
展 開 I	○学生があまりなじみのない「むし歯」と全身の病気の関係、「歯周病」と全身の病気の関係についての説明	15分	一斉	理解しやすいイラスト 図および写真の使用	「むし歯」と全身の病気の関係、「歯周病」と全身の病気の関係を説明することができる。
展 開 II	○次に、学生があまりなじみのない口腔の疾患の後半部：「口臭」「口呼吸」についての説明	15分	一斉	「口臭」「口呼吸」の理解しやすいイラスト図 および写真の使用	「口臭」「口呼吸」の症状を説明することができる。
ま と め	○本講義のまとめと質問を受ける。レポート提出。	10分	各自	レポートで評価	「レポートの内容分析」

#### 4.4.8 ワークシート（第3次）

【第3次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎1-1) むし歯とからだの健康について、適語を記入して下さい。</p>  <p>左図のように 口の中の( )が( )に乗って ( )に到達し、心臓にバイ菌が感染した状態になることがあります。</p> <p>◎1-2) 歯周病と関連の深い全身の病気を列記して下さい。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>◎1-3) 上記のようにならないために、定期的に( )を受診して( )をしてもらうことが重要です。</p>
2	<p>◎2) 口臭について、適語を記入して下さい。</p> <p>(1)意外に気づかないのが( )からくる口臭です。歯周病やむし歯がない健康な人でも、舌の汚れ( )から口臭ガスが出ることがあります。</p> <p>(2)( )はお口の中のむし歯菌や歯周病菌を減らすので口臭予防に有効です。そして、( )の早期発見や( )のために定期的に( )を受診することをおすすめします。</p> <p>また舌が白くなった場合、( )で軽く舌苔を取ると口臭が減ります。ただ、やり過ぎや力の入れすぎには注意しましょう。</p>
3	<p>◎3) 口呼吸について、適語を記入して下さい。</p> <p>(1)呼吸には、空気の通り道の違いによって、2つの種類があります。1つは鼻から空気が入り出る( )呼吸、もう1つはお口から空気が入り出る( )呼吸です。正常な状態は、鼻から息をする鼻呼吸の状態です。</p> <p>(2)口呼吸は、家族や他人に指摘されて気づく場合が多く、本人は自覚していないこともしばしばです。</p> <p>( )、( )、( )、( )、( )などの状態がみられたら、口呼吸が疑われます。</p>
4	<p>◎今日の授業を聞いて、これから自分の習慣の中で実践できることを書いてください。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.4.9 授業スライド (第3次)



#### 本日のコンテンツ

- 1) お口の病気とからだの健康
- 2) 口臭
- 3) 口呼吸

#### 1) お口の病気とからだの健康



#### エナメル質

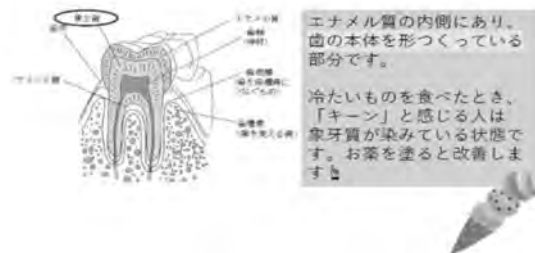


#### むし歯の進行



C1

#### 象牙質



#### むし歯の進行



C2

#### 歯髄 (しずい)



むし歯の進行



C3

むし歯の進行



C4

むし歯の進行



C1

C2

C3

C4

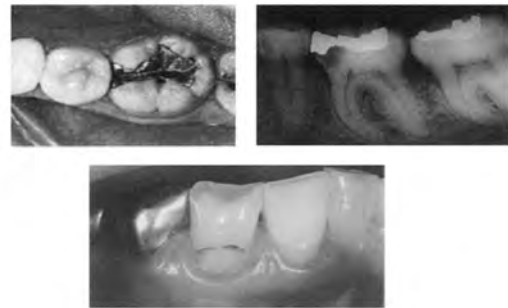
むし歯は図のC1からC4のように放置していくと、  
どんどん悪くなっていきます。

(新・歯科衛生士教育マニュアル 保存治療 (クインテッセンス) P24より抜粋)

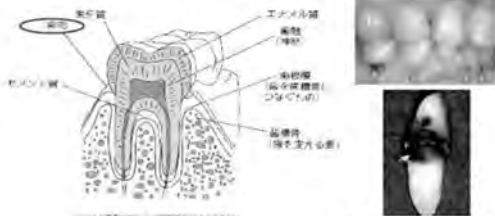
治療済みの歯が再びむし歯になることも



[https://www.yoshihara-dc.com/diaryblog/2019/09/post\\_83.html](https://www.yoshihara-dc.com/diaryblog/2019/09/post_83.html)より引用



歯ぐきがやせて露出した歯の根もとに起きるむし歯があります。



(新・歯科衛生士教育マニュアル 保存治療 (クインテッセンス) P24より抜粋)

むし歯と全身の病気の関係



口の中のむし歯菌が血流に乗って心臓に到達し、心臓にむし歯菌が感染した状態

(新・歯科衛生士教育マニュアル 保存治療 (クインテッセンス) P24より抜粋)



ただし予防することはできます。  
定期的に歯科医院を受診（年に1回程度）して、むし歯予防、歯周病予防を  
してもらうことをおすすめします。



## 2) 口臭



皆さんは自分の歯や口の中について  
悩みや気になることはありますか？

自分の歯や口の中について悩みや気になること  
10代（595名）

- 1位 歯の色が気になる（41.5%）
- 2位 歯並びが気になる（37.1%）
- 3位 歯が痛んだり、しみてりする  
（29.2%）
- 4位 口臭がある（29.1%）
- 5位 ものがはさまる（27.6%）

※調査元：日本歯科医師会、歯周病学会、歯周病学会、2013年10月  
実施。調査対象：10代（595名）。調査方法：インターネット調査。  
（参照）2014年12月1日

口臭の種類を多い順に並べると

- 第1位 病的口臭（口腔由来）
- 第2位 生理的口臭
- 第3位 病的口臭（全身由来）
- 第4位 仮性口臭症
- 第5位 口臭恐怖症

表 5-1 ▶ 国際口臭学会による口臭の分類と対処

生理的口臭	社会的容認度を越える明らかな口臭が認められるもの (生理的口臭：審美的変化、審美的でないもの (ニンニク摂取などによる一過性のものは除く))	TN1
病的口臭	口腔由来の病的口臭：口腔の炎症疾患、審美的変化、 機能低下による口臭 全身疾患の病的口臭：耳鼻咽喉、呼吸器系疾患など	TN2 TN3
仮性口臭症	患者は口臭を訴えるが、社会的容認度を越える口臭は認められず、検査結果などの説明（カウンセリング）により訴えの改善が期待できるもの	TN4
口臭恐怖症	病的口臭症、仮性口臭症に対する治療では訴えの改善が期待できないもの	TN5

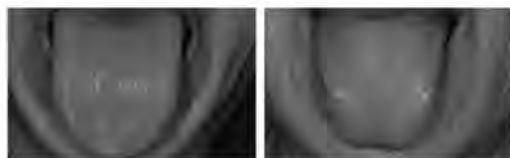
TN1：説明および口腔清掃指導（セルフケア支援） ← 歯科衛生士  
TN2：専門的清掃（PMTC）、夜間治療（歯周治療など）  
TN3：歯科への紹介  
TN4：カウンセリング（説明の提示と説明）、専門的な指導・教育 ← 歯科衛生士  
TN5：精神科、心療内科への紹介  
(TN2～TN5には TN1 への内診が含まれる)

歯科衛生士テキスト（口腔衛生学）  
（学研書院 p83より引用）

## 口臭の原因物質

- 揮発性硫黄化合物  
→ 硫化水素（卵の腐敗臭）：歯の汚れ
- メチルメルカプタン（野菜の腐敗臭）  
：歯周病
- ジメチルサルファイド（生ごみ臭）  
：呼吸器系、消化器系の病気

意外に気づかないのが  
舌の汚れ（舌苔：ぜったい）から  
くる口臭



舌苔なし

舌苔あり

### 舌の機能を高める方法



### パタカラ体操

- ①「パ」…唇をはじくように
- ②「タ」…舌先を上の前歯の裏につけるように
- ③「カ」…舌の奥を上顎の奥につけるように
- ④「ラ」…舌をまるめるように

各発音 8回を2セット行う。



### 舌ブラシの使用方法



### お口のお手入れ 1

歯みがき はむし菌や歯周病菌を減らすので口臭予防に有効です。そして、むし歯の早期発見や歯石除去のために定期的に歯科医院を受診することをおすすめします。



### お口のお手入れ 2

また舌苔が付着した場合、舌ブラシで軽く舌苔を取ると口臭が減ります。ただ、やり過ぎや力の入れすぎには注意しましょう。



### 3) 口呼吸

鼻呼吸と口呼吸の違い

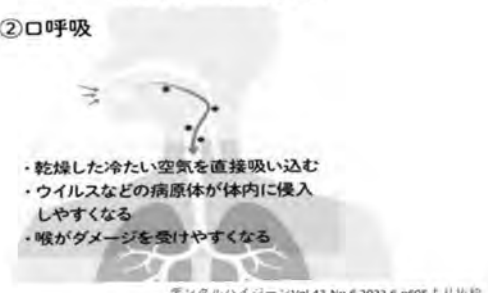
①鼻呼吸



デンタルハイジーンVol.43 No.6 2023.6 p605より抜粋

鼻呼吸と口呼吸の違い

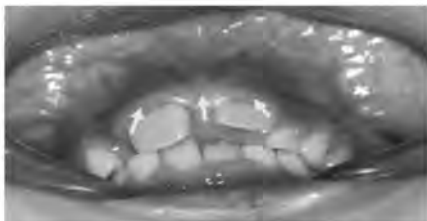
②口呼吸



デンタルハイジーンVol.43 No.6 2023.6 p605より抜粋



口呼吸によって  
上の前歯の歯ぐきが腫れています。



口呼吸のチェックリスト

1. いつもお口が開いている
2. お口が閉じづらい
3. 鼻づまりが続く
4. お口が乾燥している
5. 口臭がある

～筋機能訓練～

舌(舌筋)や口の周りの筋肉(口輪筋)のトレーニング

<スポットポジション>



舌の先端を正しい位置につける

<ポタンプル>



口輪筋を鍛えて、口を閉じやすくする



<スポットポジション>



舌の先端を正しい位置につける

<ポタンプル>



口輪筋を鍛えて、口を閉じやすくする

本授業の復習

- 1) お口の病気とからだの健康  
むし歯—むし歯菌が心臓に感染  
歯周病菌—糖尿病、低体重児出産
- 2) 口臭  
口臭—歯周病、大きなむし歯、  
お口の汚れ、舌の汚れ
- 3) 口呼吸  
口呼吸→口臭、歯ぐきの腫れ

本授業のまとめ

- ・お口のなかは非常に複雑である。
- ・お口の病気は、口の中にとどまらず、全身の病気にも影響を与える。
- ・「ちょっとお口がおかしいな？」と思ったら、歯科医院を受診して歯科医師、歯科衛生士に相談してください。

#### 4.4.10 指導案（第4次）

第4次 歯周病と全身の関わり					
指導目標；					
1. 「歯」の大切さを知り歯周病と全身との関わりを理解する。【知識】					
2. 歯周病のセルフチェックを行い、歯周病予防の方法を知る。【思考・判断】					
手立て					
・歯周病が歯を失う大きな要因であることを理解する。					
・歯周病と全身の関わりを学び、歯周病予防の大切さを知る。					
・歯周病のセルフチェックを行い、歯周病の予防を実践する。					
[準備物品] 筆記用具、手鏡					
教材 スライド・動画・ワークシート（歯周病チェックシート）					
	学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	○歯の大切さを知る ・一生自分の歯で食べるために歯周病予防が必要であることを知る。	10分	一斉	わかり易い言葉を用いて興味をもたせる。	
展 開 I	○歯周病のセルフチェック ・チェックシートと手鏡を用いて自身の歯周病リスクを評価する。 ・GWでそれぞれのリスクを判定する。	10分	GW	チェックシートの項目を説明する。 自分の口の中に興味をもたせる。	様相観察
展 開 II	○歯周病と全身の関わりについて学ぶ ・スライドを用いて歯周病と関わりのある全身疾患を学ぶ。  ○歯周病予防の実際について学ぶ ・正しい歯磨きの方法を知る。	20分	一斉	写真を用いて興味をもたせる。	レポートの記述分析
ま と め	○講義のまとめ ・講義内容のまとめと質問をうける。 ・ワークシートの記入	10分	一斉	講義内容の理解を深め、行動変容を促す。	レポートの内容分析



#### 4.4.11 ワークシート（第4次）

【第4次 ワークシート】

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1	<p>◎歯が少ないと食べにくい食べ物を書いてみましょう。</p> <p>( )</p>
2	<p>◎歯を失う最大の原因は何でしょう？</p> <p>( )</p>
3	<p>◎あなたの歯ぐきのチェックをしてみましょう。当てはまるものに☑を入れてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 歯ぐきが「赤く腫れた」部分がある</li> <li><input type="checkbox"/> 「口臭」がなんとなく気になる</li> <li><input type="checkbox"/> 歯ぐきが「やせてきた」感じがする</li> <li><input type="checkbox"/> 歯と歯の間にもものが「つまりやすい」</li> <li><input type="checkbox"/> ときどき、歯が「浮いた」感じがする</li> <li><input type="checkbox"/> 指でさわってみて、少し「グラつく」歯がある</li> <li><input type="checkbox"/> 歯ぐきから「膿」が出たことがある</li> <li><input type="checkbox"/> 歯みがきのあと、歯ブラシやすすいだ水に「血」がまじることがある</li> </ul>
4	<p>◎歯周病が全身に影響するのはなぜか？</p> <p>歯周病の人は歯ぐきが腫れているので、歯ぐきの面積は( )ぐらいの面積になるため、その腫れている状態が全身に影響する。</p> <p>さらに歯周病の人は、プラークが多く、プラークは( )の塊のため、それが直接全身に悪さをする。</p>
5	<p>◎歯周病と関係する病気を書いてみましょう。</p> <p>( )</p>
6	<p>◎今日の授業を聞いて、これから自分の習慣の中で気を付けることを書いてみましょう。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

#### 4.4.12 授業スライド（第4次）

## 歯周病と全身とのかかわり

口腔と健康

### 今日の講演の内容

1. 歯の大切さ
2. 歯周病とは？
3. 歯周病とからだの病気
4. 歯周病の治療
5. 歯みがきの仕方
6. まとめ



## 歯を大切にしていますか？

### おいしく食べるために必要な歯の本数

18～28歳	とくあん	フランスパン	餃子	鶏肉せんべい	ステーキ
6～17歳	せんべい	りんご	かき氷	きんぴらごぼう	豚肉（薄切り）
0～5歳	おこわ	バナナ	ナスの魚付け	うどん	

### 食事のおいしさの感じ方別、平均本数



感じ方	平均本数
とてもおいしい	20.1本
おいしい	19.3本
普通	16.8本
おいしくない	11.1本

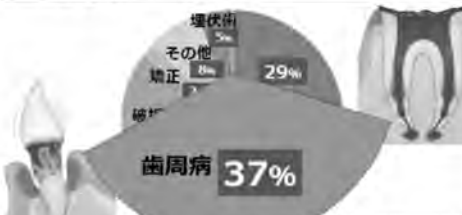
調査人数 1518人（55～75歳）

### 8020運動

「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動

2005年：7% → 2017年：51%

### 歯を失う原因 2018年



原因	割合
歯周病	37%
その他	29%
矯正	2%
壊折	3%
埋伏歯	2%

## 歯周病とは？

## 歯周病って知っていますか？

歯周病は、以前は「歯槽膿漏」  
「歯槽（歯ぐき）から膿が漏れる」

歯周病には「歯肉炎」と「歯周炎」があり、  
歯肉炎は、炎症が「歯ぐきだけに」限られている状態  
歯周炎は、歯を支えている「骨も溶けている」状態

## 歯肉炎 と 歯周炎



## 健康な歯肉 歯周炎



## 歯周病(歯槽膿漏)のセルフチェック

- 歯ぐきが「赤く腫れた」部分がある
- 「口臭」がなんとなく気になる
- 歯ぐきが「やせてきた」感じがする
- 歯と歯の間にもものが「つまりやすい」
- ときどき、歯が「浮いた」感じがする
- 指でさわってみて、少し「グラつく」歯がある
- 歯ぐきから「膿」が出たことがある
- 歯みがきのあと、歯ブラシやすすいだ水に「血」がまじることがある



## チェックがない場合

健康な歯ぐき  
ただし、少なくとも『1年に1回』は、歯科医院を受診

## チェックが1～2個の場合

歯周病の可能性あり  
念のため、歯科医院で『検査』を！

## チェックが3～5個以上の場合

初期あるいは中等度歯周炎の可能性が高い  
必ず歯科医院で『検査・治療』を！

## 歯周病の原因はプラーク(歯垢)



## 歯石とは？

プラークに唾液中のリン酸カルシウムが沈着して石のように固くなったもの



## 歯周病とからだの病気

### 歯周病とからだの病気

こんなに多くの病気が関係していると言われてます!!

歯周病は、歯を支えている歯槽骨を溶かす病気です。歯槽骨が溶かされると、歯がぐらぐらして、最終的には歯が抜け落ちてしまいます。また、歯周病は、糖尿病、心臓病、認知症、早産・低体重児出産、誤嚥性肺炎など、さまざまな病気と関係しています。

歯周病は、歯を支えている歯槽骨を溶かす病気です。歯槽骨が溶かされると、歯がぐらぐらして、最終的には歯が抜け落ちてしまいます。また、歯周病は、糖尿病、心臓病、認知症、早産・低体重児出産、誤嚥性肺炎など、さまざまな病気と関係しています。

### 歯周病の全身への影響

手のひら全体が腫れているのと同じ

歯周病菌が悪さをする

### 糖尿病

「インスリン」の作用が不十分なために生じる代謝障害のこと

慢性的に「血糖値が上昇」した状態

歯周病 ← 2〜3倍発症しやすくなる  
糖尿病の進行が早く、治りにくい

血糖値のコントロールが悪くなる → 歯周治療によって糖尿病がよくなる。

### 狭心症・心筋梗塞

狭心症は、心臓の血管が「狭く」なっている状態

心筋梗塞は、心臓の血管が「詰まって」栄養が行かない状態

日本人の「3大死因」の一つ

### 歯周病との関係は？

コレステロールなどが取り込まれて作られる。(おかゆの沈着物)

狭心症・心筋梗塞に歯周病のヒトはなりやすい

詰まった血管から、「歯周病菌」が見つかった

歯周病菌が見つかった!!

### 認知症

脳神経細胞が壊れる病気

理解力や判断力が減少

アルツハイマー型認知症のヒトは、歯の数が少ない

残存歯数とアルツハイマー型認知症の関係

残存歯数	認知症発症率
3本	9%
6本	6%
9本	3%

### 早産・低体重児出産

歯周病のヒトは、早産/低体重児出産に「8倍」なりやすい

歯周病を治療することで早産が50%以上減った

### 誤嚥性肺炎

口の中の細菌が唾液や胃液と一緒に肺に流れ込んで起こる肺炎

口が、原因となる細菌のすみかになっている

口腔清掃の介入により肺炎のリスクが1/3に減少

### インフルエンザ

インフルエンザ発症数

- 65歳以上の在宅介護高齢者190人に、歯科衛生士が1週に1回、**口腔ケア**を実施
- インフルエンザの発症率が前**1/10**に減少

口腔ケア実施前 発症数 190名  
口腔ケア実施後 発症数 19名

口腔ケアによる在宅介護高齢者のインフルエンザ発症率の減少

### COVID-19

英国やクウェートの調査によると、**COVID-19**感染者のうち **重度歯周炎**の患者は、**死亡**や**入院**、**人工呼吸器装着**、**肺炎**のリスクが有意に**高**かった。

↓

歯周炎患者では、COVID-19の**重症化**や**死亡**のリスクが**上がる**

## 歯周病はどうやって治す？

## 歯周病は「歯みがき」だけでは治りません！！

### 歯周病の治療

#### 1. プラークコントロール

歯の周りの**プラーク**を取ったり、付かないようにする

実は**治療**で、**一番大切**です

正しい**歯みがき**の仕方を習いましょう

#### 2. 歯石をとります

歯石

プラーク  
歯石  
除去

※抜けた歯を見ると**歯石**がたくさん付いている

#### 3. 進行した**歯周病**では、**手術**をすることもあります

### 骨が再生！

Ninomiya M et al. Clinical Advances Periodontics, 2013



### メンテナンス

- 定期的に歯科医院を受診し、**歯みがき指導**、**歯石取り**、**歯面清掃**を受ける
- 虫歯予防のための**フッ化物塗布**を受ける
- むし歯や歯周炎の**早期発見**、**早期治療**

歯周病は、**細菌感染症**です  
 予防するには、**歯みがき**  
**メンテナンス**  
 歯ぐきの健康を守って、**自分の歯で噛んで**、  
**一生自分の歯で**

**正**しく歯みがきできていますか？

### 歯のみがき方

- 鉛筆を持つように持ち、力を入れすぎない
- 歯と歯ぐきの境目に歯ブラシを90度に当てる

### 歯のみがき方

- 小刻みに10~20回動かす(振動させるように)
- 順番に磨く

※出血しても痛くなければ磨く

### ブラッシング

スクラッピング法

### 歯ブラシの選び方

- 長さ「一横指半」、幅「3列」、毛先は「平」、硬さは「ふつう」
- 「テーパード毛」(毛先が細い)は歯周ポケット内の掃除のため?
- 歯ブラシは、後ろから見て毛先が見えるようになったら**交換**

## 電動歯ブラシ

- 電動歯ブラシは、手用歯ブラシと同等のプラーク除去効果
- 使い方は、動かさずに歯面に当てるだけ

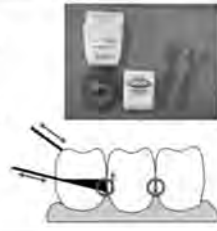
### 【種類】

- 1) 高速運動電動歯ブラシ
- 2) 音波歯ブラシ
- 3) 超音波歯ブラシ



## デンタルフロス

- 糸だけのものとフオルダと糸が付いているものがある
- ゆっくりと動かしながら、歯と歯の間に通し、歯の側面に当てながら上下させる
- 歯と歯の間が狭いほど向き



## うがい薬と歯磨き粉

### うがい薬

- 唾液を飲んですすぐことで唾液の中にすむ細菌を減らす
- プラークの中に住んでいる細菌には効かない



### 歯磨き粉

- フッ素はむし歯予防に効果がある
- フッ素が入っているものを使用しましょう。



歯磨きの代わりにはなりません！  
歯磨きのあとに使用しましょう。

## まとめ

## お口の中の疑問？

- 舌を舐めなければ歯磨きをしなくてもいい？
- うがいや歯磨きガムは歯磨きの代わりになる？
- 3ヶ月に1回定期検診に行って、お口の中を綺麗にしても汚れているから歯周病や虫歯にならない？

## 歯に寿命はない

歯が抜けるのは、「老化現象」ではありません。

手入れ次第で歯の寿命は延ばせます。

## 4.5 歯科保健教育プログラム

### 4.5.1 指導者用スライド

今年度も昨年度開発した動画を使用して教育を実施した。動画ならびに指導者のナレーションは令和4年度成果報告書に掲載したとおりである。指導者がまとめとして利用するためのスライドを報告する。

#### 第1回

動画1

こんなところにも関りがあった  
お口の事

振り返り



**\*スポーツ歯科医学**

歯 ➡ 人間の体の中でいちばん硬い組織

スポーツ中の歯や口のケガが多い

↓

折れる、ヒビがはいる

↓

スポーツマウスガード



**\*顎の関節**

顎の関節：顎関節(がくかんせつ)



口を閉じた時      口を開けた時

顎関節症(がくかんせつしょう)：口を開けづらい  
口を開ける時痛みがある

・症状がある場合：無理に大きな口を開けない  
歯医者さんに診てもらおう

**★永久歯の数：上の歯16本**  
**下の歯16本**      計32本



親知らず：8番目の歯  
10代後半～20代前半に生えてくる  
きれいに生えない人が8割

**\*普段の飲み物に注意1**

おなじみの飲料のpH値は？



エナメル質の溶けはじめのpH値

クインテッセンス 2007年8月号引用

**\*普段の飲み物に注意2**

ph5.5以下の強い酸

↓

歯の表面が溶けるリスクが高くなる

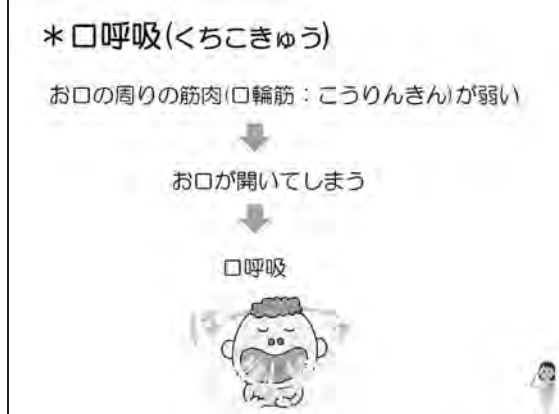
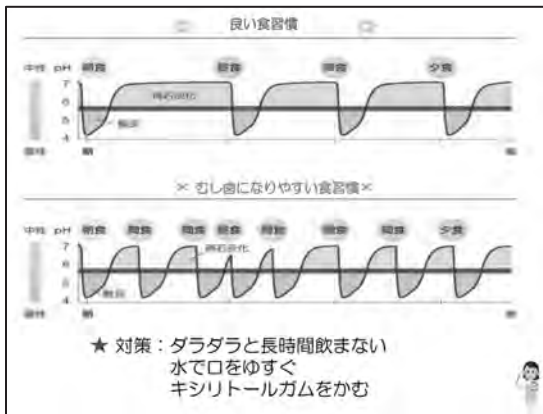


酸によって歯の表面からミネラル成分が溶かされる

繰り返す

溶かされたミネラル成分が唾液によって元にもどる





**\*口呼吸を続けていると**

- むし歯になりやすい
- 歯肉炎になりやすい
- 歯並びが悪くなる

ひみこの食育推進  
ひみこのはがいで  
「よく噛む」日大効果

**口輪筋強化の対策**  
★よく噛んで食べる

30回

学校の食事研究会

**\*まとめ**  
歯垢(しこう)：プラーク ➡ 細菌のかたまり

お口の健康対策

↓

毎日の歯磨き

↓

★プラーク(歯垢)コントロール

**\*まとめ**  
プラークコントロールが難しいところ

↓

奥歯の噛み合わせ 歯と歯の間 歯と歯肉の境目 歯と歯が重なったところ

プラークコントロールに  
チャレンジしてみましょう

動画2  
「歯科衛生士」っていうステキなお仕事  
振り返り




**就職先**

・ 歯科医院	90.5%
・ 病院	5%
・ その他	5.5%

行政関係、介護保険施設、歯科衛生士養成校 他



**歯科衛生士の仕事は・・・**

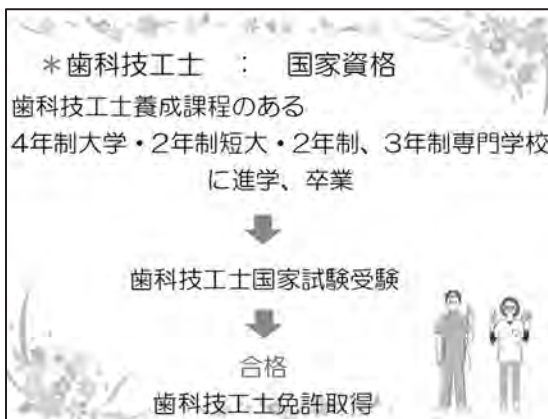


- ・ 食べる喜びを与えられる
- ・ 感謝される仕事
- ・ 育児との両立ができる

**\* 就職・転職・復職に強い: 国家資格**

**\* 歯科技工士**


入れ歯、歯の被せ物、歯の詰め物、矯正装置などの  
作成や加工、修理を行う専門職

**\* 歯科技工士 : 国家資格**  
独立開業できる資格

↓


オンリーワンをつくる仕事




自分の将来へ向けてのキャリアデザイン  
(どのような仕事、働き方をしたいのか)を、  
お友達や家族、先生とよ〜く話合ってみ  
ましょう。

## 第2回

動画1  
高校生に知って欲しい歯周病  
振り返り




プラークがたまりやすいところ



↓

プラークコントロールが難しいところ



むし歯菌、歯周病菌はほとんどの人の口の中にいます!



むし歯菌



歯周病菌



歯周病の診断と治療 藤本 隆雄 2018

歯を失う1位  
歯周病




↓

30代の3人に2人は歯周病





動画2  
大切!でもできてる?  
プラークコントロール  
振り返り



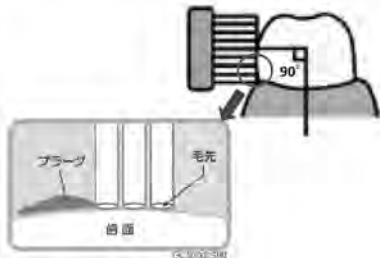
歯みがきのポイント

- 持ち方
- あて方
- 動かしかた



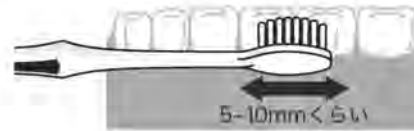
## 歯みがきのPOINT

あて方 : 毛先を歯面にまっすぐあてる



## 歯みがきのポイント

動かし方 : 小刻みに動かす



## 歯と歯の間のプラークコントロール



歯ブラシだけでは  
歯と歯の間のプラークは  
40%残っている!



歯ブラシだけでは  
歯と歯の間のプラークは  
40%残っている!

を、0%に近づけるためには



- デンタルフロス
- ワンタフトブラシ
- 歯間ブラシ

を、使うと効果的です。

### • デンタルフロス



### • ワンタフトブラシ



### • 歯間ブラシ



特に

デンタルフロスが効果的です。



まとめ



歯みがきのタイミング

- 朝起きた時 : 生活のリズムを整える  
寝ている間の菌や口臭を取り除く
- 夜(寝る前) : 一日のお口の中をリセットする



歯ブラシやデンタルフロスを正しく使って、  
歯と歯ぐきの境目や歯と歯の間のプラークを  
しっかり取り除きましょう。



- セルフケア = 自分でおこなうケア
- プロフェッショナルケア  
= 歯科医院でおこなうケア



歯科衛生士は、  
むし歯や歯周病を予防するプロです  
歯科衛生士の  
プロフェッショナルケアを受けてみましょう



## 5. 実証報告

## 5. 実証報告

今年度は、前章で報告した「高等学校におけるキャリア教育プログラム」の有効性を検証することを目的に、実証授業を実施した。昨年度に開発・実証を行った「歯科保健教育プログラム」についても、歯肉炎実態調査結果と合わせた評価を実施した。これについては3章調査報告を参照いただきたい。

本章では「高等学校におけるキャリア教育プログラム」実証授業の実施概要と実施結果を報告する。

### 5.1 高等学校におけるキャリア教育プログラム実証授業概要

プログラムの開発実証は、福岡県立福岡講倫館高等学校において令和5年度から新たに設定した学校設定教科「健康科学（科目名：健康科学 $\alpha$ ・健康科学 $\beta$ ）」の一部として行っており、各科目30時間のうち12時間（レポート作成時間を含めると17時間）が本事業分である。教科としての目標は「健康に関する基礎的・基本的な知識を習得し、生涯を通じて自らの健康を管理し改善する能力を身に付ける」ことである。

令和5年度は健康科学 $\alpha$ （高等学校2年生）部分の開発・実証を行った。選択した2年生の生徒28名が受講した。単元や項目の概要を下表に示す。医療人に共通して要求される「保健学総論」や「コミュニケーションスキル」、歯科衛生士養成教育の基礎となる「口腔と健康」の授業を行った。開発したプログラムの指導案やスライドの詳細は、4章開発報告を参照いただきたい。

学校設定教科「健康科学」年間指導計画

「健康科学 $\alpha$ 」 令和5年度後期 1コマ50分

時数	単元	項 目	学 習 内 容	担当 教科	授業担当学校
1	保健学総論	生活習慣と健康づくりについて	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
2		医療専門職に就くためのキャリアプランニング	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
3		医療従事者の社会的役割	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
4		高校生のうちに習得しておくべきこと	キャリア教育	総合	歯科衛生専門学校
5	コミュニケーション能	医療におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
6		医療におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	福祉	九州歯科大学
7		保健指導におけるコミュニケーション①	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
8		保健指導におけるコミュニケーション②	コミュニケーションスキル	総合	九州歯科大学
9	口腔と健康	人体の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
10		歯・口腔の構造と機能	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
11		歯・口腔の疾患について	人体の構造	理科	福岡医療短期大学
12		歯周病と全身とのかかわり	人体の構造	理科	福岡医療短期大学

## 5.2 福岡講倫館高等学校における実証結果

### 5.2.1 生徒へのアンケート調査結果

プログラムの実施前後に行ったアンケート調査結果を掲載する。

#### (1) 調査対象

令和5年度の福岡県立福岡講倫館高等学校2年生のうち、科目「健康科学α」を選択し受講した28名

#### (2) 調査方法

調査は、同じ内容のアンケートを用いて3回実施した。科目担当教員よりGoogleフォームによるアンケートURLを配布した。

実施時期は、初回が科目「健康科学」の開始前、2回目は単元「コミュニケーション能力」の終了直後、3回目は単元「口腔と健康」終了直後である。

アンケートの回収率は100%である。

#### (3) 調査項目

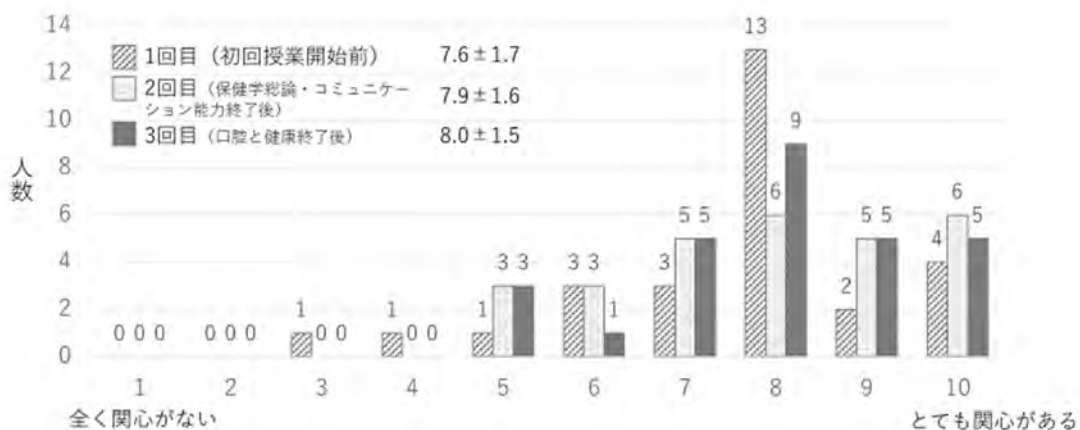
調査項目は次の13項目であり、1点～10点の選択式で回答した。

1. 全身の健康について
2. 口腔の健康について
3. 医療専門職について
4. 歯科衛生士について
5. 歯科衛生士以外の歯科医療職について
6. あなたは医療職に向いていると思いますか？
7. あなたは倫理観があると思いますか？
8. あなたはコミュニケーション力があると思いますか？
9. あなたは自分のことを肯定できますか？
10. 基礎学力について
11. 基礎的知識・技能について（ニュースなどで得る社会情勢、スマホやPCを使いこなすなど科学技術に関するもの、日常生活におけるマナーなど）
12. 学習習慣について
13. 規則正しい生活習慣について



# 1. 全身の健康について

## 質問1.全身の健康について

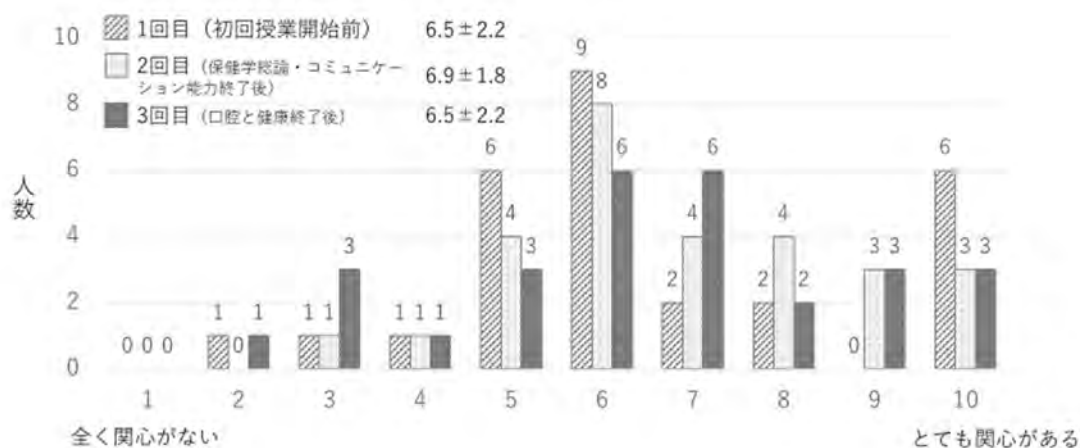


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く関心がない)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
2	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
3	1(3.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
4	1(3.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
5	1(3.6%)	3(10.7%)	3(10.7%)
6	3(10.7%)	3(10.7%)	1(3.6%)
7	3(10.7%)	5(17.9%)	5(17.9%)
8	13(46.4%)	6(21.4%)	9(32.1%)
9	2(7.1%)	5(17.9%)	5(17.9%)
10 (とても関心がある)	4(14.3%)	6(21.4%)	5(17.9%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は8、2回目は8と10、3回目は8が最も多かった。

## 2. 口腔の健康について

### 質問2.口腔の健康について

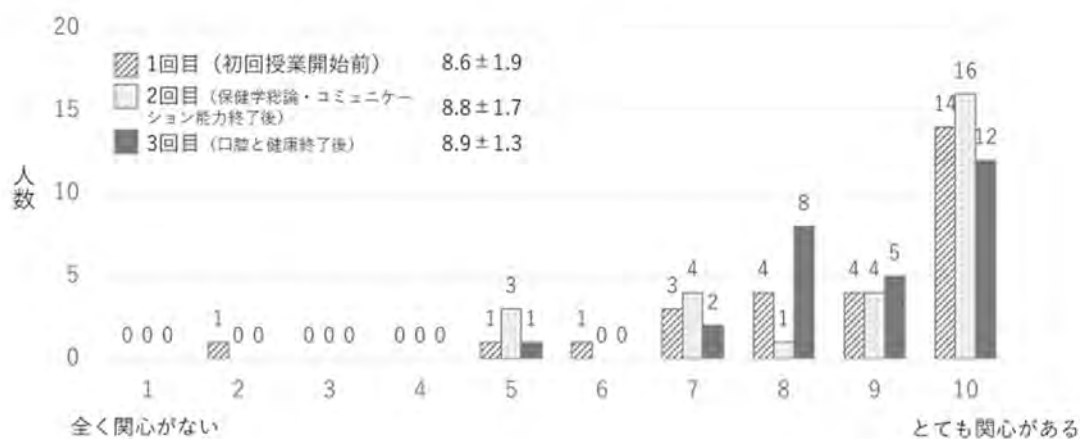


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く関心がない)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
2	1(3.6%)	0(0.0%)	1(3.6%)
3	1(3.6%)	1(3.6%)	3(10.7%)
4	1(3.6%)	1(3.6%)	1(3.6%)
5	6(21.4%)	4(14.3%)	3(10.7%)
6	9(32.1%)	8(28.6%)	6(21.4%)
7	2(7.1%)	4(14.3%)	6(21.4%)
8	2(7.1%)	4(14.3%)	2(7.1%)
9	0(0.0%)	3(10.7%)	3(10.7%)
10 (とても関心がある)	6(21.4%)	3(10.7%)	3(10.7%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は6、2回目は6、3回目は6と7が最も多かった。

### 3. 医療専門職について

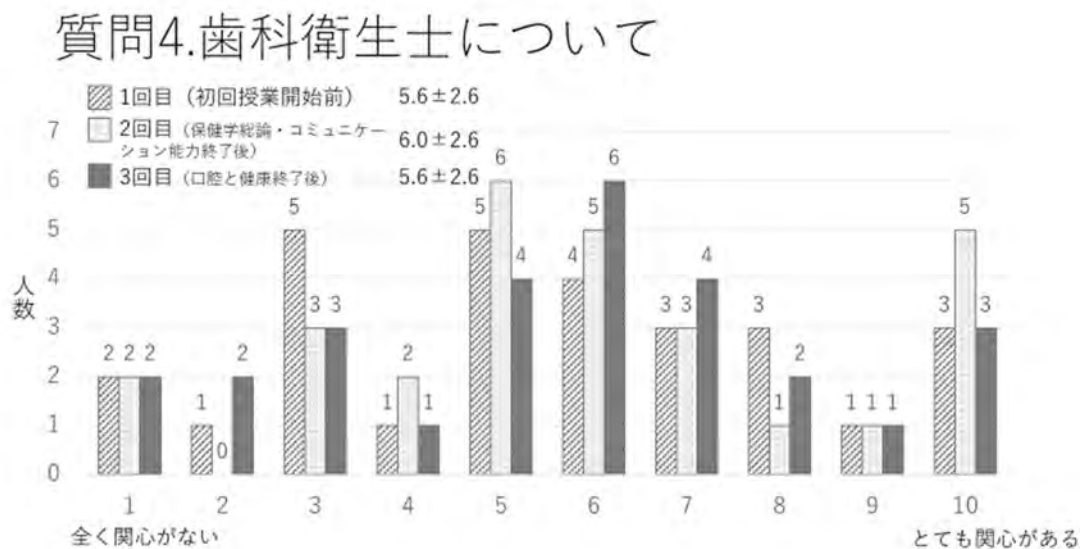
#### 質問3.医療専門職について



	1 回目 回答数(%)	2 回目 回答数(%)	3 回目 回答数(%)
1 (全く関心がない)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	1 (3.6%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)
6	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7	3 (10.7%)	4 (14.3%)	2 (7.1%)
8	4 (14.3%)	1 (3.6%)	8 (28.6%)
9	4 (14.3%)	4 (14.3%)	5 (17.9%)
10 (とても関心がある)	14 (50.0%)	16 (57.1%)	12 (42.9%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1 回目 2 回目 3 回目ともに 10 が最も多かった。

#### 4. 歯科衛生士について

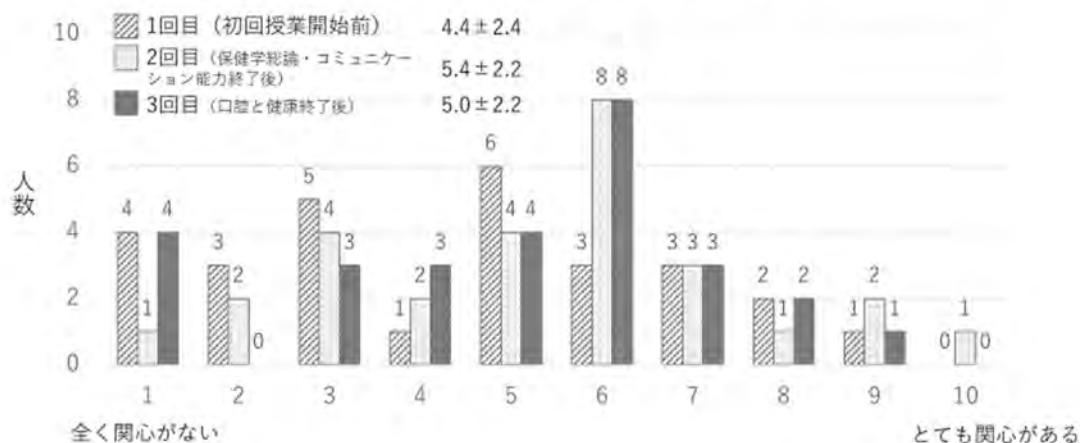


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く関心がない)	2 (7.1%)	2 (7.1%)	2 (7.1%)
2	1 (3.6%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)
3	5 (17.9%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
4	1 (3.6%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)
5	5 (17.9%)	6 (21.4%)	4 (14.3%)
6	4 (14.3%)	5 (17.9%)	6 (21.4%)
7	3 (10.7%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)
8	3 (10.7%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)
9	1 (3.6%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)
10 (とても関心がある)	3 (10.7%)	5 (17.9%)	3 (10.7%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は3と5、2回目は5、3回目は6が最も多かった。

5. 歯科衛生士以外の歯科医療職（歯科技工士、歯科医師、歯科助手）について

質問5. 歯科衛生士以外の歯科医療職（歯科技工士、歯科医師、歯科助手）について

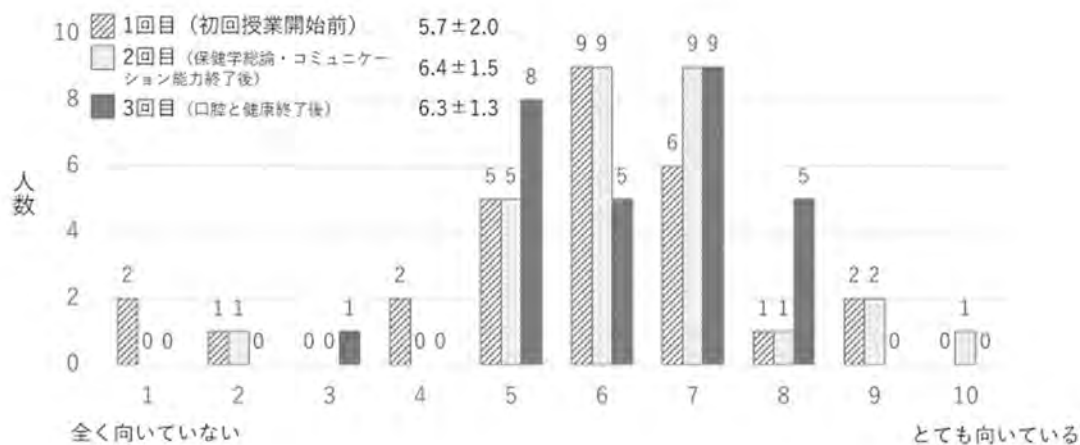


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く関心がない)	4 (14.3%)	1 (3.6%)	4 (14.3%)
2	3 (10.7%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)
3	5 (17.9%)	4 (14.3%)	3 (10.7%)
4	1 (3.6%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)
5	6 (21.4%)	4 (14.3%)	4 (14.3%)
6	3 (10.7%)	8 (28.6%)	8 (28.6%)
7	3 (10.7%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
8	2 (7.1%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)
9	1 (3.6%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)
10 (とても関心がある)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は5、2回目は6、3回目は6が最も多かった。

## 6. あなたは医療職に向いていると思いますか？

質問6.あなたは医療職に向いていると思いますか？

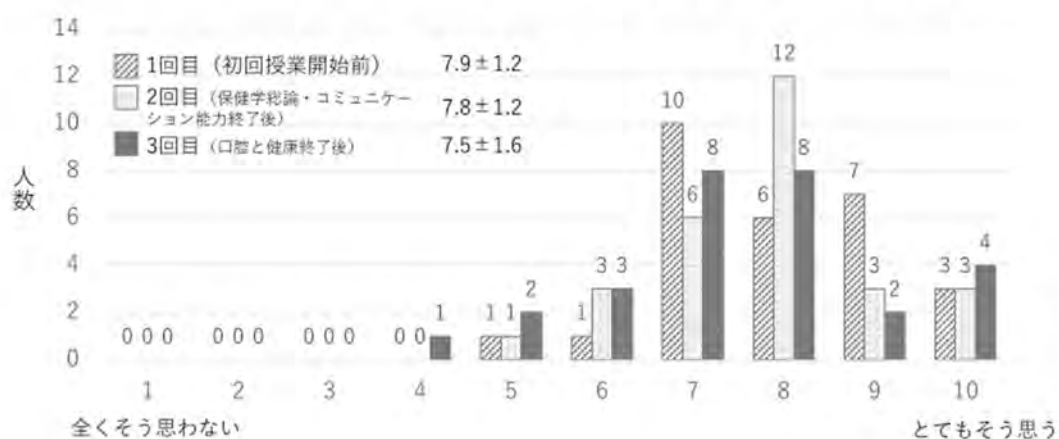


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く向いていない)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2	1 (3.6%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
4	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	5 (17.9%)	5 (17.9%)	8 (28.6%)
6	9 (32.1%)	9 (32.1%)	5 (17.9%)
7	6 (21.4%)	9 (32.1%)	9 (32.1%)
8	1 (3.6%)	1 (3.6%)	5 (17.9%)
9	2 (7.1%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)
10 (とても向いている)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は6、2回目は6と7、3回目は7が最も多かった。

7. あなたは倫理観（人として生きていくために一般的に守るべきことに対するものの見方）があると思いますか？

質問7.あなたは倫理観（人として生きていくために一般的に守るべきことに対するものの見方）があると思いますか？

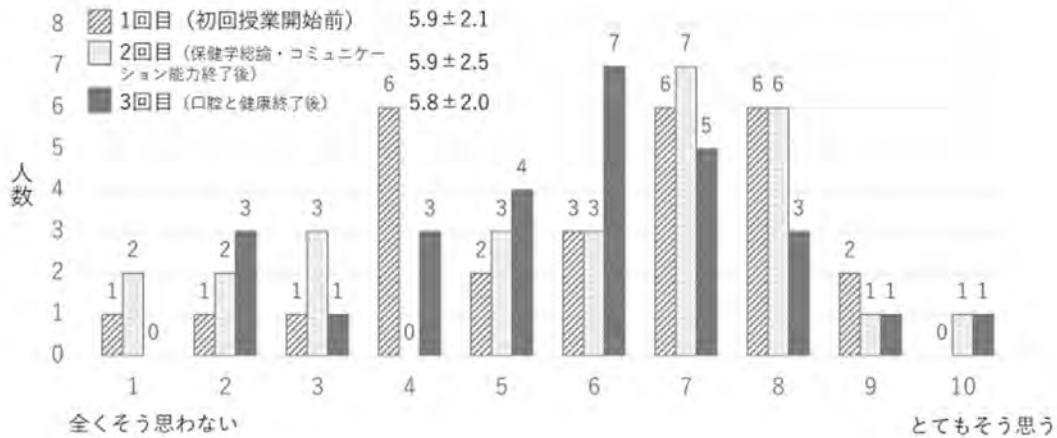


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全くそう思わない)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
4	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
5	1 (3.6%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)
6	1 (3.6%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
7	10 (35.7%)	6 (21.4%)	8 (28.6%)
8	6 (21.4%)	12 (42.9%)	8 (28.6%)
9	7 (25.0%)	3 (10.7%)	2 (7.1%)
10 (とてもそう思う)	3 (10.7%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)
合計	28	28	28

1回目は7、2回目は8、3回目は7と8が最も多かった。

8. あなたはコミュニケーション力があると思いますか？

質問8.あなたはコミュニケーション力があると思いますか？



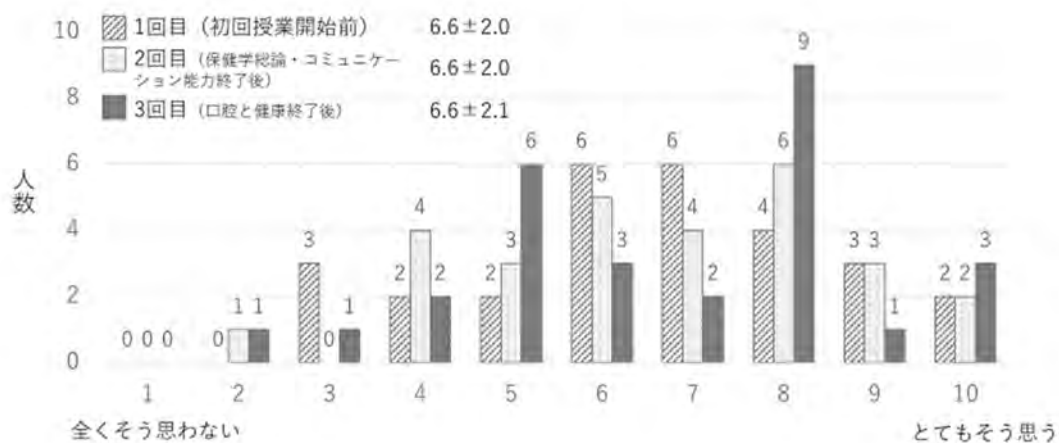
	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全くそう思わない)	1 (3.6%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)
2	1 (3.6%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)
3	1 (3.6%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)
4	6 (21.4%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)
5	2 (7.1%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)
6	3 (10.7%)	3 (10.7%)	7 (25.0%)
7	6 (21.4%)	7 (25.0%)	5 (17.9%)
8	6 (21.4%)	6 (21.4%)	3 (10.7%)
9	2 (7.1%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)
10 (とてもそう思う)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)
合計	28	28	28

1回目は4と7と8、2回目は7、3回目は6が最も多かった。



## 9. あなたは自分のことを肯定できますか？

### 質問9.あなたは自分のことを肯定できますか？

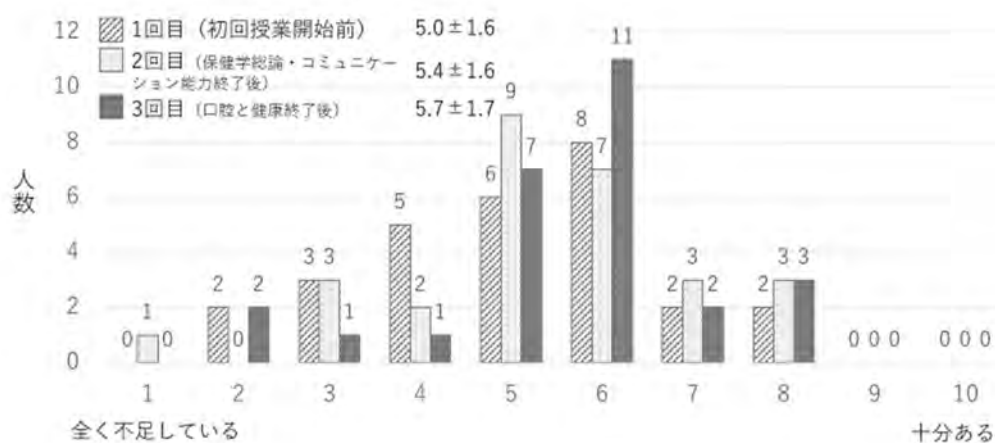


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全くそう思わない)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2	0 (0.0%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)
3	3 (10.7%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
4	2 (7.1%)	4 (14.3%)	2 (7.1%)
5	2 (7.1%)	3 (10.7%)	6 (21.4%)
6	6 (21.4%)	5 (17.9%)	3 (10.7%)
7	6 (21.4%)	4 (14.3%)	2 (7.1%)
8	4 (14.3%)	6 (21.4%)	9 (32.1%)
9	3 (10.7%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)
10 (とてもそう思う)	2 (7.1%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)
合計	28	28	28

1回目は6と7、2回目は8、3回目は8が最も多かった。

## 10. 基礎学力について

### 質問10.基礎学力について

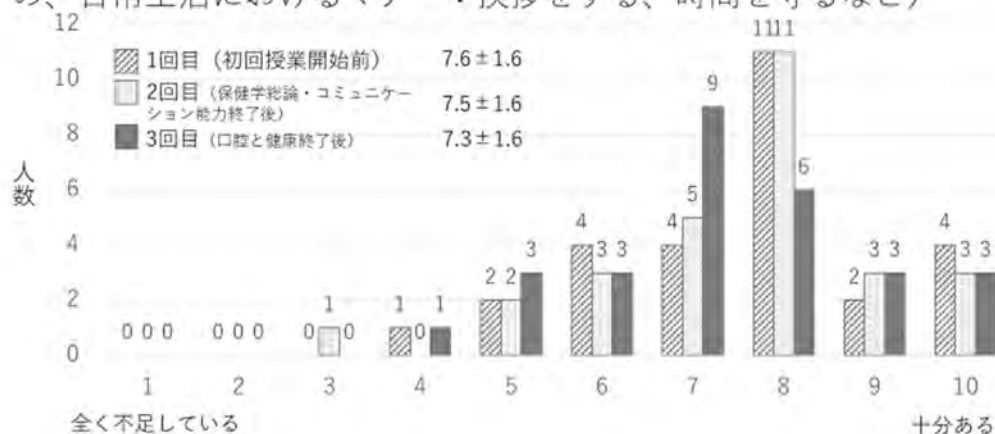


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く不足している)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
2	2 (7.1%)	0 (0.0%)	2 (7.4%)
3	3 (10.7%)	3 (10.7%)	1 (3.7%)
4	5 (17.9%)	2 (7.1%)	1 (3.7%)
5	6 (21.4%)	9 (32.1%)	7 (25.9%)
6	8 (28.6%)	7 (25.0%)	11 (40.7%)
7	2 (7.1%)	3 (10.7%)	2 (7.4%)
8	2 (7.1%)	3 (10.7%)	3 (11.1%)
9	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10 (十分ある)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>27</b>

1回目は6、2回目は5、3回目は6が最も多かった。

11. 基礎的知識・技能について（ニュースなどで得る社会情勢や法律、スマホやPCを使いこなすなど科学技術に関するもの、日常生活におけるマナー：挨拶をする、時間を守るなど）

質問11.基礎的知識・技能について（ニュースなどで得る社会情勢や法律、スマホやPCを使いこなすなど科学技術に関するもの、日常生活におけるマナー：挨拶をする、時間を守るなど）

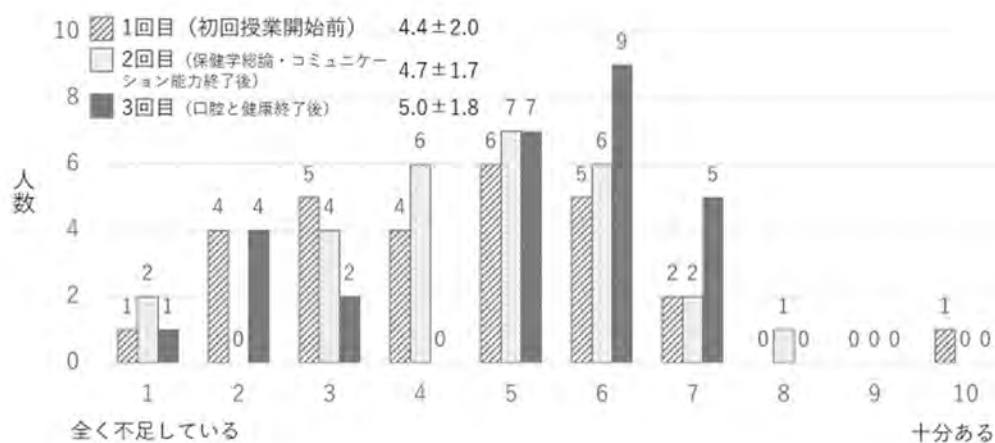


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く不足している)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
4	1 (3.6%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)
5	2 (7.1%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)
6	4 (14.3%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
7	4 (14.3%)	5 (17.9%)	9 (32.1%)
8	11 (39.3%)	11 (39.3%)	6 (21.4%)
9	2 (7.1%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
10 (十分ある)	4 (14.3%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)
合計	28	28	28

1回目は8、2回目は8、3回目は7が最も多かった。

## 12. 学習習慣について

### 質問12.学習習慣について

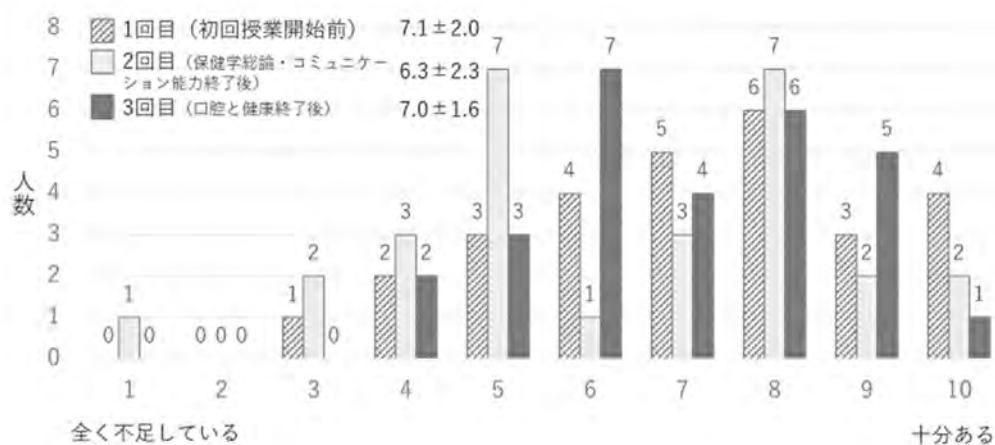


	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く不足している)	1 (3.6%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)
2	4 (14.3%)	0 (0.0%)	4 (14.3%)
3	5 (17.9%)	4 (14.3%)	2 (7.1%)
4	4 (14.3%)	6 (21.4%)	0 (0.0%)
5	6 (21.4%)	7 (25.0%)	7 (25.0%)
6	5 (17.9%)	6 (21.4%)	9 (32.1%)
7	2 (7.1%)	2 (7.1%)	5 (17.9%)
8	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
9	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10 (十分ある)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は5、2回目は5、3回目は6が最も多かった。

### 13. 規則正しい生活習慣について

#### 質問13.規則正しい生活習慣について



	1回目 回答数(%)	2回目 回答数(%)	3回目 回答数(%)
1 (全く不足している)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)
2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3	1 (3.6%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)
4	2 (7.1%)	3 (10.7%)	2 (7.1%)
5	3 (10.7%)	7 (25.0%)	3 (10.7%)
6	4 (14.3%)	1 (3.6%)	7 (25.0%)
7	5 (17.9%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)
8	6 (21.4%)	7 (25.0%)	6 (21.4%)
9	3 (10.7%)	2 (7.1%)	5 (17.9%)
10 (十分ある)	4 (14.3%)	2 (7.1%)	1 (3.6%)
<b>合計</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>28</b>

1回目は8、2回目は5と8、3回目は6が最も多かった。

## 5.2.2 生徒の感想

生徒が提出したレポートより感想を掲載する(一部抜粋)。

### 【単元：保健学総論】

- ・4回の講義を通してまず思ったことは、自分の進路について講義を受ける前よりも確実に色々な興味を持てたことが良かったと思う。
- ・4回の講義を通して、まず医療にはたくさんの職業があることを知れました。医療に係る職業につくため、どのような大学に行くべきなのか、一つひとつ知ることができました。
- ・自分も早く誰かの力になりたいと思っています。班のみんなで話し合うことによって医療関係の仕事に大切なものは何かを考えることができました。

### 【単元：コミュニケーション能力】

- ・医療におけるコミュニケーションの技術について、普段は普通に看護師や医師の方とお話するときにあまり意識していなかったけど、思い返してみれば凄く丁寧だったことや、共感してくれたことが多かったと感じました。実際にとっても話しやすかったので、今日の授業で学んだ傾聴と共感が大事だということに気づきました。
- ・医療従事者として働く上での倫理観・考え方など医療従事者としてだけでなく人と人が関わる上での考え方としても知ることができ、普段のコミュニケーションにおいてもどう影響するか考えられた。この内容は自分の進路において役に立つことなのでしっかり活用していきたいと思う。

### 5.2.3 実証評価・総評

実証授業を行った歯科衛生士養成校の教員、高等学校の科目担当教員らによる評価・総評を報告する。

#### 1. プログラム開発・運用部会より

10月からの実証授業を、専門学校及び大学における専門性を持った講師（歯科医師・歯科衛生士）が講義をすることで、学生は高校では学べない先取りした体験をすることができたのではないかと考える。また、実証授業の中で記入してもらったワークシートの内容から、健康科学αの受講生は、ほぼ全員が、医療専門職を希望していることが判明した。このことから、今回の健康科学αにおける単元の流れとして、キャリア教育を中心とした内容を最初に持ってきていたが、次年度は、「口腔と健康」に関する専門的な内容からスタートすることによって医療専門職へのモチベーションをあげていく方向で再実証していくこととした。

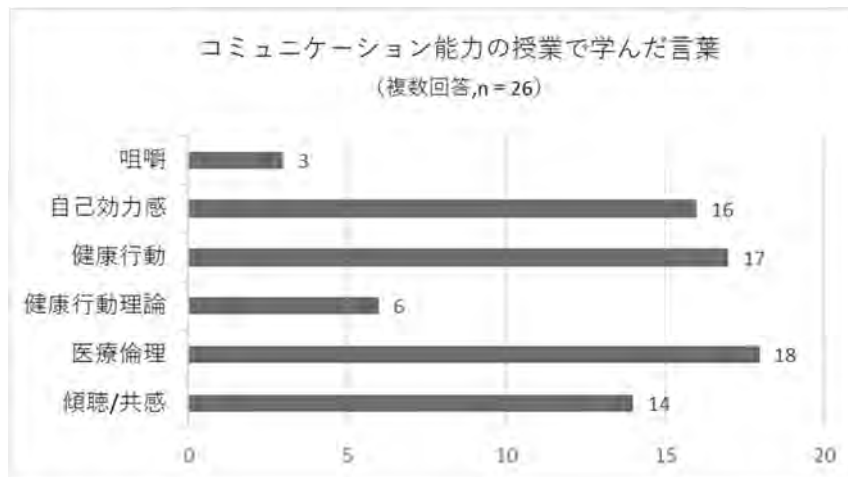
#### 【各單元における実証授業の内容について（改善点含む）】

##### 〈保健学総論〉

- ・保健学総論における医療職紹介動画（5分程度）を視聴している間に、ワークシートを書く学生がいたので、指導者は、動画に集中させるよう声掛けが重要である。
- ・パワーポイントの内容を、ワークシートに転記させる時間が45分の中で工面することが難しい場合があったので、レジュメの配布を含め検討し、再検証したい。

##### 〈コミュニケーション能力〉

- ・医療専門職共通の医療倫理に基づくコミュニケーションの態度と歯科衛生士が行う保健行動変容におけるコミュニケーションの理論・技術について、パワーポイントとオリジナル動画およびワークシートを併用した。4回授業終了後のレポートにより、ほとんどの生徒が各回行動目標のキーワードを理解し自己のキャリアプランに繋げて認識していることを確認した。
- ・今後は、授業の中で各回の重点事項を学生自身にじっくり考えさせる機会を確保するため、時間配分等を見直し次年度に再検証したい。



#### 〈口腔と健康〉

・内容、全身から口腔へという流れで、パワーポイントとワークシートによる講義形式の授業を行った。各専門性のある講師からの講義を受けることによって、より、医療職に興味を持つことができたと考えられる。今後、ワークシートの記入時間も確保できるよう、内容を検討し、再検証していきたい。

#### 2.実証授業実施校（福岡講倫館高校）より

・生徒が将来希望する分野について、大学や短期大学、専門学校の先生方（以下「先生方」と表記）から直接ご指導いただける貴重な機会であった。先生方には、複数回にわたる会議で、指導内容の検討を重ねていただき、高等学校での授業は大変充実していた。

・レポートの設問作成については、当該単元の授業が終わってから先生方に依頼したため、次の単元に入ってから生徒にレポート課題を提示することとなった。単元によっては、生徒の記述内容が、次の単元の影響を少なからず受けていたものもあったようである。授業内容の検討ができた段階で、レポートの内容についても検討する必要がある。

#### 3.受講生からのアンケート結果より

健康科学選択者に対して、本授業前・保健学総論及びコミュニケーションスキル受講後・口腔と健康受講後の三回、アンケート調査を行った。「医療専門職に関心があるか」「医療職に向いていると思うか」といった項目に対しては、1回目より2回・3回目が若干高くなる傾向がみられたが、その他の「自己肯定感」や「基礎的知識・技能について」の項目に関しては、初回から高値を示しており、大きな変化は見られなかった。また、本事業の最大の目的である歯科衛生士に対する関心度に大きな変化が見られなかったのは、本授業の中で行ったワークシートからも既に、自分が希望する医療職種が決まっている学生が多いという結果と連動していると考えられる。



## 5.2.4 授業風景

### 保健学総論



### コミュニケーション能力



### 口腔と健康

